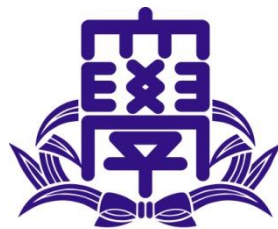


F D活動報告書

第 13 号 (2017 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2018 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 2017 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2017 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要.....	7
(2) 2017 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要.....	41
(3) 2017 年度授業評価アンケート（系平均）結果概要.....	83
III 2017 年度授業評価アンケートフォーム.....	99
IV 講演会	103

はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設からこれまで10年間を超える会計専門職教育を行ってきた。この10年以上の期間において、教育体制、カリキュラムおよび教育内容・方法など常に研究科として見直し、改善を試みてきた。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育を目指して取り組んできた。このような取り組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動である。2018年度より実施される入学定員の見直しやカリキュラム改革なども、FD活動の成果の一つである。そして、このFD活動を推進してきたのが教務・FD委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD委員会である。このFD活動報告書は、FD活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、このFD活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心にして、本研究科が行ったFD活動をまとめたものである。FD活動報告書は、これまで第1号から第12号まで作成され、本書は2017年度のFD活動をまとめた第13号である。本研究科はこれまで2度の分野別認証評価を受けたが、評価基準のすべてを満たしていると評価され、「認定会計大学院」の称号を得ている。このFD活動報告書は、本研究科の自己点検・評価報告書と合わせて、評価を受けるにあたっての資料として提出されている。なお、2018年度は3度目の分野別認証評価を受審する予定である。

我々は、今後もこのFD活動を通じて、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD活動を継続して行い、FD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

2018年3月

会計研究科長 三島 徹也

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2017年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。最終講義日の前回である第14回目の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
導入科目群	理論科目	選択科目	中級商業簿記	1	1	財務会計 春・秋 7・41
	理論科目	選択科目	中級工業簿記	1	1	管理会計 春・秋 8・42
基本科目群	理論科目	選択科目	会計専門職業倫理	1	2	横断科目 春・秋 9・43
		選択科目	企業法	1	1	法 律 春前・秋 10・44
	理論科目	選択科目	上級簿記	1	1	財務会計 春前・秋 11・12・45
		選択科目	上級財務会計論	1	1	財務会計 春後・秋 13・46
		選択科目	上級原価計算論	1	1	管理会計 春前・秋 14・15・47
		選択科目	上級管理会計論	1	1	管理会計 春後 16
		選択科目	監査制度論	1	1	監 査 春後・秋 17・48
		選択科目	監査基準	1	1	監 査 春・秋 18
		選択科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目 春
		選択科目	会計基準論	2	1	財務会計 春 19
	理論科目	選択科目	会計制度論	2	1	財務会計 秋 49
		選択科目	財表作成簿記	2	1	財務会計 秋 50
		選択科目	戦略管理会計論	2	1	管理会計 春
		選択科目	上級税務会計論	2	1	税務会計 春 20
		選択科目	租税法会計論	2	1	税務会計 秋 51
		選択科目	公会計論	2	1	行 政 秋 52
		選択科目	監査実施論	2	1	監 査 春 21
		選択科目	監査報告論	2	1	監 査 秋 53
		選択科目	商法	2	1	法 律 春 22
		選択科目	会社法	2	1	法 律 秋 54
		選択科目	民法(総則・物権)	2	1	法 律 秋
		選択科目	経営学理論	2	1	経 営 春
		選択科目	インベストメント論	2	1	ファイナンス 秋 55
		選択科目	コーポレート・ファイナンス論	2	1	ファイナンス 秋 56
		選択科目	ミクロ経済学	2	1	経済・IT 秋
		選択科目	統計学	2	2	経済・IT 秋
		選択科目	国際会計基準論	2	2	財務会計 秋 57
		選択科目	国際会計制度論	2	2	財務会計 春
		選択科目	企業分析論	2	2	管理会計 春 23
		選択科目	コストマネジメント論	2	2	管理会計 秋
		選択科目	上級税務戦略論	2	2	税務会計 秋
		選択科目	公監査論	2	2	行 政 秋 58
		選択科目	国際監査制度論	2	2	監 査 秋
		選択科目	金融商品取引法	2	2	法 律 春
		選択科目	上級会社法	2	2	法 律 春 24
		選択科目	租税法理論	2	2	法 律 秋 59
		選択科目	民法(債権)	2	2	法 律 春
		選択科目	経営戦略論	2	2	経 営 秋
		選択科目	経営組織論	2	2	経 営 秋
		選択科目	資本市場論	2	2	ファイナンス 春 25
		選択科目	マクロ経済学	2	2	経済・IT 春
発展科目群	理論科目	選択科目	会計事例研究	2	1	財務会計 春 26
		選択科目	管理会計事例研究	2	1	管理会計 冬集
		選択科目	監査事例研究	2	1	監 査 秋
		選択科目	基本会計プログラム演習	2	1	経済・IT 秋 60
		選択科目	基本監査プログラム演習	2	1	経済・IT 秋 61
		選択科目	BATIC演習	2	1	経済・IT 秋
		選択科目	IFRS実務	2	1	財務会計 秋
		選択科目	会社経理実務	2	1	財務会計 春 27
		選択科目	ディスクロージャー実務	2	2	財務会計 秋 62
		選択科目	税務会計事例研究	2	2	税務会計 春
	実践科目	選択科目	企業法判例演習	2	2	法 律 秋
		選択科目	起業・株式公開事例研究	2	2	経 営 春
		選択科目	実践会計プログラム演習	2	2	経済・IT 秋 63
		選択科目	実践監査プログラム演習	2	2	経済・IT 夏集
	個別演習科目	選択科目	ソリューション・イン・アカデミック	2	1	個別演習科目 秋 64-67
		選択科目	ソリューション・イン・プロフェッショナル	2	2	個別演習科目 春 28-31
		選択科目	ソリューション・イン・エキスパート	2	2	個別演習科目 秋 68-72
		選択科目	論文指導・修士論文(基礎)	2	1	個別演習科目 秋 73-75
		選択科目	論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目 通年 76・77
		選択科目				

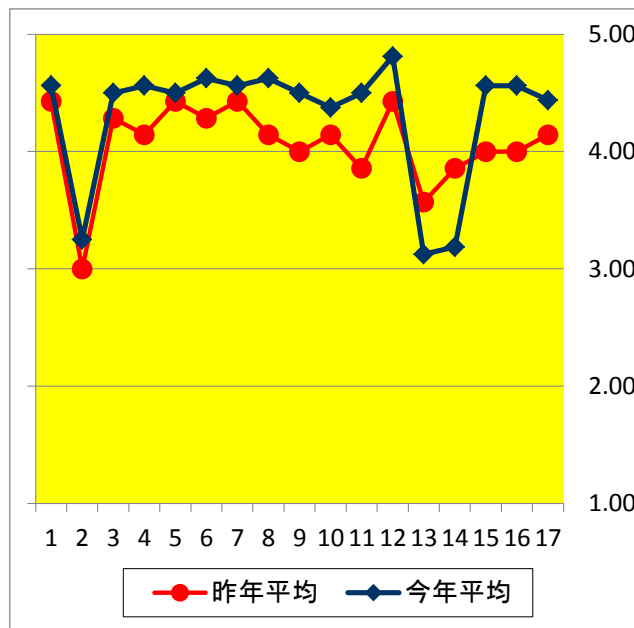
類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁	
横断科目	横断科目	特殊講義（企業経営を取り巻く会計の課題と方向）	2	1	横断科目	秋		
		特殊講義（証券アナリスト協会寄附講座・証券アナリストの基礎）	2	1	横断科目	春		
		特殊講義（日本内部監査協会寄附講座・実践内部統制）	2	1	横断科目	秋後	78	
		特殊講義（コンサルティング実務）	2	1	横断科目	秋	79	
		特殊講義（労務と会計）	2	1	横断科目	秋前		
		特殊講義（税務と会計）	2	1	横断科目	秋前		
		特殊講義（企業情報の読み方と使い方）	2	1	横断科目	春後		
		特殊講義（ビジネス法務と会計）	2	1	横断科目	春前		
		特殊講義（あらた監査法人寄附講座・地域の発展と民間のイニシアチブ）	2	1	横断科目	春後	32	
	応用科目群	選択必修科目	中小企業金融論	2	1	ファイナンス	秋	
			会計検査制度論	2	1	監 査	秋	
			実践コミュニケーション	2	1	経済・IT	秋	
			英文会計論	2	2	財務会計	秋	
			会計戦略論	2	2	財務会計	春	33
			資産会計論	2	2	財務会計	春	34
			負債・資本金会計論	2	2	財務会計	春	35
			企業結合会計	2	2	財務会計	不開講	
			企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	春	
			マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	秋	
		国際税務戦略論	2	2	税務会計	春		
		保証業務論	2	2	監 査	春	36	
		内部監査論	2	2	監 査	春		
		不正摘発監査論	2	2	監 査	秋	80	
		法人税法	2	2	法 律	春	37	
		行政法	2	2	行 政	春		
		プロダクト・マネジメント論	2	2	経 営	不開講		
		国際経営論	2	2	経 営	秋		
リスク分析論		2	2	ファイナンス	春			
国際財務戦略論		2	2	ファイナンス	不開講			
公共経済学	2	2	経済・IT	秋				
XBRL論	2	2	経済・IT	秋				
実践科目	国際会計事例研究	2	2	財務会計	春			
	国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	春			
	国際税務会計事例研究	2	2	税務会計	秋			
	公会計・公監査事例研究	2	2	行 政	秋			
	国際監査事例研究	2	2	監 査	秋			
	企業再生事例研究	2	2	経 営	秋			
	国際コミュニケーション論	2	2	経済・IT	秋			
	会計系科目	平均	財務会計系					83
			管理会計系					84
税務会計系							85	
監査系							86	
非会計系科目	平均	法律系					87	
		経営系						
		ファイナンス系					88	
		行政系					89	
		経済・IT系					90	
		個別演習科目（ソリューション・イン・アカデミック）					91	
		個別演習科目（ソリューション・イン・プロフェッショナル）					92	
		個別演習科目（ソリューション・イン・エキスパートイズ）					93	
		個別演習科目（論文指導・修士論文）					94・95	
系別平均							96	

※掲載対象科目は、2017年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

Ⅱ－(1)．2017 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	17	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.56	5	5	4
2	3.00	3.25	3	5	3
3	4.29	4.50	5	5	3
4	4.14	4.56	5	5	4
5	4.43	4.50	5	5	3
6	4.29	4.63	5	5	4
7	4.43	4.56	5	5	4
8	4.14	4.63	5	5	4
9	4.00	4.50	5	5	3
10	4.14	4.38	5	5	3
11	3.86	4.50	5	5	3
12	4.43	4.81	5	5	4
13	3.57	3.13	3	5	1
14	3.86	3.19	3	5	1
15	4.00	4.56	5	5	4
16	4.00	4.56	5	5	4
17	4.14	4.44	5	5	3
回答者数	7	16			



受講生の傾向

簿記の習熟度が低い学生が多く、受講生の大半が留学生であった。この点は昨年度と同様であったが、今年度は勉強意欲の高い学生が多く、4月にほぼ初学者の状態からスタートして、6月に日商簿記2級に合格する者が何名かいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全体説明よりも個別の質問対応を重視して、全員の理解を一人ずつ確認して回った。また、定期的に何回かのミニテストを行って受講生のモチベーションを維持することに努めるとともに、ミニテストは即座に採点して学生にフィードバックした。とくに今年度は、本研究科の修了生で商学研究科博士後期課程に在籍中の学生にTAを依頼して、受講生の学習をフォローしてもらった。また、課外プログラムとしてスキルアップ講座(導入)を開設し、受講生の学習をフォローしてもらった。当講座の講師には講義にも有志で参加してもらい、逆に、講義の担当教員も当講座に随時参加して、講義と講座で連携を図りながら受講生の学習をフォローした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

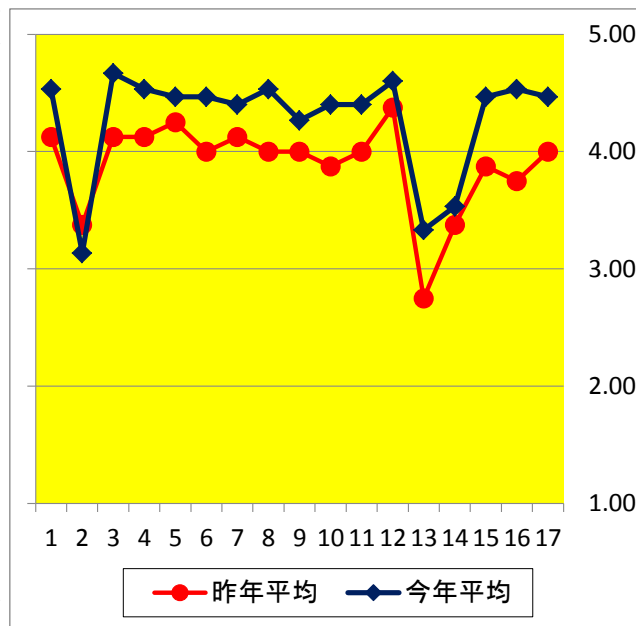
例年、講義中の質問対応は教員1名で行っていたが、今年度は4名(教員、TA、スキルアップ講座の講師、博士課程の大学院生)で行った。さらに、今年度は課外で日商簿記2級のスキルアップ講座を開設して、受講生全員に必ず出席するように促した。これ以上のフォロー体制を教学として用意することは難しいが、スキルアップ講座の出席状況は毎回数名程度であり、受講生はフォロー体制を活かしていない。次年度も、可能であれば同様のフォロー体制で臨み、受講生には大学院生としての自覚と勉強意欲、緊張感をもって日常の勉学に励むように指導する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のフォロー体制は、昨年度のものをベースとして、その内容を充実させるものであった。今年度は勉強意欲の高い学生が多く、スキルアップ講座(導入)への出席率も昨年度より高かったが、全員出席を原則としていたことからすれば、出席率はまだ低いと言わざるを得ない。一部の学生にヒアリングしたところによると、学部生のときにはそれほど勉強しなくても単位が取れてきたことから、大学院でも同程度の心構えであったという。次年度も、可能であれば同様のフォロー体制で臨み、受講生には大学院生としての自覚と勉強意欲、緊張感をもって日常の勉学に励むように指導していきたい。

科 目	中級工業簿記(A)			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	19	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.13	4.53	5	5	4
2	3.38	3.13	3	5	2
3	4.13	4.67	5	5	4
4	4.13	4.53	5	5	4
5	4.25	4.47	5	5	3
6	4.00	4.47	5	5	2
7	4.13	4.40	5	5	2
8	4.00	4.53	5	5	2
9	4.00	4.27	5	5	3
10	3.88	4.40	5	5	3
11	4.00	4.40	4・5	5	3
12	4.38	4.60	5	5	3
13	2.75	3.33	3	5	1
14	3.38	3.53	3・5	5	1
15	3.88	4.47	5	5	3
16	3.75	4.53	5	5	4
17	4.00	4.47	4	5	4
回答者数	8	15			



受講生の傾向

本講義は、簿記の知識が十分でない学生を対象とした導入科目である。本年の受講者も、前年度と同様に、まじめに出席する受講者が多かったと感じている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度のアンケートでは評点がやや下がったことを受けて、学生に対してさらにきめの細かい対応を行うように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

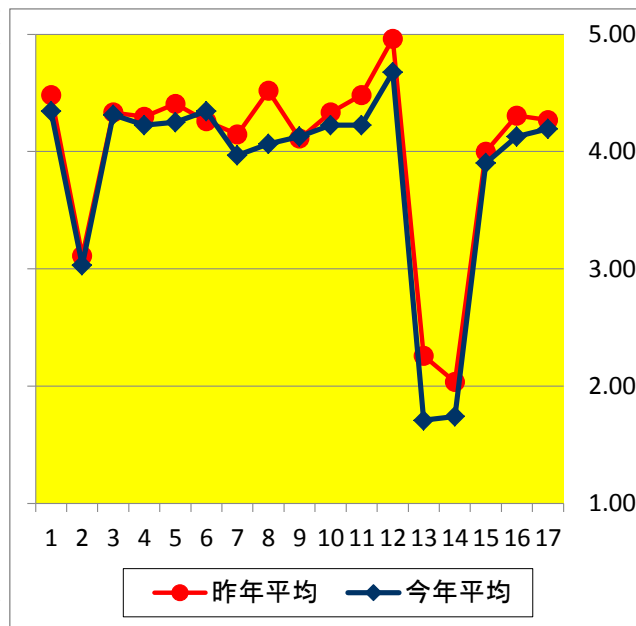
前回と同じような対応を継続したにもかかわらず、今回は前回よりも評点が減少している。今年度の評価も比較的良いとはいえ、今後は学生に対して、よりきめの細かい対応を行うことが必要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年よりも評点がやや改善しているため、今年度の対応をさらに継続することが重要であると考えている。

科 目	会計専門職業倫理(A)			
配当年次	2	開講時限	春土1	
受講者数	33	回答者数	32	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	4.34	4	5	3
2	3.11	3.03	3	5	2
3	4.33	4.31	4	5	2
4	4.30	4.23	4	5	2
5	4.41	4.25	4	5	2
6	4.26	4.34	4	5	3
7	4.15	3.97	4	5	2
8	4.52	4.06	4	5	3
9	4.11	4.13	4	5	3
10	4.33	4.23	4	5	3
11	4.48	4.23	4・5	5	2
12	4.96	4.68	5	5	3
13	2.26	1.71	1	5	1
14	2.04	1.74	1	5	1
15	4.00	3.90	4	5	1
16	4.31	4.13	4	5	1
17	4.27	4.19	5	5	3
回答者数	27	32			



受講生の傾向

試験合格者、短答式合格者等の知識レベルが高い者が受講していた反面、受講生が33名と多かったこともあり、あまり講義に対して興味を示さない受講生もいた。

全体的には、レベルは高く、講義中に行ったミニテストの結果をみる限り、講義の理解度は高いと思われた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も受講生が33名と多く、受講生間のレベル格差は大きかった。また、試験組、就職組、留学生とそれぞれの問題意識も相違しており、受講生に満足いただける講義ができたかについては、少々心もとないところがあった。事例問題を中心に、少しでも講義に興味をもってもらえるよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

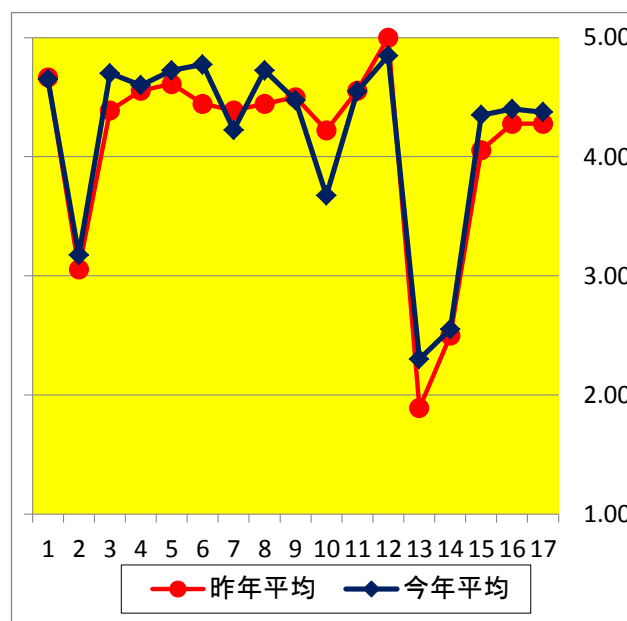
今回はここ数年の中で最も人数の多いクラスとなった。その分、学習の進んだ者と日本語の理解も難しい者等のレベルの開きが大きかった。昨年の課題は克服できたと考えているが、全般的に満足度を向上させる努力が必要。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

必須科目であり、受講生も多いため、受講生が興味を持っている最新の事例等を織り込んだ講義を行うことが必要に思えた。

科 目	企業法(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3	
受講者数	41	回答者数	40	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.65	5	5	3
2	3.06	3.18	3	5	2
3	4.39	4.70	5	5	4
4	4.56	4.60	5	5	3
5	4.61	4.73	5	5	3
6	4.44	4.78	5	5	4
7	4.39	4.23	5	5	2
8	4.44	4.73	5	5	3
9	4.50	4.48	5	5	2
10	4.22	3.68	5	5	1
11	4.56	4.55	5	5	3
12	5.00	4.85	5	5	4
13	1.89	2.30	2	5	1
14	2.50	2.55	2	5	1
15	4.06	4.35	5	5	3
16	4.28	4.40	5	5	3
17	4.28	4.38	5	5	2
回答者数	18	40			



受講生の傾向

本年度は、履修者数が41名でかつ1クラス構成であったので、1クラス授業としては多くの人数が受講した。受講生は多かったがほとんどの学生が授業に対してまじめにかつ熱心に参加し、積極的に参加していた。企業法は、基本科目（しかもコースにかかわらず必修科目）であって、かつ会計未修者の学生でも履修可能な科目となっており、春学期に履修登録する学生が多いが、一方で春学期に公認会計士試験の合格を目指す学生などは秋学期に履修することもある。難易度としてはあまり高いとは感じられていないようで、法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、授業進度も比較的ちょうど良いようである。ただ、論述式および択一式の小テストなどを実施しているのも、予習や復習の時間がもう少し取られていればと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法の授業は法学初学者に対して、法学の基礎を教えることのまた重要な役割であるので、今年度は企業法の授業の中で法学の基礎的な知識や用語の意味などを極力教えるように心がけた。中でも、授業期間中3回の論文式小テストを行ったが、最初は論文作成が難しかった受講生も論文作成の練習回数を重ねるごとに論文を作成することができるようになっていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

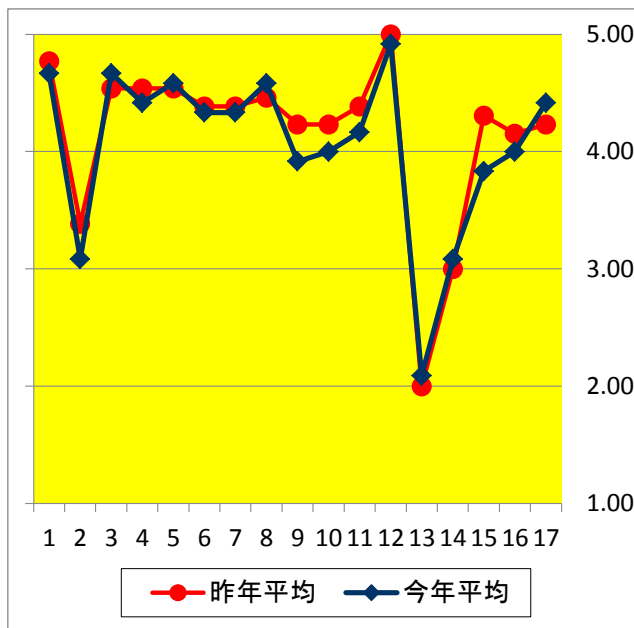
本科目は、企業法の基礎を学習するとともに、法学の基礎についてもここで習得することを目的としている。よって、基本的な法律用語等も含めて法的な思考方法ないし考え方を身に付けられるようにし、今後の法律系の授業をスムーズに受けられるようにしていきたい。よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応としては、やはり予習と復習により取り組んでもらえるよう心掛けたい。多くの科目がある中で、企業法にのみ時間を割くのは難しいであろうから、例えば、小テストの前には当該範囲の内容を予習・復習をするというような授業の流れにしたい。特に論文式の小テストについては、その論文作成の練習をすることで論文作成能力が上がる機会があるので、効果的な方法で指導を行い全体の授業の中でバランスよくそれを組み入れる必要がある。

科 目	上級簿記(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	12	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.77	4.67	5	5	1
2	3.38	3.08	3	4	2
3	4.54	4.67	5	5	3
4	4.54	4.42	5	5	3
5	4.54	4.58	5	5	3
6	4.38	4.33	4	5	4
7	4.38	4.33	4	5	4
8	4.46	4.58	5	5	4
9	4.23	3.92	5	5	2
10	4.23	4.00	4	5	2
11	4.38	4.17	5	5	3
12	5.00	4.92	5	5	4
13	2.00	2.09	2	5	1
14	3.00	3.08	5	5	1
15	4.31	3.83	3・5	5	2
16	4.15	4.00	4	5	2
17	4.23	4.42	4	5	4
回答者数	13	12			



受講生の傾向

講義展開は昨年と同様であるが、受講生のレベル差が大きいと感じることが多かった。アンケート結果は全体的に昨年と同様の傾向を示しているが、気になる点として、宿題及び小テストの回数等(質問9)が下がっている。これをクラス別に比べると、A1クラスが3.92に対して、A2クラスは4.33である。この講義は週2回のクォーター制の科目であるため、週1回のセメスター制の科目と比べると宿題等を多いと感じるかもしれない。勉強時間を比べてみると、予習(質問13)はA1クラスが2.09に対してA2クラスは1.67、復習(質問14)はA1クラスが3.08に対してA2クラスは2.89である。このことから、A1クラスはA2クラスよりも授業外学習に比較的に真面目に取り組んでおり、その分だけ宿題等をより負担に感じた可能性がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、より基本的で重要度の高い論点は、優先的に取り上げて説明した。さらに、講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するように工夫した。問題演習の時間は、重要な基本例題を解いてもらい、質問があればその場で個別に対応し、間違いがあれば指摘して指導するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

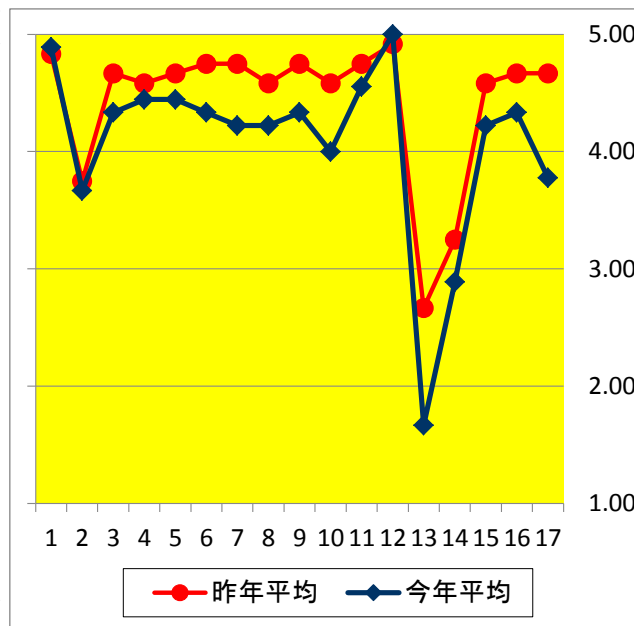
今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の勉学意欲や簿記の習熟度に差があることはやむを得ないことであり、それによってアンケート結果が毎年安定しないこともまた当然である。しかしながら、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続していく。

科 目	上級簿記(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.89	5	5	4
2	3.75	3.67	3・4	5	3
3	4.67	4.33	4	5	4
4	4.58	4.44	5	5	3
5	4.67	4.44	5	5	3
6	4.75	4.33	5	5	3
7	4.75	4.22	4	5	3
8	4.58	4.22	4	5	3
9	4.75	4.33	4・5	5	3
10	4.58	4.00	4	5	3
11	4.75	4.56	5	5	4
12	4.92	5.00	5	5	5
13	2.67	1.67	1	3	1
14	3.25	2.89	2	5	1
15	4.58	4.22	5	5	3
16	4.67	4.33	4	5	4
17	4.67	3.78	4	5	2
回答者数	13	9			



受講生の傾向

講義展開は昨年と同様であるが、受講生のレベル差が大きいと感じることが多かった。アンケート結果は全体的に昨年よりも低い傾向を示しているが、昨年の結果が例年になく高いことから、昨年の受講生が特異であった可能性がある。今年の結果の中でも、とくに気になる点は、予習時間(質問13)が大きく下がっていることである。これをクラス別に比べると、A1クラスが2.09に対して、A2クラスは1.67である。ちなみに、復習時間(質問14)は、A1クラスが3.08に対して、A2クラスは2.89である。このことから、A2クラスはA1クラスよりも消極的で、勉強意欲が低かった可能性がある。この傾向は、昨年と今年の質問13と14のポイントを比較すると、いっそう顕著に見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、より基本的で重要度の高い論点は、優先的に取り上げて説明した。さらに、講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するように工夫した。問題演習の時間は、重要な基本例題を解いてもらい、質問があればその場で個別に対応し、間違いがあれば指摘して指導するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

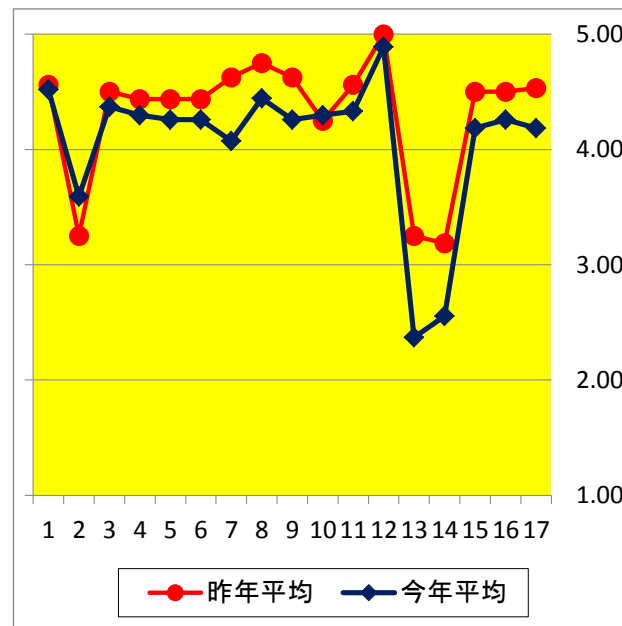
今回のアンケート結果を受けて、昨年のA2クラスは全体的に消極的であり、特異であった可能性が示唆される。一方で、今年のA2クラスは全体的に積極的であり、これもまた特異である可能性がある。いずれにせよ、今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の勉強意欲や簿記の習熟度に差があることはやむを得ないことであり、それによってアンケート結果が毎年安定しないこともまた当然である。しかしながら、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続していく。

科 目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	30	回答者数	27

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.52	5	5	3
2	3.25	3.59	3	5	3
3	4.50	4.37	5	5	3
4	4.44	4.30	4	5	3
5	4.44	4.26	5	5	1
6	4.44	4.26	5	5	3
7	4.63	4.07	4	5	1
8	4.75	4.44	5	5	3
9	4.63	4.26	4・5	5	1
10	4.25	4.30	5	5	3
11	4.56	4.33	5	5	3
12	5.00	4.89	5	5	3
13	3.25	2.37	2	5	1
14	3.19	2.56	3	5	1
15	4.50	4.19	5	5	2
16	4.50	4.26	4	5	3
17	4.53	4.19	4・5	5	2
回答者数	16	27			



受講生の傾向

概ね全ての受講生が、真摯に受講していたと感じる。予習・復習の時間が平均1時間ほどあり、十分に準備をして受講していると思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の受講生は、基礎的な知識が高く学習意欲も高めであると想定し、より深く正確な理解ができるように促した。個別の質問であっても、受講生全体に解説した方がよいと思われる内容については、質問者に了解を得て、受講生全体に解説と理解のポイントを説明した。また、講義の冒頭に前回の講義の内容の概略を確認した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

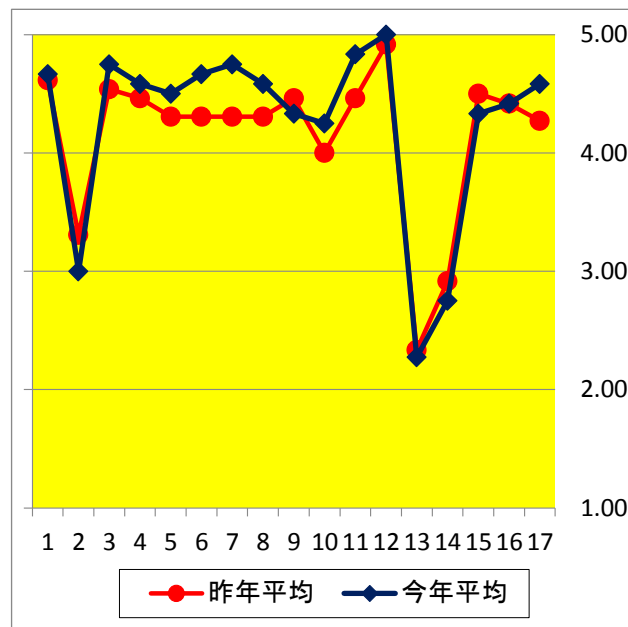
受講生の傾向で示した状況を認識しつつ、受講生の理解度に配慮しつつ、内容の繰り返しと追加的なより深い内容を盛り込むといった工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期の受講生の傾向を踏まえ、受講生の学習意欲や理解度に合わせ、他との関連性も理解できるような内容を含めた講義内容となるように工夫を講じるつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	13	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.67	5	5	1
2	3.31	3.00	3	3	3
3	4.54	4.75	5	5	4
4	4.46	4.58	5	5	4
5	4.31	4.50	4・5	5	4
6	4.31	4.67	5	5	4
7	4.31	4.75	5	5	4
8	4.31	4.58	5	5	4
9	4.46	4.33	5	5	3
10	4.00	4.25	5	5	3
11	4.46	4.83	5	5	4
12	4.92	5.00	5	5	5
13	2.33	2.27	2	5	1
14	2.92	2.75	2	5	1
15	4.50	4.33	5	5	2
16	4.42	4.42	4	5	4
17	4.27	4.58	5	5	4
回答者数	13	12			



受講生の傾向

会計士試験を目指す学生が多かったため、出席率も高く、また全体的に学生の意識レベルは高かったと感じる。ただし、一部留学生については、同じペースで講義をしても理解が及ばないこともあったので、その点は講義後の質問で個別に対応した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないが、今年度の講義ではできるだけ良問(レジュメとして毎回問題を配付)を解いてもらって計算の理解を徹底させることを意識したのと、原価計算基準の逐条解説を行い計算の背景にある理論についても理解を深めてもらうことを意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

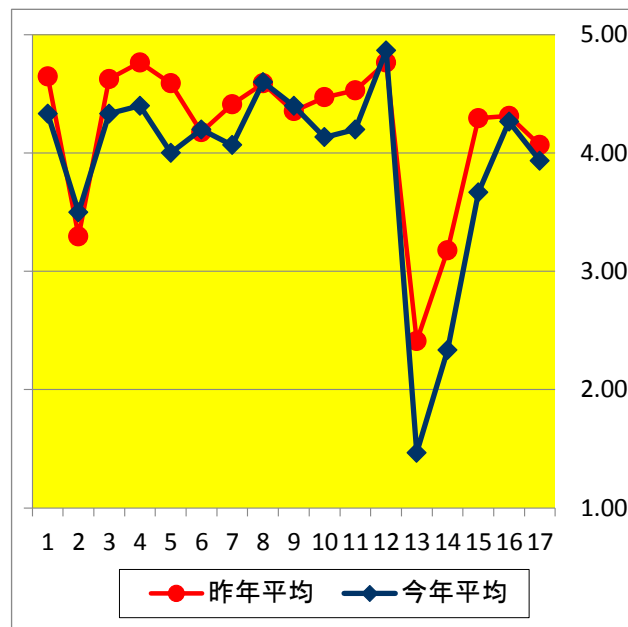
来年度以降はこの科目を担当しないため、これまでの内容(基本的な内容の重要性など)を他の教員に連絡事項として伝えておきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

過年度から使用していたテキストをベースに、毎回のレジュメを加えて講義を行ったが、今後はレジュメに統一化をはかっていきたい(作成する時間があるが…。)網羅的なレジュメを完成させる事を、今後の課題とする。

科 目	上級原価計算論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3	
受講者数	16	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.65	4.33	5	5	3
2	3.29	3.50	3	5	3
3	4.63	4.33	4	5	3
4	4.76	4.40	4・5	5	3
5	4.59	4.00	4	5	2
6	4.18	4.20	4	5	3
7	4.41	4.07	4	5	3
8	4.59	4.60	5	5	3
9	4.35	4.40	4・5	5	3
10	4.47	4.13	5	5	3
11	4.53	4.20	4・5	5	3
12	4.76	4.87	5	5	4
13	2.41	1.47	1	3	1
14	3.18	2.33	2	4	1
15	4.29	3.67	4	5	2
16	4.31	4.27	4	5	3
17	4.07	3.93	3	5	3
回答者数	17	15			



受講生の傾向

会計士試験を目指す学生が多かったため、出席率も高く、また全体的に学生の意識レベルは高かったと感じる。ただし、一部留学生については、同じペースで講義をしていても理解が及ばないこともあったので、その点は講義後の質問で個別に対応した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないが、今年度の講義ではできるだけ良問(レジュメとして毎回問題を配付)を解いてもらって計算の理解を徹底させることを意識したのと、原価計算基準の逐条解説を行い計算の背景にある理論についても理解を深めてもらうことを意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

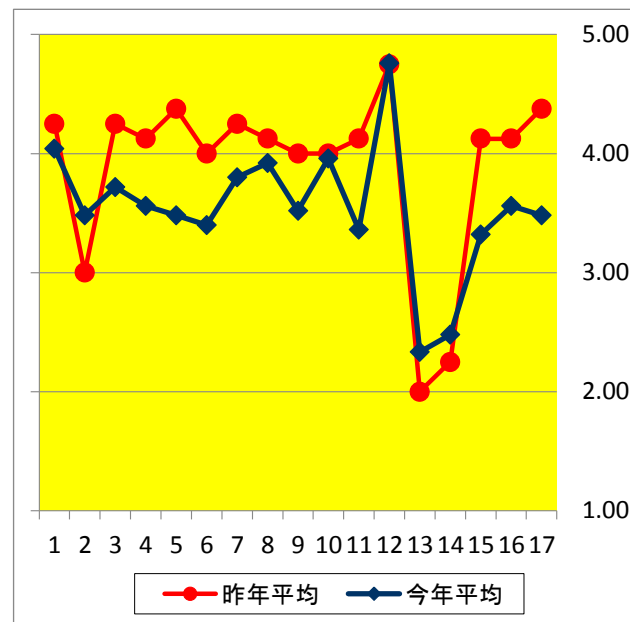
来年度以降はこの科目を担当しないため、これまでの内容(段階的な授業の進め方など)を他の教員に連絡事項として伝えておきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

過年度から使用していたテキストをベースに、毎回のレジュメを加えて講義を行ったが、今後はレジュメに統一化をはかっていきたい(作成する時間があるが…。)網羅的なレジュメを完成させる事を、今後の課題とする。

科 目	上級管理会計論(A1)			
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3	
受講者数	34	回答者数	25	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.04	4	5	1
2	3.00	3.48	3	5	1
3	4.25	3.72	4	5	1
4	4.13	3.56	3	5	1
5	4.38	3.48	3	5	1
6	4.00	3.40	4	5	1
7	4.25	3.80	4	5	1
8	4.13	3.92	4	5	1
9	4.00	3.52	3	5	1
10	4.00	3.96	4	5	1
11	4.13	3.36	4	5	1
12	4.75	4.76	5	5	4
13	2.00	2.33	3	5	1
14	2.25	2.48	3	5	1
15	4.13	3.32	3・4・5	5	1
16	4.13	3.56	4	5	1
17	4.38	3.48	3・5	5	1
回答者数	8	25			



受講生の傾向

受講者の全般的な傾向は、前年度と同様であったと感じている。また、既に管理会計の知識を持つ受講者と、知識を持たない受講者との間の差が大きいことも例年通りであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度における比較的高い評価を受けて、今年度の授業では前年度と同様の取り組みを継続するように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

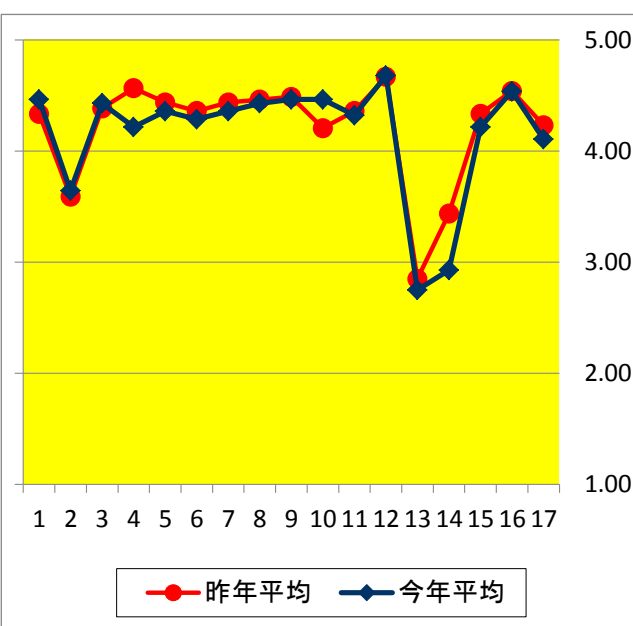
全体として評点が改善しているため、今年度と同様にきめの細かい対応を進めていくことが必要であると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

比較的高い評点であった前年度と同様の講義を行ったが、実際には評点が下がってしまっている。そのため、今年度は受講者の状況を注意深く観察しながら、きめの細かい対応を進めていくことが必要と考えている

科 目	監査制度論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	33	回答者数	28

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.46	5	5	2
2	3.59	3.64	3	5	3
3	4.38	4.43	5	5	2
4	4.56	4.21	5	5	2
5	4.44	4.36	5	5	2
6	4.36	4.29	5	5	1
7	4.44	4.36	5	5	1
8	4.46	4.43	5	5	3
9	4.49	4.46	5	5	3
10	4.21	4.46	5	5	3
11	4.36	4.32	5	5	2
12	4.67	4.68	5	5	3
13	2.85	2.75	3	5	1
14	3.44	2.93	3	5	1
15	4.33	4.21	5	5	2
16	4.54	4.54	5	5	3
17	4.23	4.11	5	5	1
回答者数	39	28			



※昨年平均数値は、A1・A2クラスの2クラス分の数値

受講生の傾向

1年次選択必修科目(基本科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は80%を超えており極めて高い出席率となっている。出席率から見ると、去年と同水準のため、勉学に対する意欲は相変わらず相対的に高いように解される。一方、上記アンケート結果より、予習課題に対する時間は昨年同様に高くなく(項目13)、復習課題に対する対応に伴う授業の復習時間も昨年よりも低下してしまった(項目14)。また教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、教材の利用(項目6)、機材の使い方(項目7)に対する評価が、昨年より若干低下している。これらが、留学生の比率が高くなったことによる影響の可能性がある。とはいえ、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)は、相対的に高くなっていることから、本科目による学生に対する教育効果が肯定的に認められる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も、監査基準の改訂がなされなかったため、これまでの監査基準及び監査実務指針を体系的に整理し纏め直したパワーポイントによるスライドを用意した。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、講義終了後、関西大学CEASに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認する目的とともに復習を動機付けるために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、翌回にコメントを付して返却した。また優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追加し解説を行った。最終的に、講義2回分→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

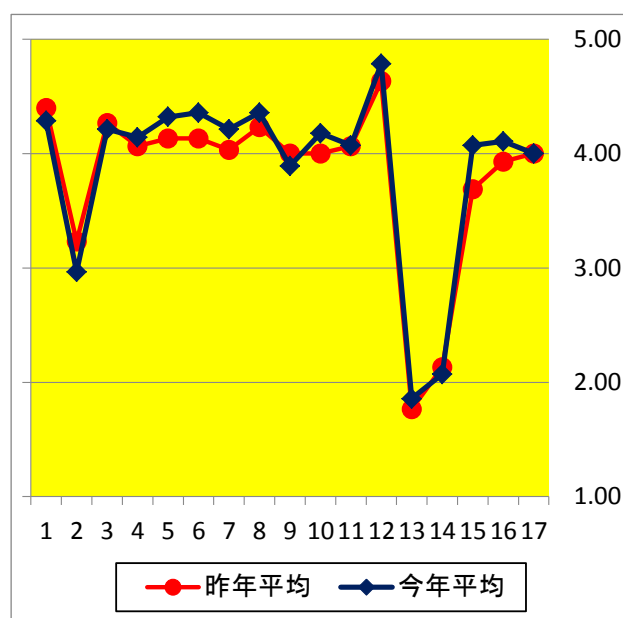
今年度、学習意欲の高い複数の学生から復習課題の添削要請があったように、今年度同様に、次年度以降も学生側での復習課題の作成を動機付けるような仕組みを取り入れたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も一部学生からの復習課題の添削依頼があったため、従来通り、真摯に対応するとともに、受講者に含まれる留学生向けに復習課題の解説等、一定の対応が必要になりつつある。

科 目	監査基準(A)			
配当年次	1	開講時限	春水2	
受講者数	38	回答者数	28	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.29	4	5	2
2	3.23	2.96	3	5	1
3	4.27	4.21	4	5	3
4	4.07	4.14	4	5	3
5	4.13	4.32	4	5	3
6	4.13	4.36	4	5	3
7	4.03	4.21	4	5	3
8	4.23	4.36	4	5	3
9	4.00	3.89	4	5	2
10	4.00	4.18	4	5	2
11	4.07	4.07	4	5	1
12	4.63	4.79	5	5	4
13	1.77	1.86	1	5	1
14	2.13	2.07	1	5	1
15	3.69	4.07	4	5	1
16	3.93	4.11	4・5	5	1
17	4.00	4.00	4	5	1
回答者数	30	28			



受講生の傾向

受講生は非常にまじめで、授業中に実施する演習にも前向きに取り組み、こちらからの質問に対しても積極的に発表する姿勢がみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

自宅学習の時間が少ないということに対して、引き続き授業の中で復習演習をすることで対応した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

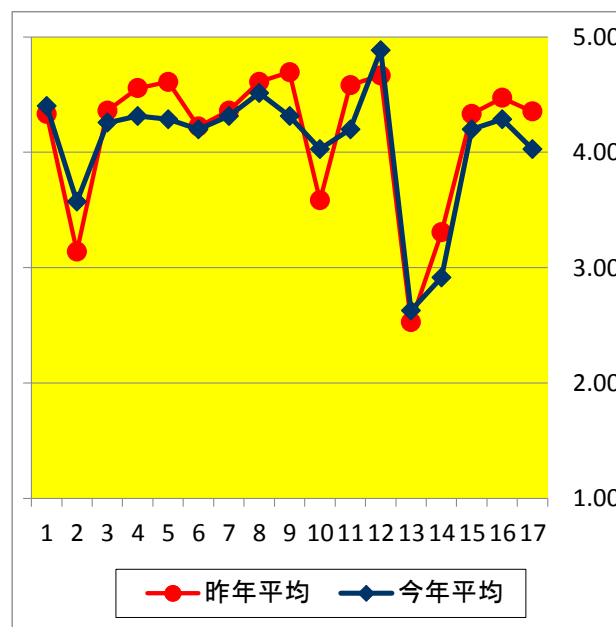
毎回の授業の準備、復習に時間を要するまでには至らなかったが、今後も試験には十分準備が必要となる出題をすることで、自宅での自己学習を促進させていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評価は引き続き試験重視にし、自宅での自己学習を促進させていきたい。

科 目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	春火4	
受講者数	40	回答者数	35	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.40	4	5	3
2	3.14	3.57	3	5	3
3	4.36	4.26	4・5	5	2
4	4.56	4.31	5	5	2
5	4.61	4.29	5	5	2
6	4.22	4.20	5	5	3
7	4.36	4.31	5	5	2
8	4.61	4.51	5	5	3
9	4.69	4.31	4	5	2
10	3.58	4.03	5	5	2
11	4.58	4.20	4	5	2
12	4.67	4.89	5	5	4
13	2.53	2.63	2	5	1
14	3.31	2.91	3	5	1
15	4.33	4.20	4	5	2
16	4.47	4.29	5	5	2
17	4.35	4.03	4	5	2
回答者数	36	35			



受講生の傾向

概ね真摯に受講していたと感じる。導入科目を受講している受講生が少なからず受講しており、講義の内容の理解が困難な場合もあったようである。一方、導入科目を受講していない受講生は積極的に知識を吸収し学習しようとする姿勢が見受けられた。このためか不明ではあるが、昨年度比較して、予習時間が増え、復習時間が減っている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートを踏まえ、講義内容をよりレベルの高いものにしつつ、より多くの内容を講義に盛り込んだ。また、講義内での小テストの形式を変更し、学習レベルの引き上げに努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

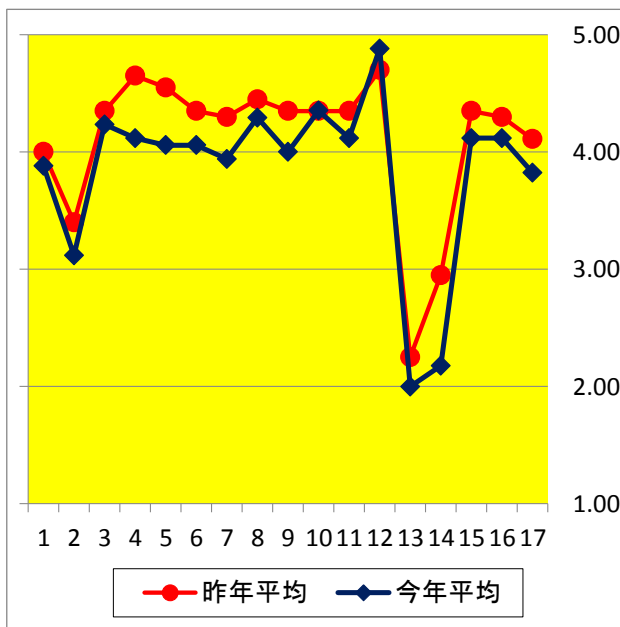
昨年度との比較はできないが、初年度の授業評価アンケートの結果としては、好評価であろうと思われる。そのため、今年度の講義展開をベースにして、今年度を実施できなかった講義内容をさらに付加し、よりレベルの高い内容をも講義に織り込むつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が二極化している状態を改善する必要がある。まず、導入科目を受講しつつ本講義を受講している受講生には、学習時間を増やすような策を講じる。また、そうではない受講生には、よりレベルの高い内容、より多くの内容を学習できるような工夫を講じたいと考える。

科 目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	春木4	
受講者数	22	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	3.88	4	5	1
2	3.40	3.12	3	4	2
3	4.35	4.24	4	5	3
4	4.65	4.12	4	5	2
5	4.55	4.06	4	5	2
6	4.35	4.06	4	5	2
7	4.30	3.94	4	5	2
8	4.45	4.29	4	5	3
9	4.35	4.00	4	5	2
10	4.35	4.35	4	5	3
11	4.35	4.12	4	5	3
12	4.70	4.88	5	5	4
13	2.25	2.00	1・2	4	1
14	2.95	2.18	3	4	1
15	4.35	4.12	4	5	3
16	4.30	4.12	4	5	3
17	4.11	3.82	4	5	2
回答者数	20	17			



受講生の傾向

受講生22名のうち、5名は欠席であったため、実質は17名の講義であった。その17名のうち、半数以上が税務会計の初学者であった。受講生の傾向としては、例年、質問No.13とNo.14の結果は思わしくないが、本年度は昨年度よりもさらに結果が悪くなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法人税法の税額計算部分を租税法会計論で取り扱うことにし、講義のスピードを抑えるように努めた(質問No.2)。また、テキストを平成29年度税制改正が織り込まれたものを使用した。但し、同テキストは、公認会計士試験とのレベルにおいて乖離があるので、その不足分をレジュメに反映させて対応することにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

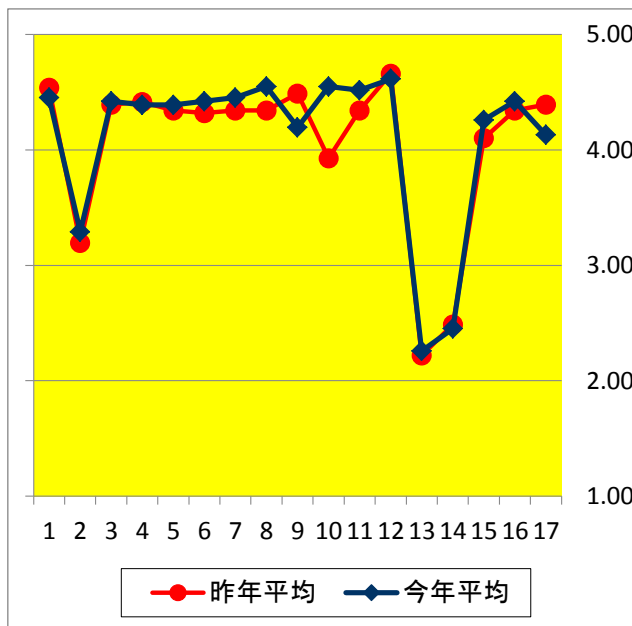
公認会計士試験の過去問をほぼ全てレジュメに取り入れ、講義を行おうとしたため、質問No.2の結果の通り、講義のスピードはどうしても遅くならざるを得なかった。次年度は取り扱う過去問の優先度を考慮し、講義中の時間配分に気をつけたい。また、授業で使用するテキストは、(法案制定と図書発行のタイミングから難しいところはあるが)できる限り最新の税制改正情報を取り入れたものを使用することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法人税法の税額計算部分を上級税務会計論で取り扱う方が、受講生にとって理解しやすい分野があることがわかった(所得税額控除や外国税額控除など)。従って、次年度の上級税務会計論の内容は、租税法会計論との関係から再検討する予定である。

科 目	監査実施論			
配当年次	1	開講時限	春水3	
受講者数	33	回答者数	31	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.45	5	5	2
2	3.20	3.29	3	5	1
3	4.39	4.42	5	5	3
4	4.41	4.39	5	5	3
5	4.34	4.39	5	5	2
6	4.32	4.42	5	5	2
7	4.34	4.45	5	5	2
8	4.34	4.55	5	5	3
9	4.49	4.19	4	5	3
10	3.93	4.55	5	5	3
11	4.34	4.52	5	5	3
12	4.66	4.61	5	5	1
13	2.22	2.26	1	5	1
14	2.49	2.45	3	5	1
15	4.10	4.26	5	5	1
16	4.34	4.42	5	5	2
17	4.39	4.13	5	5	2
回答者数	41	31			



受講生の傾向

今年度は過年度の講師の代行であり、本来の開講時期を春学期へ変更した。授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ80%以上を達成しており、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。しかし予習時間(項目13)と復習時間(項目14)は昨年度と同程度であり、出席率の割合に勉強時間の割合が低い。

しかし本講義を受講することによる満足度(項目11)、学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)が極めて高く現われていることから、今年度の受講生の質の高さが推察できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、代行講義であるため、監査基準及び監査実務指針を纏めたパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意して配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義で押さえるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

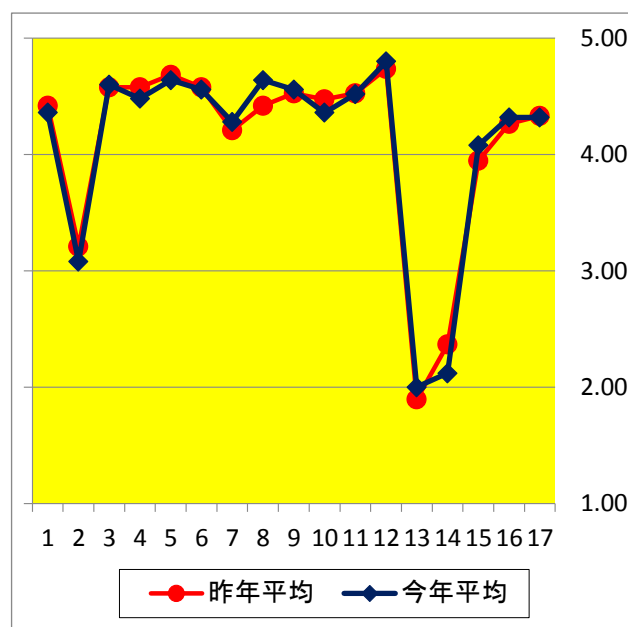
該当なし(昨年度非常勤講師担当)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査実施に関する論点は、監査論上の重要なものを多く含むため、時間に余裕があれば、理解度を確認するための小テスト等を随時実施できれば良かった。

科 目	商法			
配当年次	1	開講時限	春火1	
受講者数	33	回答者数	25	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.36	4	5	3
2	3.21	3.08	3	4	2
3	4.58	4.60	5	5	4
4	4.58	4.48	5	5	3
5	4.68	4.64	5	5	4
6	4.58	4.56	5	5	3
7	4.21	4.28	5	5	3
8	4.42	4.64	5	5	4
9	4.53	4.56	5	5	3
10	4.47	4.36	5	5	3
11	4.53	4.52	5	5	2
12	4.74	4.80	5	5	3
13	1.89	2.00	1・2	5	1
14	2.37	2.12	2	4	1
15	3.95	4.08	4	5	3
16	4.26	4.32	5	5	3
17	4.33	4.32	5	5	3
回答者数	19	25			



受講生の傾向

商法は、選択科目であってかつ会計学とも異なることを考えると33名という受講者数は多いという印象を受ける。公認会計士試験を受験する予定の学生であれば試験科目ということから履修するであろうが、会計学習をメインに勉強する学生は履修しない傾向にある。受講している学生は比較的熱心に参加し、まじめな学生が多いが、なかには休みがちな受講生もいた。授業の難易度については、企業法よりもやや抽象的で難しく感じたところもあるようであったが、全体としてはとくに難しく感じることはないようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は昨年度よりも受講者数が増えて33名となり、より受講生全体の理解を心掛けて授業するようにした。特に商法は抽象的でイメージがしにくいところがあるので、なるべくイメージのしやすい具体例や取引の実例などを示すように心掛けた。また、商法上の細かな論点について詳細な解説をすることは避け、全体的な商法の考え方や制度趣旨などを理解してもらうよう心掛けた。また、すべてを網羅的に扱うのではなく、重要度の高い部分とそうでないところを区別して、しっかりと時間をかける部分とスピード化を図るところとのメリハリをつけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

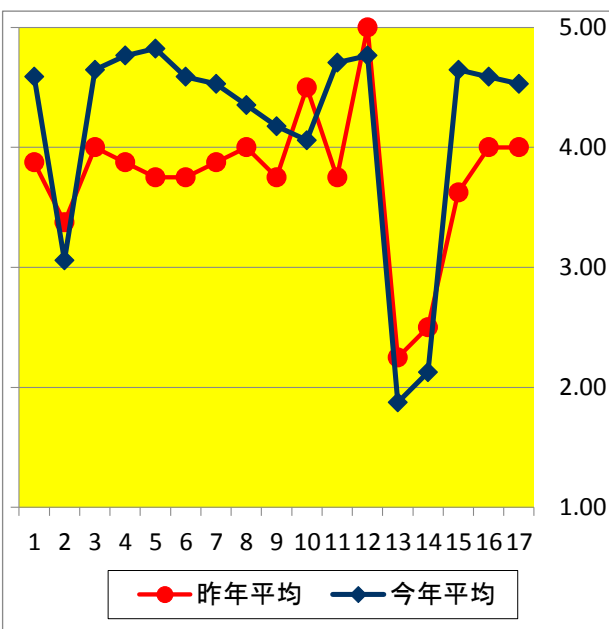
今年度のように受講生が増えたときに一人一人が理解できるように配慮し、さらに、今後も今年度と同様に学生が全範囲をむらなく網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及して、メリハリのある授業を行っていきたいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

商法は、企業法や会社法などのように段階的に複数科目があるのとは異なり、この科目で完結させるものであるから、バランスを考えて授業する必要がある。上でも述べたが、範囲は広くないのでその範囲全体をしっかりと扱うのと同時に、しかし内容が平坦になって授業に対する興味を失わないようにすべく心がけたい。

科 目	企業分析論			
配当年次	2	開講時限	春土2	
受講者数	17	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.88	4.59	5	5	4
2	3.38	3.06	3	4	3
3	4.00	4.65	5	5	4
4	3.88	4.76	5	5	4
5	3.75	4.82	5	5	4
6	3.75	4.59	5	5	4
7	3.88	4.53	5	5	4
8	4.00	4.35	4	5	3
9	3.75	4.18	5	5	3
10	4.50	4.06	4・5	5	3
11	3.75	4.71	5	5	4
12	5.00	4.76	5	5	4
13	2.25	1.88	1・2	3	1
14	2.50	2.13	2・3	3	1
15	3.63	4.65	5	5	4
16	4.00	4.59	5	5	4
17	4.00	4.53	5	5	4
回答者数	8	17			



受講生の傾向

全体的に出席率は高かった。全15回を通して、平均して9割程度が受講している。欠席した際も、就職活動や試験対策と欠席の理由が合理的かつ明確で、真面目に取り組む受講生が多い印象を受けた。
 ただ、就職活動で欠席が多かった受講生の一部に、理解が追い付いていない傾向が見受けられた。就職活動あるいは試験対策と勉学を並行して取り組むことが難しいのは想像に難くないが、ぜひ両立して欲しいと思う。
 また、レポート課題の論理構成が不十分な学生が多かったため、自分の見解を簡潔明瞭に伝える技術を身に付けて欲しい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度初めて担当したため昨年度との比較はできないが、工夫した点は、

- ① 定量分析に定性分析を重ねて分析することの重要性
- ② 企業行動と財務数値の関係

に可能な限り言及することに気を付けたことである。

財務分析の結果から企業の実像にどれだけ近付けるかが重要であるため、単なる指標の理解に終わらないように、さらなる工夫が必要である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年と比較して、評点が全体的に低下したことは問題であると感じている。特に、昨年と同様の授業進度であったにもかかわらず、質問2では授業進度が速すぎるという評価があった点は、昨年と異なり知識レベルの低い受講生がいたと考えられる。他方で、最頻値を見ると高い評点を付けた受講生も多かったといえるため、今後は両者に対してきめの細かい対応が必要であると感じている。

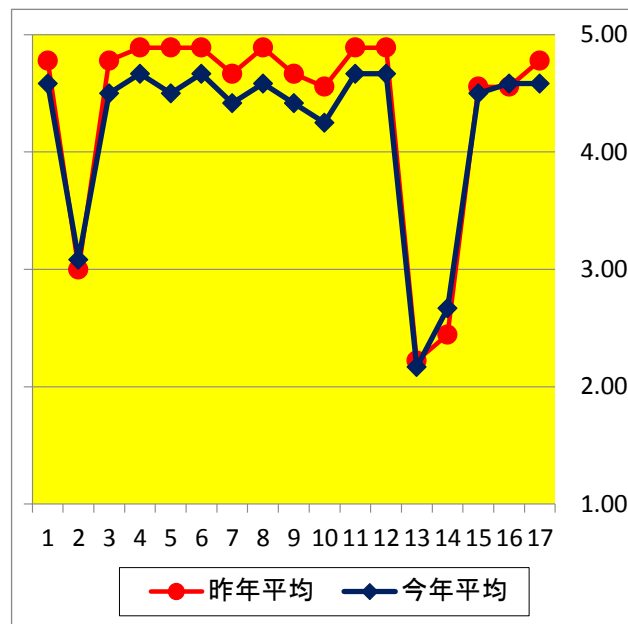
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

多少の予習、復習をしないと意味のないような講義の組み立てを考える必要がある。勉学にしっかりと取り組んでもらえるような講義の構成を考えたい。

また、単なる分析のテクニックを習得することに終始しないように、演習の機会をとらえて、自分自身の意見を論理的に伝える訓練を多く取り入れたい。

科 目	上級会社法			
配当年次	2	開講時限	春金1	
受講者数	13	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.58	5	5	4
2	3.00	3.08	3	4	3
3	4.78	4.50	4・5	5	4
4	4.89	4.67	5	5	4
5	4.89	4.50	4・5	5	4
6	4.89	4.67	5	5	4
7	4.67	4.42	5	5	3
8	4.89	4.58	5	5	4
9	4.67	4.42	5	5	3
10	4.56	4.25	4・5	5	3
11	4.89	4.67	5	5	4
12	4.89	4.67	5	5	4
13	2.22	2.17	2	5	1
14	2.44	2.67	2	5	2
15	4.56	4.50	4・5	5	4
16	4.56	4.58	5	5	4
17	4.78	4.58	5	5	4
回答者数	9	12			



受講生の傾向

上級会社法は、公認会計士試験や企業法をとりわけ得意にしたい学生が受講する科目であるが、今年度はそれにもかかわらず13名の受講生という、本科目にとっては多くの受講生があった。内容としても高度なものを扱うので、企業法や会社法の内容を理解していることを前提とするので、受講生は全体として熱心で授業態度もよく積極的であった。また、授業中の質問についても、自らの学習を踏まえたレベルの高い解答がなされた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上でも書いたことであるが、今年度は上級会社法としては受講生がやや多かった。本科目は、講義科目ではあるがこれまではごく少人数で構成されており、一人一人をきめ細かく指導するよう心掛けていた。今年度は、やはり特に一人一人をきめ細かくという指導は難しくなってしまったが、それぞれの学生の能力を見極めながら全体をバランスよく指導するよう心掛けた。特に対話や論文作成指導などを中心として授業を行うことによって各学生に対応するというところを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

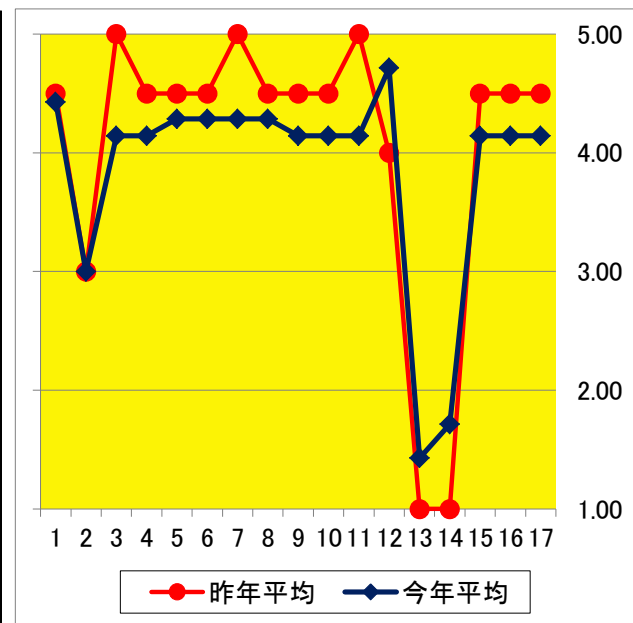
これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していきたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度はやや人数が多くなってしまったが今後もこのような人数ないしこれ以上であったとしてもきめ細かな指導ができるよう心掛けたい。上級会社法は、2年生配当科目であるからこれまでに企業法や会社法といった科目をすでに履修してきている。受講生のこれまでの学習レベルや弱点等はこちらで把握できているので、これまでの授業と継続させて学生を指導することによって、引き続き細かな指導ができるよう実践したい。

科 目	資本市場論		
配当年次	2	開講時限	春土2
受講者数	7	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.43	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.14	4	5	4
4	4.50	4.14	4	5	3
5	4.50	4.29	4	5	4
6	4.50	4.29	4	5	4
7	5.00	4.29	4	5	4
8	4.50	4.29	4	5	4
9	4.50	4.14	4	5	3
10	4.50	4.14	4	5	3
11	5.00	4.14	4	5	3
12	4.00	4.71	5	5	4
13	1.00	1.43	1	3	1
14	1.00	1.71	1・2	3	1
15	4.50	4.14	4	5	4
16	4.50	4.14	4	5	4
17	4.50	4.14	4	5	3
回答者数	2	7			



受講生の傾向

受講生7名中1名は試験合格者、1名は短答式合格者と専門知識レベルが高い者がいる一方、人数的には留学生4名が過半数を占める状況であった。今年度の留学生は、比較的小となし、講義に対するリクエストを求めている、あまり意思表示をすることはなかった。
日本人学生は、積極的に講義に参加し、問題事項に対しては、自分なりの見解を述べるなど前向きに取り組んでくれたと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年は、全員が一般企業への就職希望者であったため、専門的なレベルを落とし、討議中心で臨めた。今年度は、受講生間での参加意識にかい離が大きく、授業が難しかった。
できるだけ、国内固有の事例は回避し、国際的な共通問題も取り扱うことを心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

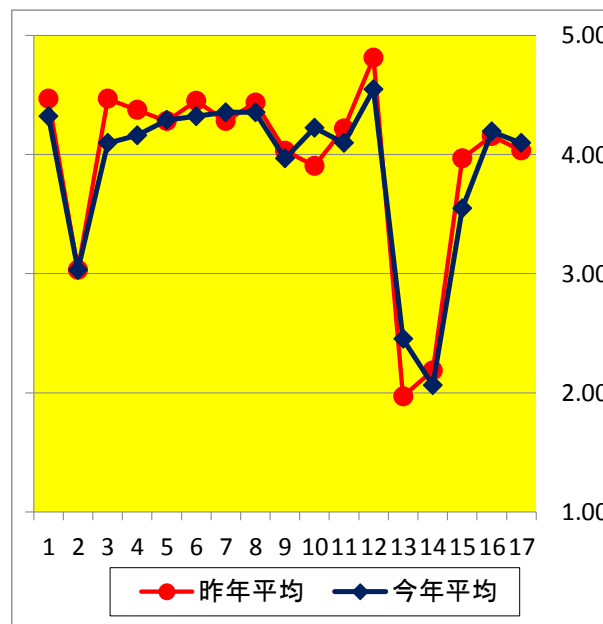
受講生の将来志望が多様化しており、それぞれのニーズに対応できるよう柔軟な講義を心掛けたい。
あくまで受講生の興味を持たせるようなテーマを重点的に討議したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の将来志望を聴取し、興味をもってくれそうな課題を選定し、対話を重視した講義を展開したい。

科 目	会計事例研究			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	42	回答者数	31	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.32	4	5	2
2	3.03	3.03	3	5	2
3	4.47	4.10	5	5	2
4	4.38	4.16	5	5	2
5	4.28	4.29	5	5	2
6	4.45	4.32	5	5	2
7	4.28	4.35	5	5	2
8	4.44	4.35	5	5	2
9	4.03	3.97	5	5	1
10	3.91	4.23	5	5	1
11	4.22	4.10	4	5	2
12	4.81	4.55	5	5	1
13	1.97	2.45	2	5	1
14	2.19	2.06	1	5	1
15	3.97	3.55	4	5	1
16	4.16	4.19	4	5	1
17	4.03	4.10	4	5	1
回答者数	32	31			



受講生の傾向

授業の2回に1回はグループで選択したテーマでディスカッションを行ったが、おおむね積極的に参加していたと思う。最終回は個人での分析・発表にしたが、学生の中には評価が下がることを理解したうえで発表はあえて行わず、分析結果のレポート提出だけを選択した人もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
講義式の講義からディスカッション式のアクティブラーニングを取り入れた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

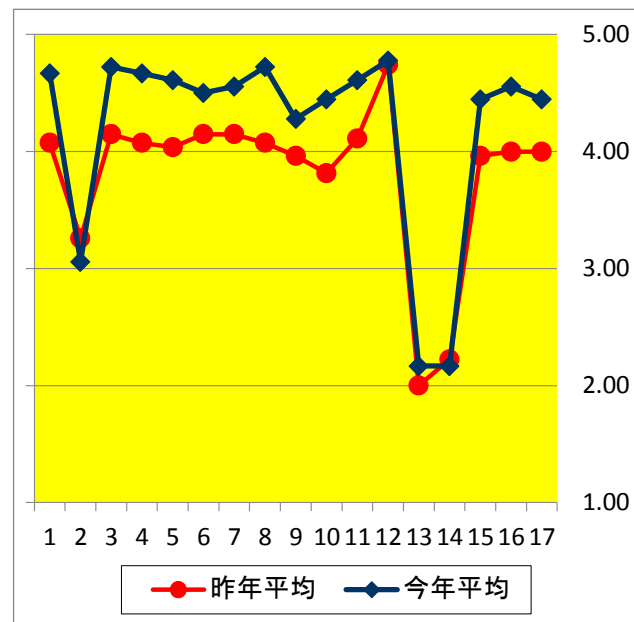
これまでは事例を紹介する講義を展開してきましたが、今後は前の週に説明した会計処理について学生に事例を探してきてもらうようにし、それを発表してもらう参加型の授業展開を試みてみたいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

グループでのディスカッションにすると他のメンバーの分析結果にのっかって自分では準備してこない人がいるようなので、個人での発表の頻度をもう少し高めていくことを検討する。

科 目	会社経理実務			
配当年次	1	開講時限	春土1	
受講者数	22	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	4.67	5	5	4
2	3.26	3.06	3	4	3
3	4.15	4.72	5	5	4
4	4.07	4.67	5	5	3
5	4.04	4.61	5	5	3
6	4.15	4.50	5	5	3
7	4.15	4.56	5	5	4
8	4.07	4.72	5	5	4
9	3.96	4.28	5	5	3
10	3.81	4.44	5	5	3
11	4.11	4.61	5	5	3
12	4.74	4.78	5	5	3
13	2.00	2.17	2	3	1
14	2.22	2.17	2・3	3	1
15	3.96	4.44	5	5	3
16	4.00	4.56	5	5	3
17	4.00	4.44	5	5	3
回答者数	27	18			



受講生の傾向

初回こそ受講生のほぼ全員が出席したが、その後は7割～8割程度の出席率で推移。毎回出席して一つでも多くのことを学ぼうと真面目に取り組む受講生と、そうでない受講生がはっきりと分かれている印象を受けた。科目の特性上、海外からの留学生が比較的多く受講していたが、日本語への対応には苦勞していたと感じる。日本人の受講生に比べて講義中の発表にも消極的で、小テストや論文も要領を得ない記述が目立つ。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度初めて担当したため昨年度との比較はできないが、自身の経験を踏まえて、可能な限り現場の実務がイメージできるような説明に努めた。すなわち、実際に経験したことのない業務を想像することは困難な作業だと認識しているため、事例やエピソードを交えて具体的な場面や状況を理解できるように講義を構成した。また、他の理論科目で学んだ内容が、実務の現場でどのように活かされるか、理論と実務の関係性(相違を含む)にも数多く言及するように留意した。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

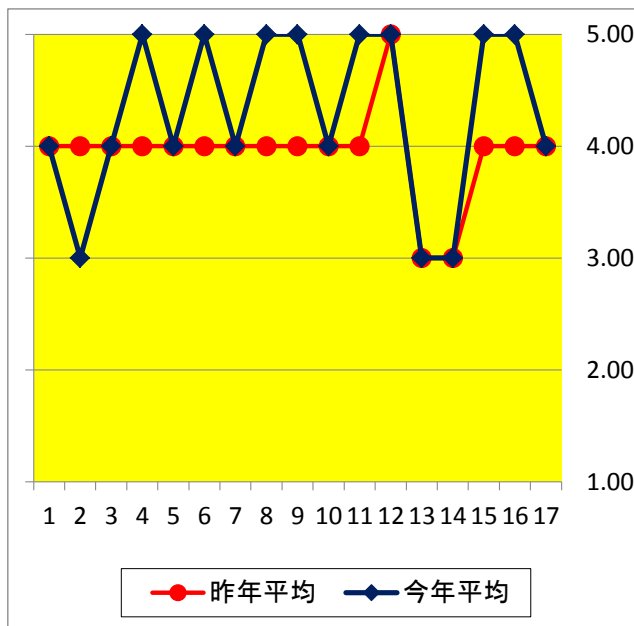
教科書の予習励行と関連した内容で講師への質問(各人1問)を用意させるほか、受講者の数に応じた工夫により理解の促進を図る必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

1回の講義が特定のテーマで完結するように構成していることから、講義と講義のつながりを意識させることができなかったように感じる。それぞれの講義内容が関連していることが分かる全体像を示した上で進行することによって、より興味をもって積極的に受講してもらえる可能性があると考え。また、例えば次回の講義内容に応じた予習課題を出すことで、当日の講義内容を聞くだけに止まらない工夫が必要である。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(大西クラス)			
配当年次	2	開講時限	春木1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.00	4	4	4
2	4.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.00	4	4	4
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	4.00	4	4	4
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	4.00	4	4	4
8	4.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.00	4.00	4	4	4
11	4.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.00	3	3	3
14	3.00	3.00	3	3	3
15	4.00	5.00	5	5	5
16	4.00	5.00	5	5	5
17	4.00	4.00	4	4	4
回答者数	1	1			



受講生の傾向

受講者は1名であったが、まじめに出席して、真剣に勉強に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習科目であるため、受講生に対して積極的にコミュニケーションを図るよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

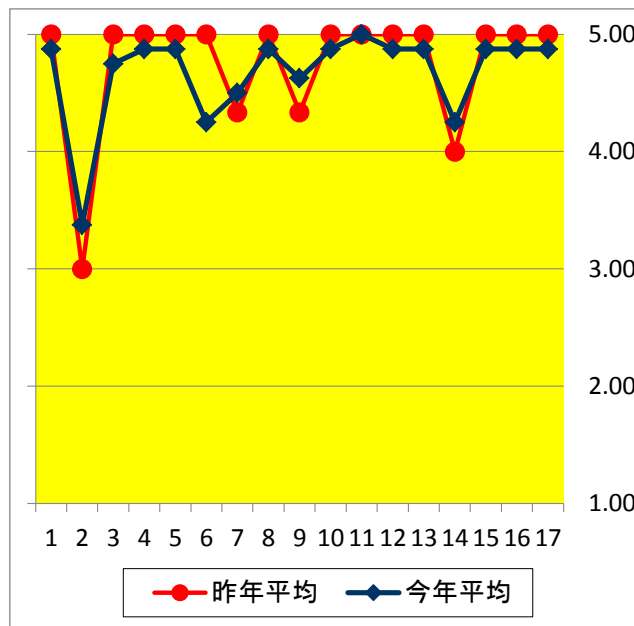
演習という科目の特性上、今後とも受講生に対して積極的にコミュニケーションを図るよう、現在の取り組みを継続する必要があると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果の評点は、比較的良かったと考えられるため、今回の取り組みを継続して、受講生に対して積極的にコミュニケーションを取る必要があると考えている。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	春金5
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.88	5	5	4
2	3.00	3.38	3	5	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	4.88	5	5	4
5	5.00	4.88	5	5	4
6	5.00	4.25	5	5	2
7	4.33	4.50	5	5	3
8	5.00	4.88	5	5	4
9	4.33	4.63	5	5	3
10	5.00	4.88	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	4.88	5	5	4
13	5.00	4.88	5	5	4
14	4.00	4.25	5	5	2
15	5.00	4.88	5	5	4
16	5.00	4.88	5	5	4
17	5.00	4.88	5	5	4
回答者数	3	8			



受講生の傾向

会計研究科における最後学期の演習ということもあり、昨年度よりは低下しているものの、出席割合(項目12)は全員がほぼ100%となっており、受講生の極めて高いモラルが見出せる。全員が公認会計士を志望したこともあり、課題を達成するための予習(項目13)・復習(項目14)の何れもにおいて時間を確保していることが判る。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最終学期の個別演習ということもあり、監査論の諸論点を網羅的かつ総合的に扱い、より実践的な演習とした。受講生には、各種論点に対する重要ポイントを抽出させ、かつ正しい流れの解答を事前に準備させることで、演習時間には添削とともに、それぞれの弱点ないしは判りにくい点に関して相互に検討するための機会とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

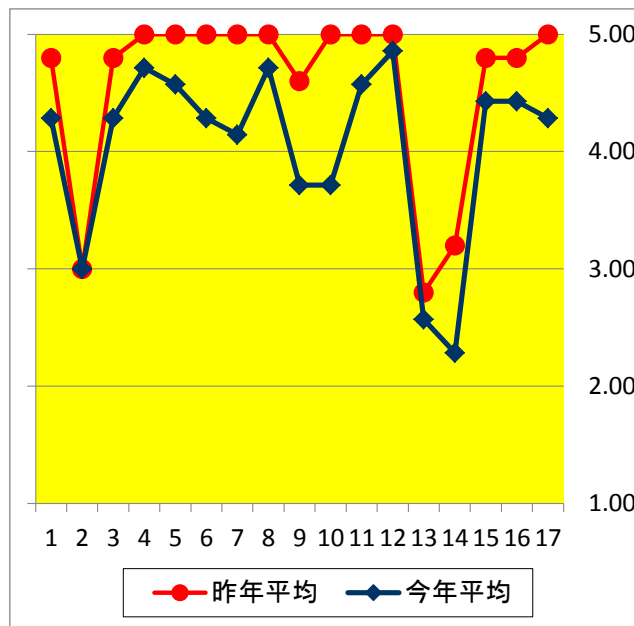
全員が公認会計士志望の受講生であったため、如何に論点抽出能力と論文作成能力を高めるか、という観点からの解答の準備と相互検証に加えた、演習指導が必要と思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査論の個別論点に対応する能力を身に付けることは可能となっているが、各論点の相互関係やその応用になると格段に対応能力が落ちる傾向にあるので、各受講生の応用力を養える演習指導が必要と思われる。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(三島クラス)			
配当年次	2	開講時限	春金5	
受講者数	7	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.29	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.80	4.29	4	5	4
4	5.00	4.71	5	5	4
5	5.00	4.57	5	5	4
6	5.00	4.29	4	5	4
7	5.00	4.14	4	5	4
8	5.00	4.71	5	5	4
9	4.60	3.71	3	5	3
10	5.00	3.71	4	4	3
11	5.00	4.57	5	5	4
12	5.00	4.86	5	5	4
13	2.80	2.57	2	4	2
14	3.20	2.29	2・3	3	1
15	4.80	4.43	4	5	4
16	4.80	4.43	4	5	4
17	5.00	4.29	4	5	4
回答者数	5	7			



受講生の傾向

ソリューションという科目の特性上、履修者数は少ないものであるが、今年度は7名ということでこの科目にしてはやや多かった。必修ではなくかつ教員を選択できる本授業を履修する学生は基本的に授業に対する参加意欲も高く熱心である。演習科目ではあるもののレベルをやや高めに設定したが、特に難しすぎるということはないようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の数からグループ学習が可能となったので、班を構成し議論してもらったうえで報告をするという形式をとった。なお、最初に単独で考慮する時間を与えてその後に班で議論をするという順をとった。内容としては、やや難解なケーススタディを扱うことによって、議論を誘発した。さらに、論文作成能力を向上させたい受講生向けに作成した文章をチェックするという学習もオプションとして追加した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

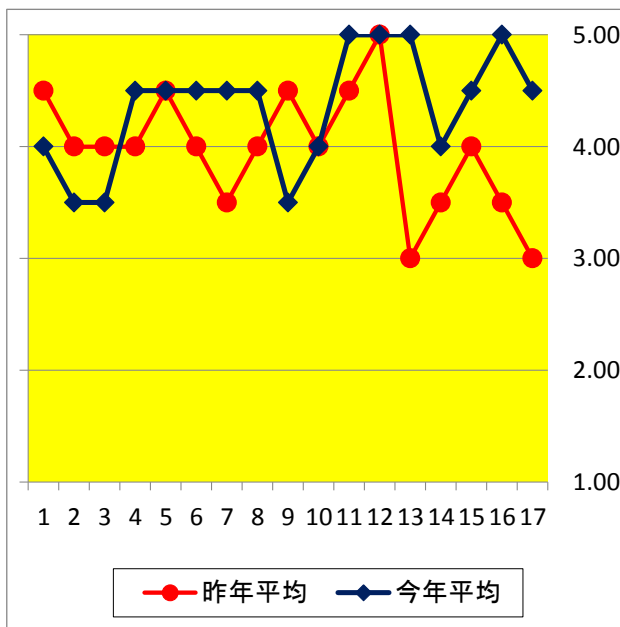
受講生の数が5人程度となると、個人指導以外に討論などの形式で授業が行えるようになり、これがさらに個々の学生の能力をアップさせることにつながると思う。今後は学生間における討論も積極的に行われるよう、課題や教材の選定から授業方法に至るまで、考えていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も受講生数によってはグループ学習という形態をとっていきたい。ただし、受講生単独による考慮から始まり、構成された班による主体的な議論から報告に至るまでを学生によるイニシアチブで授業が進められるように確立したい。しかし学生数やそれぞれの学生の学習目的やその実力によっては、今回行った方法が必ずしもとれるというわけではないので、その場合にはそれぞれの学生に適合したきめ細かな指導ができるよう対応していきたい。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(中村クラス)			
配当年次	2	開講時限	春月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.00	4	4	4
2	4.00	3.50	3・4	4	3
3	4.00	3.50	3・4	4	3
4	4.00	4.50	4・5	5	4
5	4.50	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	3.50	4.50	4・5	5	4
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	4.50	3.50	3・4	4	3
10	4.00	4.00	4	4	4
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	5.00	5	5	5
14	3.50	4.00	3・5	5	3
15	4.00	4.50	4・5	5	4
16	3.50	5.00	5	5	5
17	3.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	2	2			



受講生の傾向

受講生は、いずれも税理士を志望し、かつ、租税法に関する修士論文の執筆を希望する学生であった。このため、学生からの報告レベルは高く、また、学生間における議論も活発に行われた。質問No.16の結果が、昨年度よりも著しく良かったことなど、受講生にとって本講義は切磋琢磨の場となっていたことが推測される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生の報告レジュメについて、必ず報告の目的、報告内容、次回報告の予定を記載させた。これは、受講者に自身の課題に対する理解度等を認識させるためである。次に、受講生のプレゼンについては、レジュメに必ず取引図を書くようにさせ、受講生にその図を用いて租税法規の解釈適用を説明させた。取引図の利用は、受講生のプレゼン力向上に資すると考えたものである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

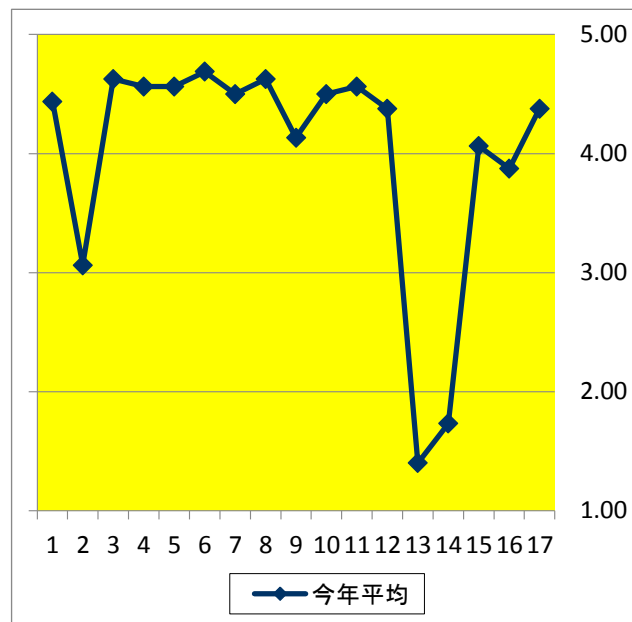
受講生の報告レジュメやプレゼンのレベルを全15回の講義スケジュール内で引き上げるため、第1回の授業時にデモンストレーションを行うことにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生のレジュメについては、講義を通じて徐々にレベルアップしてきたが、プレゼンについては、レジュメの文章をそのまま棒読みする場面が散見された。受講生自身の言葉でプレゼンをすることができるよう、何度も繰り返し指導していきたい。

科 目	特殊講義(あらた監査法人寄付講座 地域の発展と民間イニシアチブ)		
配当年次	1	開講時限	春後月6～7
受講者数	21	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.44	5	5	3
2	—	3.06	3	4	3
3	—	4.63	5	5	4
4	—	4.56	5	5	4
5	—	4.56	5	5	4
6	—	4.69	5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.63	5	5	3
9	—	4.13	5	5	3
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	4.56	5	5	3
12	—	4.38	5	5	3
13	—	1.40	1	3	1
14	—	1.73	2	3	1
15	—	4.06	4	5	3
16	—	3.88	4	5	3
17	—	4.38	4	5	3
回答者数	—	16			



受講生の傾向

本授業は今年度初めて開講された授業ではあったが、受講生数は21名であった。また、この授業は、本研究科院生と社会人との共同授業であって、院生7名社会人14名の計21名による授業であった。それぞれにおいて本授業の趣旨を理解し、目的意識をもって受講しており、授業にもまじめにかつ熱心に取り組んでいた。あまり遅刻は見られなかったが、仕事および5限の授業の都合で遅刻する受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は夜間の時間帯(2限連続3時間)で8週の春学期後半クォーターという形式で行われたので、極力一方的なレクチャーとならないよう、グループワーキングやディスカッションをバランスよく配置して、アクティブラーニングとなるよう心掛けた。また、この授業は社会人と院生が同じ教室で学ぶという共同授業が特徴であったので、グループワーキングにおいては、研究科院生と社会人とが一緒にグループに入るようにして、それぞれの交流に配慮した。その他、この授業の趣旨からなるべく実践的な授業とすべく、本授業にふさわしいゲストに来てもらい授業に参加いただいた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

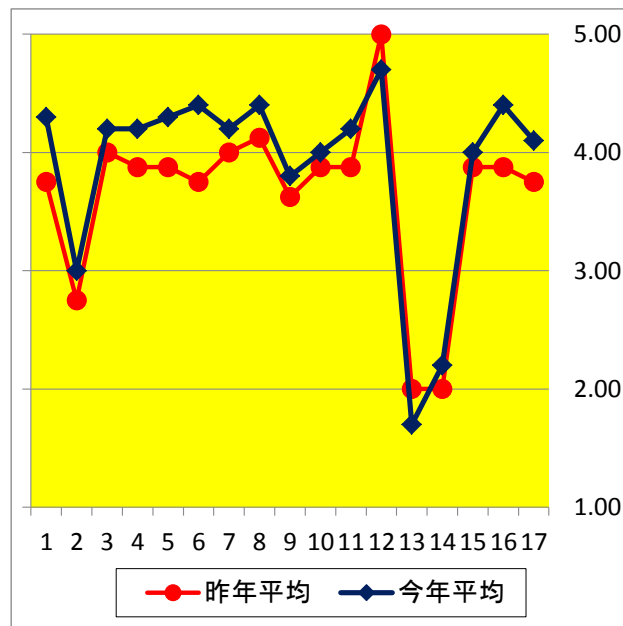
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本授業は、実践的な内容を中心とするものであって、そのための工夫がいろいろ実施された。例えば、院生と社会人が混ざるグループワーキングのみならず、場合によっては受講者と教員が車座になったり、またテーマに応じてゲストスピーカーを用意し、生の実践の声を聴いてもらうなどの対応を試みた。いろいろな授業方法が考えられるが、院生および社会人双方の満足度の高い授業とすべく積極的に取り組んでいきたい。

科 目	会計戦略論		
配当年次	2	開講時限	春火3
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.75	4.30	4	5	4
2	2.75	3.00	3	3	3
3	4.00	4.20	4	5	3
4	3.88	4.20	4	5	3
5	3.88	4.30	4	5	3
6	3.75	4.40	4	5	4
7	4.00	4.20	4	5	4
8	4.13	4.40	4	5	4
9	3.63	3.80	4	4	3
10	3.88	4.00	4	5	2
11	3.88	4.20	4	5	4
12	5.00	4.70	5	5	4
13	2.00	1.70	2	3	1
14	2.00	2.20	2	4	1
15	3.88	4.00	4	5	3
16	3.88	4.40	4	5	4
17	3.75	4.10	4	5	3
回答者数	8	10			



受講生の傾向

真摯に参加し、積極的に受講している受講生がほとんどであった。例年よりも受講者数が多く、講義からより多くの知識を得ようとする、学習意欲の高い受講生が多かったと感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

より理解を深めやすいように、講義で使用する資料を見直し、修正を行った。また、講義全体の中での各回の講義の位置づけや前回講義との関連性を明確にし、受講生に理解しやすいように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

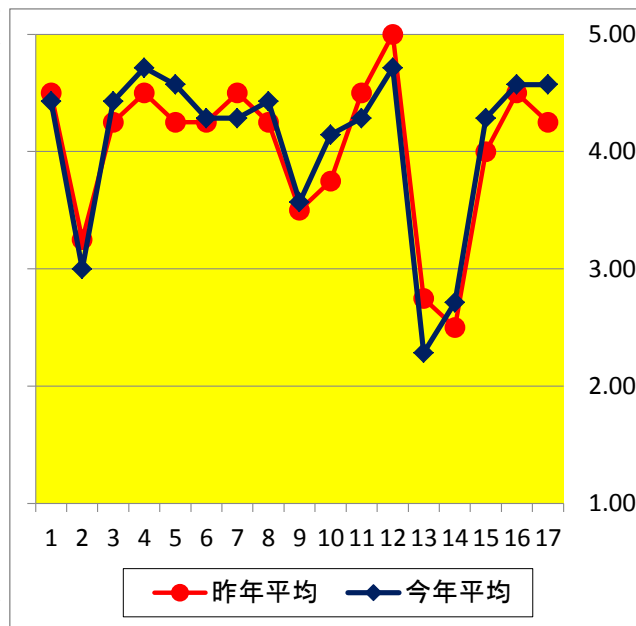
受講生の反応を引き出すよう、また、理解を深めやすいように工夫を講じているが、受講生の理解を深めやすいように、講義内容や素材、配布資料を見直し、ブラッシュアップするつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が例年より多かったこともあり、ともすると受講生が受け身になりやすい状況が受講生の積極的な受講態度で回避できていた部分もある。受講生の人数に依存せず、積極的なディスカッションがなされるような工夫を講じるつもりである。

科 目	資産会計論			
配当年次	2	開講時限	春金3	
受講者数	8	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.43	4	5	4
2	3.25	3.00	3	4	2
3	4.25	4.43	4	5	4
4	4.50	4.71	5	5	4
5	4.25	4.57	5	5	4
6	4.25	4.29	4・5	5	3
7	4.50	4.29	4・5	5	3
8	4.25	4.43	5	5	3
9	3.50	3.57	4	4	2
10	3.75	4.14	4	5	4
11	4.50	4.29	4	5	4
12	5.00	4.71	5	5	4
13	2.75	2.29	3	3	1
14	2.50	2.71	3	5	1
15	4.00	4.29	4	5	4
16	4.50	4.57	5	5	4
17	4.25	4.57	5	5	4
回答者数	4	7			



受講生の傾向

受講生は全員、簿記と理論の習熟度が高く、講義しやすい状況であった。講義展開は昨年と同様であり、アンケート結果も全体的に昨年と同様の傾向を示している。講義は受講生とコミュニケーションをとりながら進めており、テストの回数(質問9)も受講生から丁度良いとのヒアリングを得ていたため、それが昨年と同程度の結果になったことは意外である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計上の資産について重要なテーマを取り上げ、その現行制度上の取扱いを中心に講義をした。会計基準等の現物を教科書として使用し、「原文に慣れ親しむ」というコンセプトのもとで、「原文の表現を学ぶ」ことを重視した。昨年と同様に、受講生の簿記の習熟度が高かったため、ときおり簿記の計算問題を使って、理論と計算の結びつきを意識してもらうようにした。また、講義の12回目以降は受講生各自に課題研究を行ってもらい、問題意識の持ち方や論理展開の方法などについて簡単な論文指導を行った。そして、全員で発表とディスカッションを行って発言力と思考力を養い、一定程度のクオリティの高いレポートを仕上げるトレーニングをした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

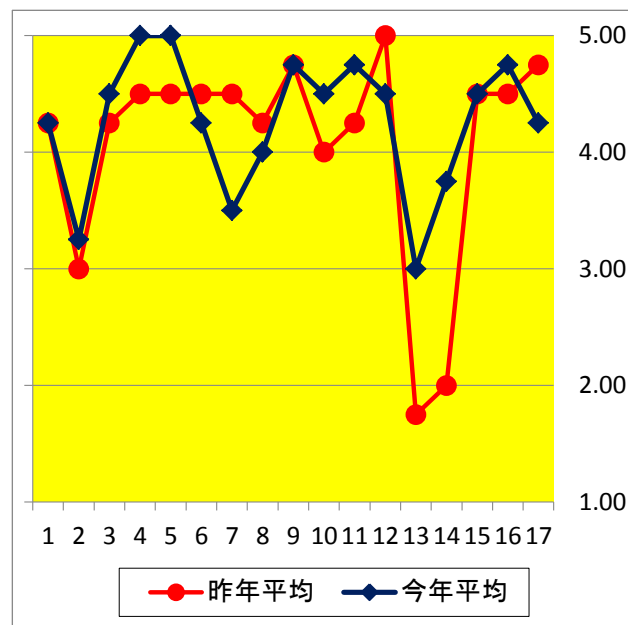
今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義展開としては、全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。ただ、テストの回数(質問9)については、再考の余地がある。例年、テストは3回実施しているが、前々年度までは質問9のポイントは4.0を超えていた。回数を減らすと1回の出題範囲が増えるので受講生にとっては負担が増えるし、逆に、回数を増やすと講義で取り扱うテーマが減ってしまい講義内容が薄くなるので、難しいところである。今後の課題としたい。

科 目	負債・資本金論			
配当年次	2	開講時限	春水3	
受講者数	7	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.25	5	5	3
2	3.00	3.25	3	4	3
3	4.25	4.50	4・5	5	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.50	4.25	4	5	4
7	4.50	3.50	2・3・4・5	5	2
8	4.25	4.00	4	5	3
9	4.75	4.75	5	5	4
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.25	4.75	5	5	4
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	1.75	3.00	2	5	2
14	2.00	3.75	5	5	2
15	4.50	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.75	5	5	4
17	4.75	4.25	5	5	3
回答者数	4	4			



受講生の傾向

人数が少なく履修生が揃ったので、ここ数年実施している授業方式(予習中心、ライティング中心)の授業を展開した。履修生は昨年以上に予習・復習に時間をかけ、課題に取り組んだ。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目については、前半は、授業の前に授業内容に関する課題を与え、論文形式で訓練させた。後半は、事前に下調べをさせ、その内容を授業で報告させ、議論をさせる。PPTファイルは使わない。履修生の人数と質に依存する授業方法であり、授業全体が反転授業という形式をとっている。昨年度低下した13番は今年度は3.0(1時間程度の予習)まで回復した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

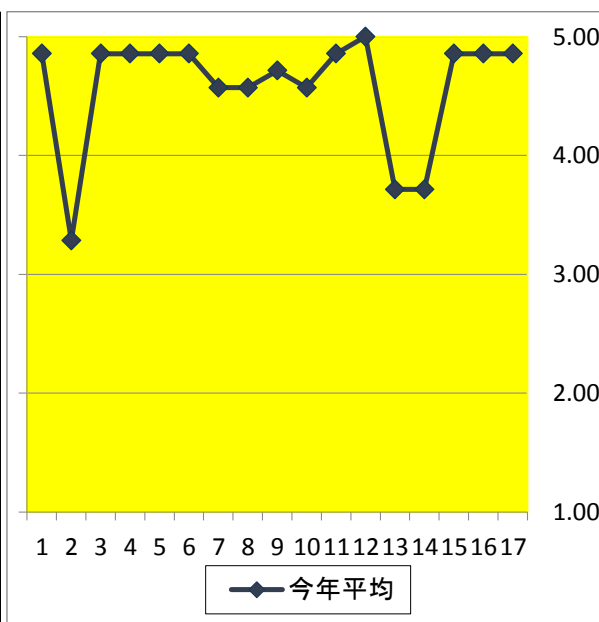
昨年度の方式を踏襲したが、唯一Q13が大きく低下した。つまり事前の十分な予習を実施するようにコントロールできていなかった。そこで、来年度も方式を変更しないが、予習のインセンティブを高めるように、事前の記述に基づいて授業時に報告することを求める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度もこれまでと同様にこの授業方法を継続したい。人数が10名程度になると、授業方法について見直しをかける(PPTによる講義が中心)。

科 目	保証業務論			
配当年次	2	開講時限	春火4	
受講者数	7	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.86	5	5	4
2	—	3.29	3	4	3
3	—	4.86	5	5	4
4	—	4.86	5	5	4
5	—	4.86	5	5	4
6	—	4.86	5	5	4
7	—	4.57	5	5	2
8	—	4.57	5	5	3
9	—	4.71	5	5	4
10	—	4.57	5	5	3
11	—	4.86	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.71	5	5	2
14	—	3.71	3・4・5	5	2
15	—	4.86	5	5	4
16	—	4.86	5	5	4
17	—	4.86	5	5	4
回答者数	—	7			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」「監査基準」等のその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、出席率は去年に引き続きほぼ100%であった(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

わが国の保証業務に関する枠組みと実務指針の他、アメリカの基準及び国際基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半において習得された保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、自らが提案する当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行ったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに相互評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終始しないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンテーションについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼンテーション能力の向上を期待した。最終的に当該業務に関する提案書をレポートの形で提出させ、採点し、その点数と相互評価の結果を纏めて成績の評価とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

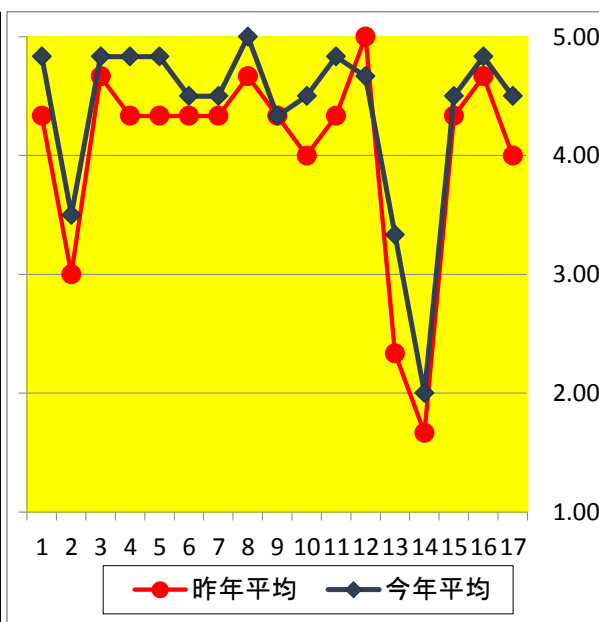
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

過年度に提案された保証業務と優秀な提案業務を予め提示する方法を採用し、過年度よりも理解を高度化するとともに、当該理解がより優れた保証業務の提案に反映されるように期待したい。

科 目	法人税法			
配当年次	2	開講時限	春木3	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.83	5	5	4
2	3.00	3.50	3	5	3
3	4.67	4.83	5	5	4
4	4.33	4.83	5	5	4
5	4.33	4.83	5	5	4
6	4.33	4.50	5	5	3
7	4.33	4.50	4・5	5	4
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.33	4.33	5	5	2
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.33	4.83	5	5	4
12	5.00	4.67	5	5	4
13	2.33	3.33	3	5	2
14	1.67	2.00	1・2・3	3	1
15	4.33	4.50	4・5	5	4
16	4.67	4.83	5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	6			



受講生の傾向

受講生6名の構成は、公認会計士志望者が3名、税理士志望者が2名、その他が1名であった。質問No.12の通り、欠席率が比較的高かった点は問題であったが、その他の質問項目の結果の通り、受講生は法人税法に強く関心を持って、講義に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

課題レポートの判例を受講生自身に報告させ、質疑応答の時間を増やした。また、公認会計士試験の過去問である記述式問題については、宿題とせず、講義内で取り扱うこととした。具体的には、受講生に問題を解かせた上で発表を行わせ、他の受講生の考え方との違いを意識させた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

課題レポートの判例について、受講生自身が、事件の概要、争点、判旨等を報告することを通じて、講義内における質疑応答のきっかけを与えたい。また、学習時間を増やすため、記述式問題を宿題として課すことも実施したい。

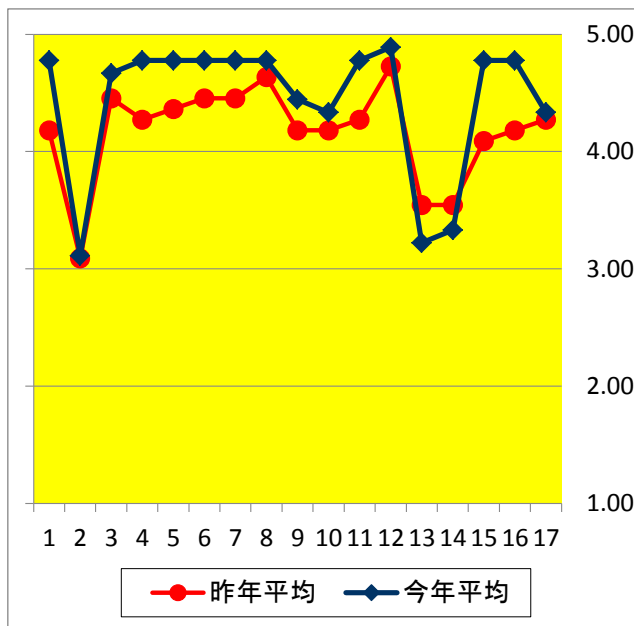
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題レポートの判例を学生に報告させ、かつ、公認会計士試験の過去問である記述式問題を解かせるという組み合わせは、受講生にとって有効な学習方法であったと思われる。なお、受講生に課すべき判例数(現在は15)をどの程度まで増やすかについては、講義スケジュールとの関係から検討を行いたい。

Ⅱ－(2)．2017 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋金5
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.78	5	5	4
2	3.09	3.11	3	4	3
3	4.45	4.67	5	5	4
4	4.27	4.78	5	5	4
5	4.36	4.78	5	5	4
6	4.45	4.78	5	5	4
7	4.45	4.78	5	5	4
8	4.64	4.78	5	5	4
9	4.18	4.44	5	5	3
10	4.18	4.33	4・5	5	3
11	4.27	4.78	5	5	4
12	4.73	4.89	5	5	4
13	3.55	3.22	3・4	5	1
14	3.55	3.33	3	5	1
15	4.09	4.78	5	5	4
16	4.18	4.78	5	5	4
17	4.27	4.33	4	5	4
回答者数	11	9			



受講生の傾向

受講生は、主に、春学期に当該科目の単位が不認定となった学生であり、大半が留学生であった。その他に、入学前履修の制度を利用して受講した学生もいた。いずれも、日商簿記2級レベルの理解が不足している学生である。受講態度は真面目で、自学自習の習慣が身に付いている学生も多かった。また、春学期に単位が不認定となった学生も、次第に要領を得てきた様子で、積極的に問題を解いていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識して学習してもらうようにした。とくに上級レベルの内容を理解する上で重要な論点は優先的に取り上げた。仕訳は、パターンとして「覚える」のではなく、何が生じているのかを「考える」ように指導した。また、講義中は全体説明よりも問題演習に重点をおいて全員の理解を確認して回り、個々人の習熟度に応じて個別に指導を行った。さらに、定期的にミニテストを行い、即座に採点して間違いを個別に指導するなど、ひとりひとりの理解力アップを図ることを大切にしたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

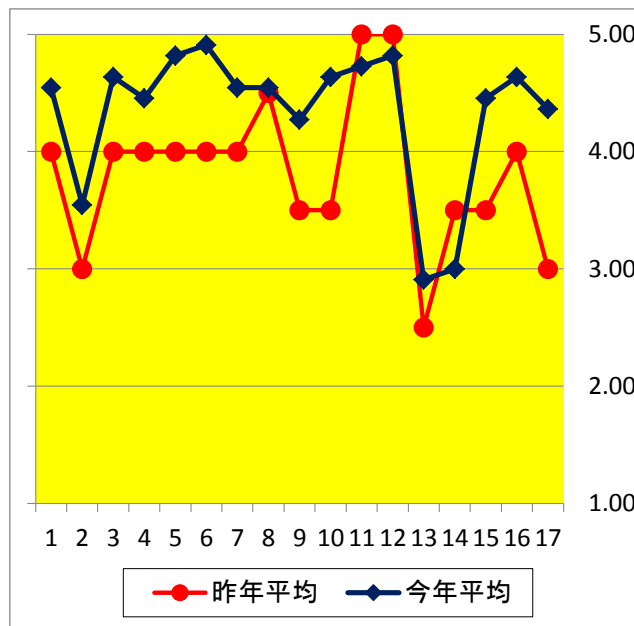
この講義は導入科目群科目であり、受講生の簿記の習熟度は個々人によって異なることから、講義は問題演習に重点をおき、個別指導を中心として行っている。受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーション力にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。しかしながら、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーション力にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。しかし、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科 目	中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火2	
受講者数	13	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.55	5	5	3
2	3.00	3.55	3	5	3
3	4.00	4.64	5	5	4
4	4.00	4.45	5	5	3
5	4.00	4.82	5	5	4
6	4.00	4.91	5	5	4
7	4.00	4.55	5	5	3
8	4.50	4.55	5	5	3
9	3.50	4.27	5	5	2
10	3.50	4.64	5	5	4
11	5.00	4.73	5	5	3
12	5.00	4.82	5	5	4
13	2.50	2.91	3・4	5	1
14	3.50	3.00	3	4	2
15	3.50	4.45	5	5	3
16	4.00	4.64	5	5	3
17	3.00	4.36	5	5	2
回答者数	2	11			



受講生の傾向

前年度(大西先生ご担当)は受講生が2人だったのに対し、今年度(私植田担当)は11人だった。つまり、春学期に基礎を構築出来なかった生徒(大半が中国人留学生)が多く集まったと言える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

理解度を高めるべく、原価計算の全体像を意識し、「今は全体像のどこを講義しているのか？」を毎回説明するようにした。また、予定配賦しかり、標準原価計算しかり、計算を丸覚えさせるのではなく、その趣旨を丁寧に説明するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

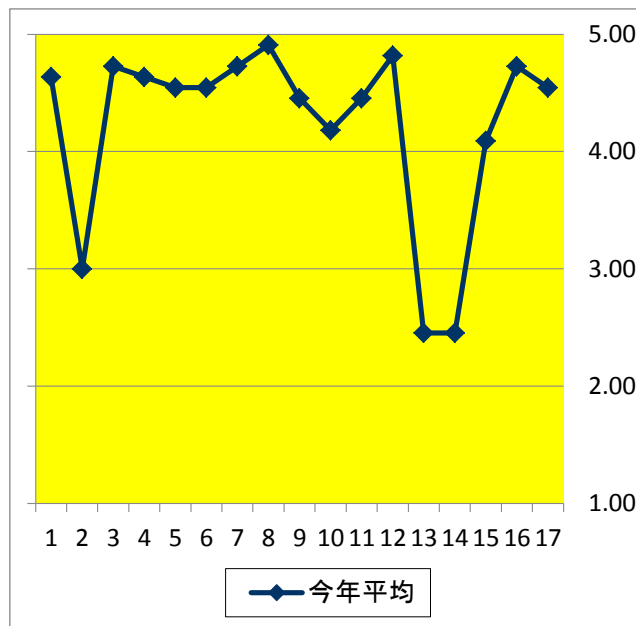
今回の講義では履修者が少なく、その点がクラスの規模に関する評点にも反映されている。また、全体的な受講の満足度が高い一方で、全体的な理解度という点では、低くなってしまっている。そのため、予習復習の奨励を通じて理解度を上げるような取り組みが必要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度は担当しないため、ノウハウを含めて、他の先生方に伝達していきたい。

科 目	会計専門職業倫理(B)			
配当年次	2	開講時限	秋木3	
受講者数	12	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.64	5	5	4
2	—	3.00	3	4	2
3	—	4.73	5	5	4
4	—	4.64	5	5	3
5	—	4.55	5	5	4
6	—	4.55	5	5	4
7	—	4.73	5	5	4
8	—	4.91	5	5	4
9	—	4.45	5	5	3
10	—	4.18	4	5	3
11	—	4.45	5	5	3
12	—	4.82	5	5	4
13	—	2.45	2・3	5	1
14	—	2.45	2	4	1
15	—	4.09	4	5	3
16	—	4.73	5	5	3
17	—	4.55	5	5	3
回答者数	—	11			



受講生の傾向

受講生は12名、うち、留学生が5名程度いた。授業の性質上、グループワークを中心とするため、日本人との混成チームのバランスを取ることに留意した。授業内容に積極的に参加する者が複数みられる中、全般を通して留学生の参加度は低かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は春学期のみ開講であった。例年、予習・復習の時間数が少ない結果が出るが、授業の性質上やむを得ないところもある一方、なるべく課題を出して時間外に検討させる機会を設けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

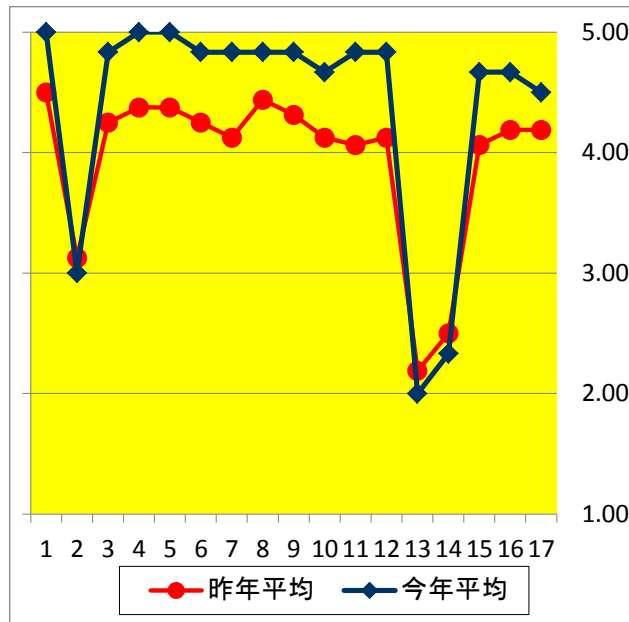
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

留学生対応については、再度検討する必要がある(實際上、授業時間中には殆ど理解できず参加していないと思われるため)。興味のない学生にも、東芝事件等のトピック等を提供することにより、徐々に授業に対する関心を高めていきたい。

科 目	企業法(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木1	
受講者数	8	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.13	3.00	3	3	3
3	4.25	4.83	5	5	4
4	4.38	5.00	5	5	5
5	4.38	5.00	5	5	5
6	4.25	4.83	5	5	4
7	4.13	4.83	5	5	4
8	4.44	4.83	5	5	4
9	4.31	4.83	5	5	4
10	4.13	4.67	5	5	4
11	4.06	4.83	5	5	4
12	4.13	4.83	5	5	4
13	2.19	2.00	1・2・3	3	1
14	2.50	2.33	2	4	1
15	4.06	4.67	5	5	3
16	4.19	4.67	5	5	4
17	4.19	4.50	5	5	3
回答者数	16	6			



受講生の傾向

今年度は、昨年度の同授業の受講生が19名であったのに対して、受講生が8名と少なかった（なお学生の休学等もあり実質は6名）。この授業は春学期にも開講されているので、春学期に履修が集中した結果である。秋学期からの履修や春学期企業法の再履修、学部先の先取り履修など、人数が少ないわりにバラエティに富んだ受講者となったが、出席率は良く（休学等除く）、授業に対してまじめに取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も学生の企業法に対する理解度には差がみられ、これに対応しながら授業することが課題となった。しかし、今年度は実質6人という少人数であることが幸いし、一人あたりの学生との対話の時間を多くとることができ、一人一人の学生の理解を確認しながら授業を進めることができた。ただ、今年度よりもある程度人数が増えたとしてもこのような個々の学生に応じて理解を深めることを行う必要がある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

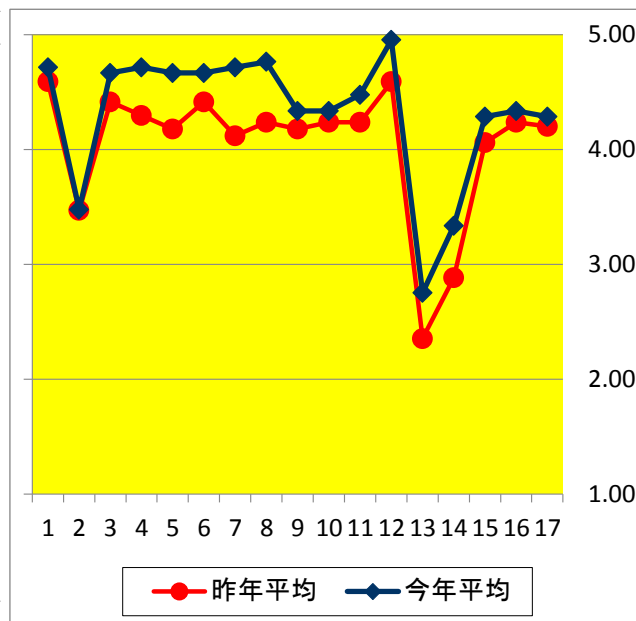
この秋学期における受講生については、Bクラスとしては19人という多い人数で、かつ企業法に関する実力に差が大きく見られたことから、そのレベル差のある中で授業を行う難しさを感じた。理解不足の学生に対して理解できるまでの説明ができていたかどうか、また理解力の高い学生に対してはさらにその理解を深めることができたのかどうかという点では、あまり自信が持てなかった。今後は、特にこの点を意識して、授業に取り組みたいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の授業で工夫したことにも記載したが、今年度はたまたま少人数であって、学生への個別対応が可能となったが、ある程度人数が増えても個々の学生の理解度を把握しながら授業をするよう工夫をしなければならない。授業を円滑に進めるといふことと同時に、学生との対話時間を増やすということを両立する必要がある。

科 目	上級簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	30	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.59	4.71	5	5	4
2	3.47	3.48	3	5	2
3	4.41	4.67	5	5	4
4	4.29	4.71	5	5	4
5	4.18	4.67	5	5	4
6	4.41	4.67	5	5	4
7	4.12	4.71	5	5	4
8	4.24	4.76	5	5	4
9	4.18	4.33	5	5	3
10	4.24	4.33	5	5	3
11	4.24	4.48	5	5	3
12	4.59	4.95	5	5	4
13	2.35	2.75	1	5	1
14	2.88	3.33	5	5	1
15	4.06	4.29	5	5	1
16	4.24	4.33	5	5	2
17	4.20	4.29	5	5	3
回答者数	17	21			



受講生の傾向

講義展開は昨年と同様であるが、アンケート結果を比較すると、全体的に高くなっている。原因は不明であるが、昨年よりも公認会計士試験の合格者や同短答式試験の合格者、またはそれにチャレンジしている者が多かったように思われる。また、何名かにヒアリングしたところ、簿記の問題を解くにあたって仕訳を大切にするか、仕訳をイメージしてから計算テクニックを駆使する傾向にあり、講義展開と受講生の考え方で一致するところが多かったように感じられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の当該科目と同じく、講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、複合的な論点よりも、基本的で重要な論点を優先的に取り上げ、その仕訳を中心に説明した。問題演習の時間は、質問があればその場で対応して個別に指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

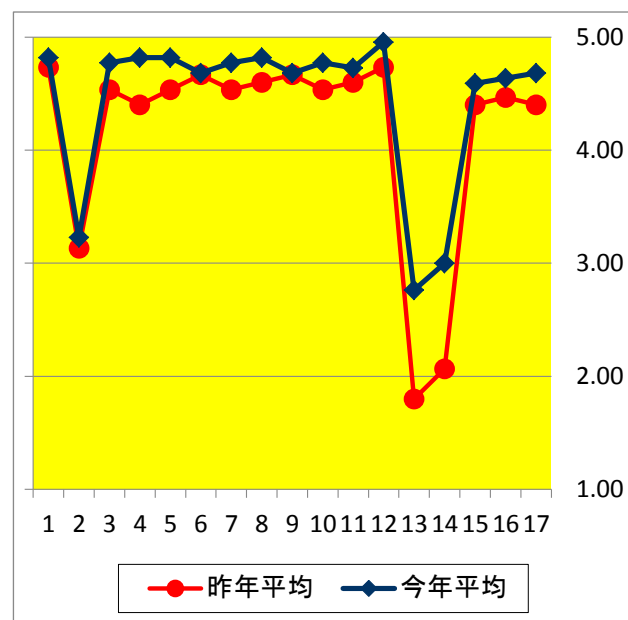
受講生のレベル差が大きく、全体説明と問題演習の時間配分に苦心したが、結果的に、レベルの高い受講生にとっても低い受講生にとっても、中途半端な満足度であったかもしれない。ただ、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向にもよるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科 目	上級財務会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	26	回答者数	22	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.82	5	5	4
2	3.13	3.23	3	5	3
3	4.53	4.77	5	5	4
4	4.40	4.82	5	5	4
5	4.53	4.82	5	5	4
6	4.67	4.68	5	5	3
7	4.53	4.77	5	5	4
8	4.60	4.82	5	5	4
9	4.67	4.68	5	5	3
10	4.53	4.77	5	5	4
11	4.60	4.73	5	5	4
12	4.73	4.95	5	5	4
13	1.80	2.76	2	5	1
14	2.07	3.00	2・3	5	1
15	4.40	4.59	5	5	3
16	4.47	4.64	5	5	3
17	4.40	4.68	5	5	3
回答者数	15	22			



受講生の傾向

1時限開講だったせいか、遅刻が目立った印象があり、また途中で受講を諦めたと思しき受講生がいたが、基本的にほとんどの受講生が、真摯に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

工夫として、講義の終了時に、その回の講義のポイントを示し、次回の講義内容とその学習ポイントの紹介を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

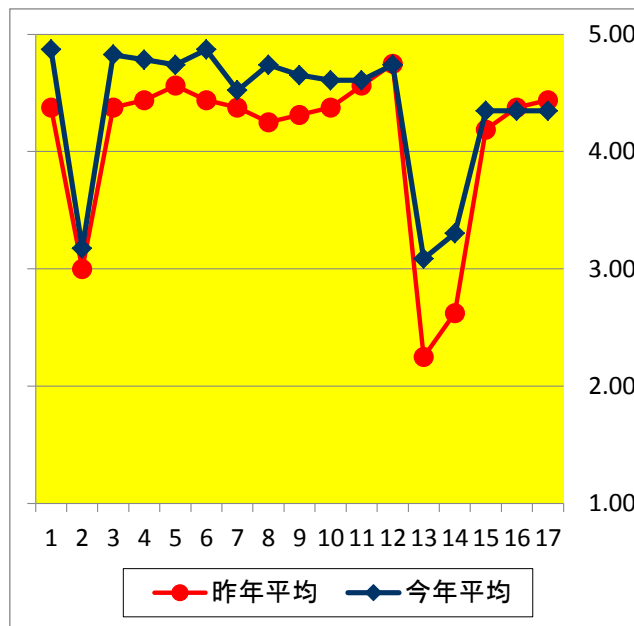
前年度は担当していなかったが、受講生の傾向を踏まえると、上述のような傾向を所与としても、欠席が散見されることから、受講に積極的ではない、もしくは、学習意欲が十分に高くない受講生に、学習意欲を刺激し、積極的に受講するような工夫を講じる必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習への時間が、昨年度より増加しているので、その点については、今年度を踏襲することとする。一方、授業進度について、昨年度より若干早く感じているようなので、受講生の理解度を確認しつつ、より丁寧な説明を増やすことで、受講生が授業進度が早いと感じないような工夫を講じるつもりである。

科 目	上級原価計算論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火3	
受講者数	29	回答者数	23	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.87	5	5	4
2	3.00	3.17	3	5	2
3	4.38	4.83	5	5	4
4	4.44	4.78	5	5	4
5	4.56	4.74	5	5	4
6	4.44	4.87	5	5	4
7	4.38	4.52	5	5	3
8	4.25	4.74	5	5	3
9	4.31	4.65	5	5	3
10	4.38	4.61	5	5	3
11	4.56	4.61	5	5	3
12	4.75	4.74	5	5	3
13	2.25	3.09	1・3・4・5	5	1
14	2.63	3.30	5	5	1
15	4.19	4.35	5	5	1
16	4.38	4.35	5	5	2
17	4.44	4.35	5	5	2
回答者数	16	23			



受講生の傾向

公認会計士の論文式試験を終えたレベルの高いメンバーと、春学期にやっと中級を完了させたレベルの低いメンバー(中国人留学生が多い)とに、二分されるクラスだった。案の定、試験の結果も80点以上をとってくるメンバーと、30点しか取れないメンバーに二分されました。レベルに差がありすぎて、かなり講義が進めにくかったことは確かです。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないが、理解度を高めるべく、原価計算の全体像を意識し、「今は全体像のどこを講義しているのか？」を毎回説明するようにした。また、予定配賦しかり、標準原価計算しかり、計算を丸覚えさせるのではなく、その趣旨を丁寧に説明するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

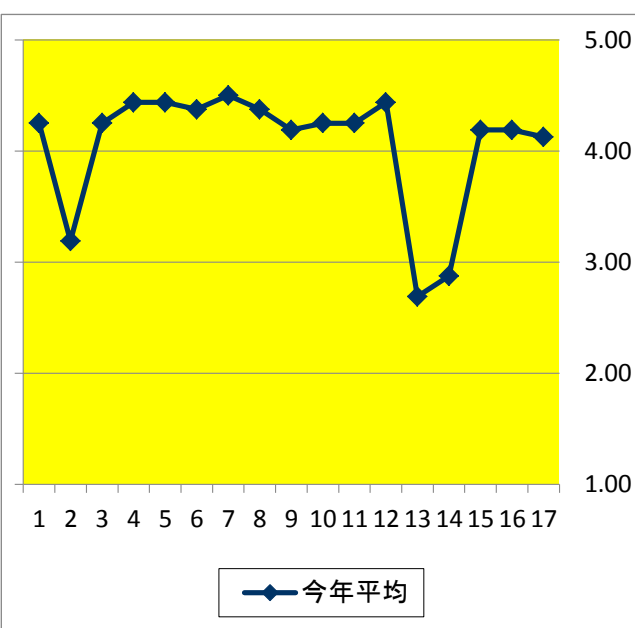
来年度以降は担当しないので、ノウハウを含めて、他の先生方に伝達していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レベルの低い生徒へのフォローアップをしていくことが課題。講義前後での質問対応はもちろん今年度も行ったが、そんなものでは足りないほどレベルが低い生徒もいる。彼らを会計士受験組と同じとはいわないまでも、それと遜色ないレベルに持って行くためには、講座の規定回数以外での補講も健闘する必要がある。

科 目	監査制度論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	24	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.25	4	5	1
2	—	3.19	3	5	1
3	—	4.25	4	5	1
4	—	4.44	5	5	1
5	—	4.44	5	5	1
6	—	4.38	5	5	1
7	—	4.50	5	5	1
8	—	4.38	5	5	1
9	—	4.19	4	5	1
10	—	4.25	5	5	1
11	—	4.25	5	5	1
12	—	4.44	5	5	1
13	—	2.69	3	5	1
14	—	2.88	2	5	1
15	—	4.19	5	5	1
16	—	4.19	4・5	5	1
17	—	4.13	4	5	1
回答者数	—	16			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%強となっており、高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。

しかし上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(項目13)と復習時間(項目14)が30分～1時間となっており、必ずしも十分な時間が確保されているとは見受けられない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は企業会計審議会による監査基準改訂がなかったため、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列举した。これら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、授業録画によるWEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追加し解説を行なった。最終的に、小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

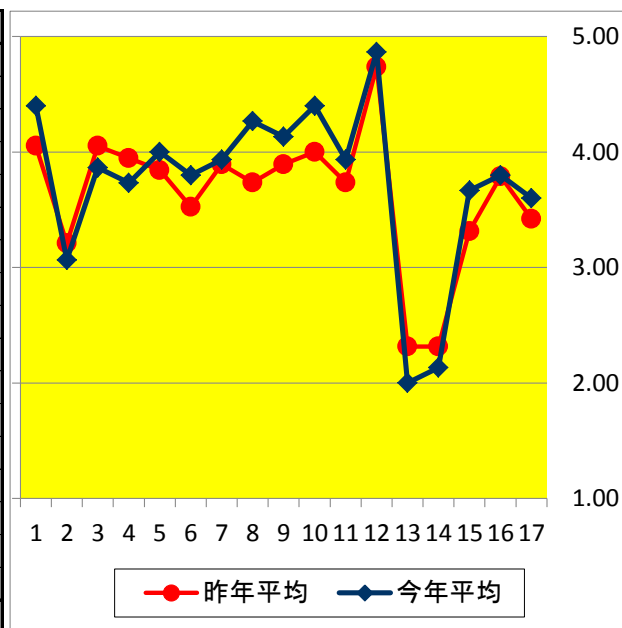
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

小テストの添削結果を返却する際、添削時の論点表の写しとともに成績優秀者の添削済み答案の写しを配布し解説を加えているが、この形を次年度も続けることで、学生側での復習課題の作成に流れを与えるようにしたい。これに加えて、予習時間を多少でも増やすべく、インフォメーション・システムにおいて予め重要論点を明示したい。

科目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	21	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.05	4.40	5	5	1
2	3.21	3.07	3	5	1
3	4.05	3.87	5	5	1
4	3.95	3.73	5	5	1
5	3.84	4.00	5	5	1
6	3.53	3.80	5	5	1
7	3.89	3.93	5	5	1
8	3.74	4.27	5	5	1
9	3.89	4.13	5	5	1
10	4.00	4.40	5	5	1
11	3.74	3.93	5	5	1
12	4.74	4.87	5	5	4
13	2.32	2.00	1	5	1
14	2.32	2.13	1	5	1
15	3.32	3.67	5	5	1
16	3.79	3.80	5	5	1
17	3.42	3.60	5	5	1
回答者数	19	15			



受講生の傾向

今年の受講生は昨年度よりもやや熱心であった。ただし予習復習の時間は相変わらず低いままである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の「今後の対応」で示した通りに実行した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

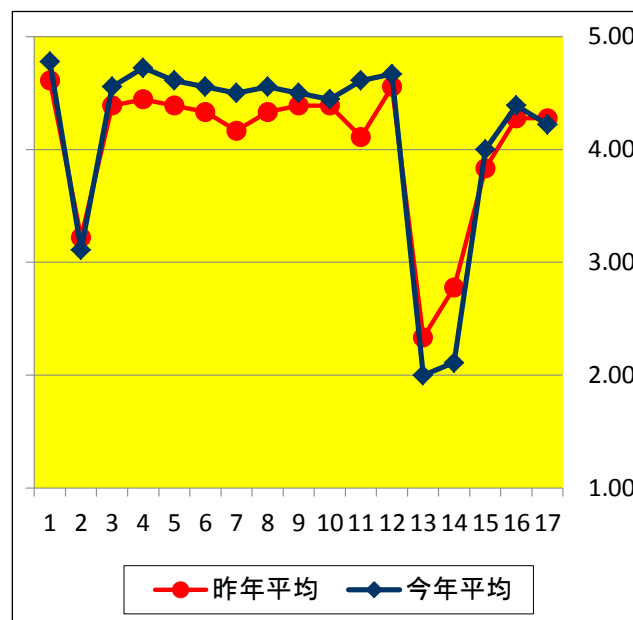
次年度も、講義内容を少し減らし、進度を落として、ゆっくりと説明するなどして、理解度を高める工夫が必要に思う。とりわけ、予習・復習に時間をかけなくなっているのに対応する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の一層の理解度・満足度を高めるには論理的な話を少なくすればいいのだが、講義の主旨に反するので、論理的思考を高めるようにより多くの質問を浴びせるなどのクラス運営が必要に思う。

科 目	財表作成簿記			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	22	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.61	4.78	5	5	3
2	3.22	3.11	3	4	3
3	4.39	4.56	5	5	3
4	4.44	4.72	5	5	3
5	4.39	4.61	5	5	3
6	4.33	4.56	5	5	3
7	4.17	4.50	5	5	3
8	4.33	4.56	5	5	3
9	4.39	4.50	5	5	3
10	4.39	4.44	5	5	3
11	4.11	4.61	5	5	3
12	4.56	4.67	5	5	3
13	2.33	2.00	1	5	1
14	2.78	2.11	1・2	5	1
15	3.83	4.00	4	5	2
16	4.28	4.39	5	5	3
17	4.28	4.22	4	5	3
回答者数	18	18			



受講生の傾向

受講生は、公認会計士試験の合格者や同短答式試験の合格者、またはそれにチャレンジしている者、日商簿記1級の合格者、春学期の「上級簿記」で高得点を取得した者など、全体的に簿記の習熟度の高い状況であった。しかし、とくに連結会計については、計算問題としては解けるが、仕訳することは難しい様子であった。専門学校等では、連結会計を計算問題としてテクニカルに扱うことが多いので、それが一因であると考えられる。しかし、マインドの高い受講生が多く、この機会を積極的に捉えて、仕訳から連結会計の理解を深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の全体を通じて、基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるようにした。とくに連結会計は、計算問題としてテクニカルに解くのではなく、簿記のプロセスの中に位置づけて仕訳で理解してもらうようにした。計算問題としての解き方、あるいは、そうして解くことを前提とした問題集等の出題形式に慣れていると、違和感のある講義展開であったかもしれない。しかし、簿記である以上、仕訳は基本であり不可欠である。問題演習の時間は、その違和感を少しでも緩和できるように、質問があればその場で対応して個別に指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

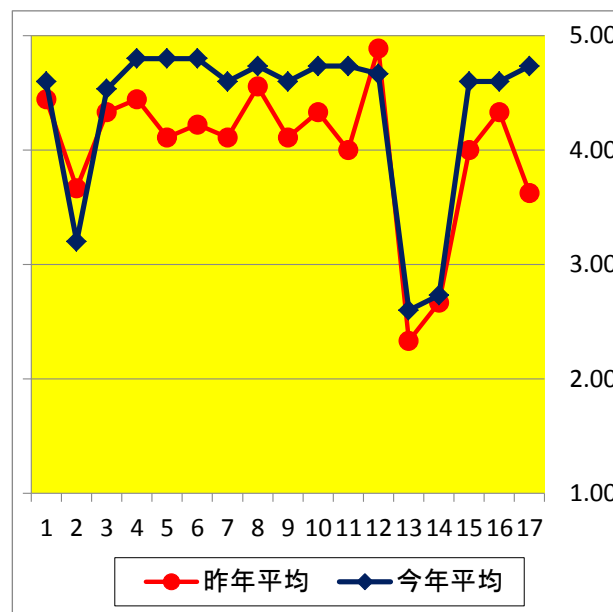
全体的に良い感触を得ているので、次年度も継続することにした。なお、質問9について、昨年にポイントが低い原因は不明としたが、今年は例年並みに戻っている。昨年にポイントが低かったことは、その年度の受講生に固有のものであると考えられる。次年度の評価を見守ることとする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向にもよるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ているので、次年度も継続することにした。なお、質問9について、前々年度にポイントが大きく下がり懸案としたが、昨年度と今年度は例年並みに戻っていることから、次年度も同様にしていきたい。

科 目	租税法会計論			
配当年次	1	開講時限	秋月2	
受講者数	20	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.60	5	5	4
2	3.67	3.20	3	5	3
3	4.33	4.53	5	5	2
4	4.44	4.80	5	5	4
5	4.11	4.80	5	5	4
6	4.22	4.80	5	5	4
7	4.11	4.60	5	5	3
8	4.56	4.73	5	5	4
9	4.11	4.60	5	5	4
10	4.33	4.73	5	5	4
11	4.00	4.73	5	5	4
12	4.89	4.67	5	5	1
13	2.33	2.60	3	5	1
14	2.67	2.73	3	5	1
15	4.00	4.60	5	5	4
16	4.33	4.60	5	5	4
17	3.63	4.73	5	5	4
回答者数	9	15			



受講生の傾向

受講生は、例年と同様、税務会計の初学者が多かったが、(質問No.9の結果より)真面目に取り組んでいたと思われる。また、質問No.13及び14の結果が昨年平均よりも良好となり、受講生は予習、復習に一定程度の時間をかけてたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法人税法の対象範囲を春学期開講の「上級税務会計論」と分割し、本講義は主に法人税額の計算に重点を置いて講義を行った。また、公認会計士試験の過去問を宿題とし、解答にはその計算プロセスも含めた資料を受講生に提供した。さらに、講義内で消化すべき項目の拡大に少しでも対応するため、今年度は新しいテキストを使用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

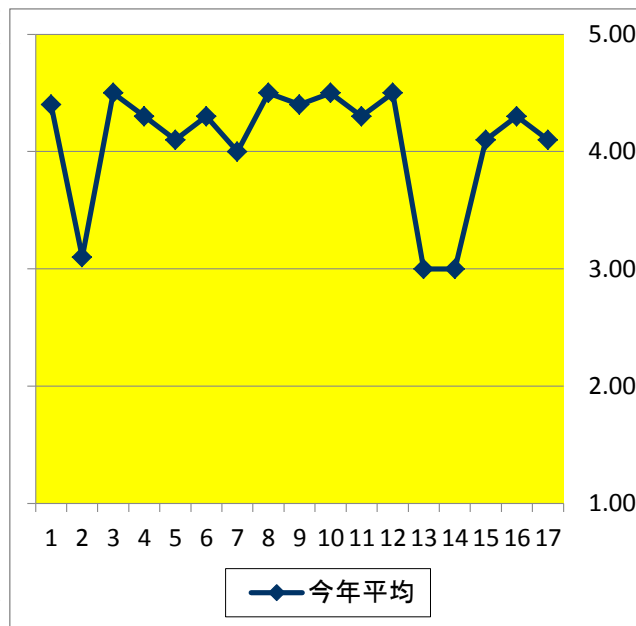
会計士試験において法人税法の対象範囲が拡大している。これに対応すべく、「租税法会計論」は春学期に開講する「上級税務会計論」と内容を連動させ、税務会計を体系的かつ効率的に学習させるスタイルへ変更する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度新たに使用したテキストの有効性が(効率的学習という観点で)確認できたので、次年度は本講義において所得税と消費税を取り扱うことにする。また、その関係で「上級税務会計論」は法人税に特化させる。

科 目	公会計論			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	11	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.40	5	5	3
2	—	3.10	3	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.30	5	5	2
5	—	4.10	5	5	1
6	—	4.30	4	5	3
7	—	4.00	4	5	3
8	—	4.50	5	5	3
9	—	4.40	5	5	3
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	4.30	4	5	3
12	—	4.50	5	5	2
13	—	3.00	2・4	5	1
14	—	3.00	2	5	2
15	—	4.10	4・5	5	2
16	—	4.30	5	5	3
17	—	4.10	4	5	2
回答者数	—	10			



受講生の傾向

出席率の高い一方、予習復習の時間は少ない。11名のうち8名が外国人であり、日本語の表現に難がある学生が数名いた。日本国内で知っている都市が少ない学生もいたので、中国・ベトナムの出身都市の調査課題を課したりして、関心度を高めるようにした。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
今回はじめて。

今後の対応

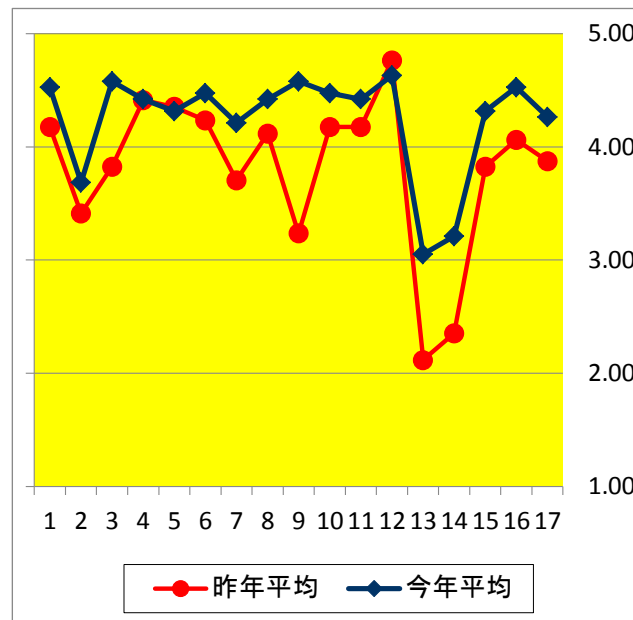
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

外国人がいた場合には本年度と同様に日本のことに関心を持ってもらえるような工夫をする。日本人だけの場合には日本の都市の調査を課すなどの方法で学習のインセンティブを高める。

科 目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	25	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.53	5	5	1
2	3.41	3.68	3	5	1
3	3.82	4.58	5	5	1
4	4.41	4.42	5	5	1
5	4.35	4.32	5	5	1
6	4.24	4.47	5	5	1
7	3.71	4.21	5	5	1
8	4.12	4.42	5	5	1
9	3.24	4.58	5	5	1
10	4.18	4.47	5	5	1
11	4.18	4.42	5	5	1
12	4.76	4.63	5	5	1
13	2.12	3.05	2・5	5	1
14	2.35	3.21	4	5	1
15	3.82	4.32	5	5	1
16	4.06	4.53	5	5	1
17	3.88	4.26	5	5	1
回答者数	17	19			



受講生の傾向

選択科目である本科目では、受講生の出席状況(項目12)はほぼ90%を確保し極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。また予習時間(項目13)と復習時間(項目14)とも1時間から1時間半となっている点で、若干の増加が認められる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回、パワーポイントによるスライドを作成・配布するとともに、必要に応じて追加資料等を配布し解説を加えた。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料の全ては、授業当日中に関西大学CEASにアップロードし、授業録画WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

前2回分の理解度を確認するための小テストを、隔週で授業時間の最初に20分程度で実施し、添削して返却すると同時に、成績優秀者の答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に論点の講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。これらに加えて、添削に当たって作成した論点表と解答の流れを配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

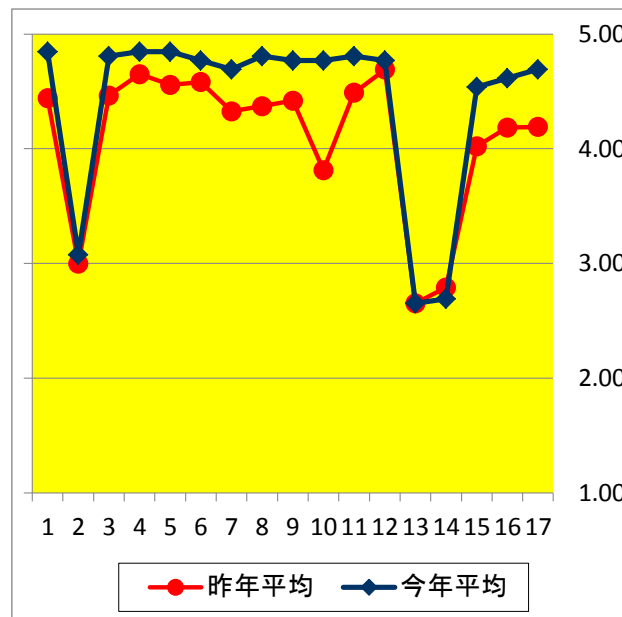
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今期も復習課題の任意提出を繰り返し促す措置を取ることで、復習時間の確保を図りたい。

科 目	会社法			
配当年次	1	開講時限	秋木2	
受講者数	40	回答者数	26	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.85	5	5	4
2	3.00	3.08	3	5	2
3	4.47	4.81	5	5	4
4	4.65	4.85	5	5	4
5	4.56	4.85	5	5	4
6	4.58	4.77	5	5	3
7	4.33	4.69	5	5	3
8	4.37	4.81	5	5	4
9	4.42	4.77	5	5	3
10	3.81	4.77	5	5	4
11	4.49	4.81	5	5	4
12	4.69	4.77	5	5	2
13	2.65	2.65	3	5	1
14	2.79	2.69	3	5	1
15	4.02	4.54	5	5	3
16	4.19	4.62	5	5	3
17	4.19	4.69	5	5	3
回答者数	43	26			



受講生の傾向

今年度の受講者数は昨年度ほどではないが、40名と本研究科としては相対的に多かった。傾向としては、これも昨年度と同様となるが、公認会計士試験を目指す学生のほか、就職を希望する学生等の受講生も多く見られた。その分、学生の実力・理解度に関するばらつきは大きく見られた。しかしながら、全体としては、受講態度は良好で、授業に対しては熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度において、会社法の範囲の広さに対してどのように授業を行うかが課題である旨記載したが、今年度は、「会社法」の前後に存在する「企業法」と「上級会社法」との連続性を特に意識して授業することとした。本授業では、ここで理解しておいてほしいということに焦点を合わせて授業するよう心掛け、その他の授業で扱う部分については当該授業の箇所へと誘導するように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

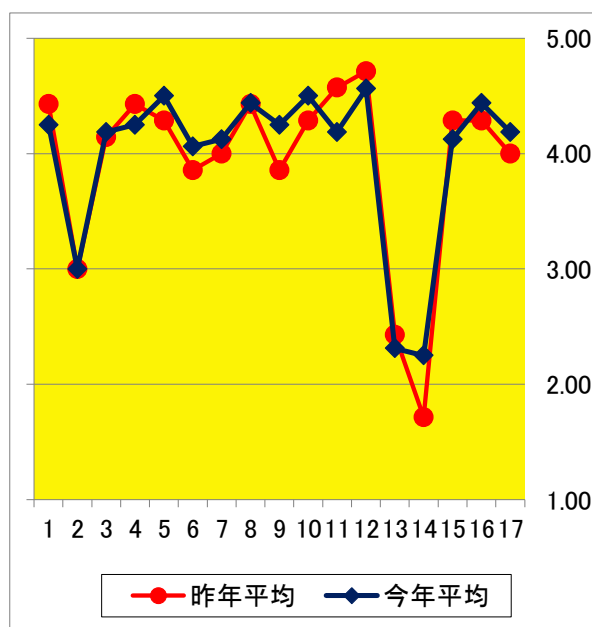
会社法は範囲が広いので、その授業はすべてを網羅的に扱い分量的に消化することよりも、学生自身がそのポイントとなる点をおさえ理解し、会社法の本質を把握してそこから自分の力で会社法に関する各論点を考えることができるような授業となるよう心がけたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も会社法の授業を効率的に行うよう工夫を行ったが、会社法の広い範囲を授業で扱うことと、学生が理解しながら授業についてくることができるようにすることとの両立がうまく図れていないように思う。学生が理解できるような丁寧な授業を行いつつ、会社法の範囲を網羅できるよう心掛けたい。

科 目	インベストメント論			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	17	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.25	4・5	5	2
2	3.00	3.00	3	4	2
3	4.14	4.19	5	5	2
4	4.43	4.25	5	5	2
5	4.29	4.50	4・5	5	4
6	3.86	4.06	5	5	2
7	4.00	4.13	5	5	2
8	4.43	4.44	5	5	3
9	3.86	4.25	5	5	3
10	4.29	4.50	4・5	5	4
11	4.57	4.19	5	5	2
12	4.71	4.56	5	5	2
13	2.43	2.31	3	5	1
14	1.71	2.25	2	5	1
15	4.29	4.13	4	5	2
16	4.29	4.44	5	5	3
17	4.00	4.19	4	5	2
回答者数	7	16			



受講生の傾向

ファイナンスや金融についての基礎知識が必ずしも十分ではなく、どちらかといえば、給料が高い分野に対する興味から受講するような学生が多かったように感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のみならず、ビジネスゲームを行い、全体の雰囲気高めるとともに、受講生間のコミュニケーションを図るようにした。

また、会計との関連について触れながらも、ファイナンスに特化した授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

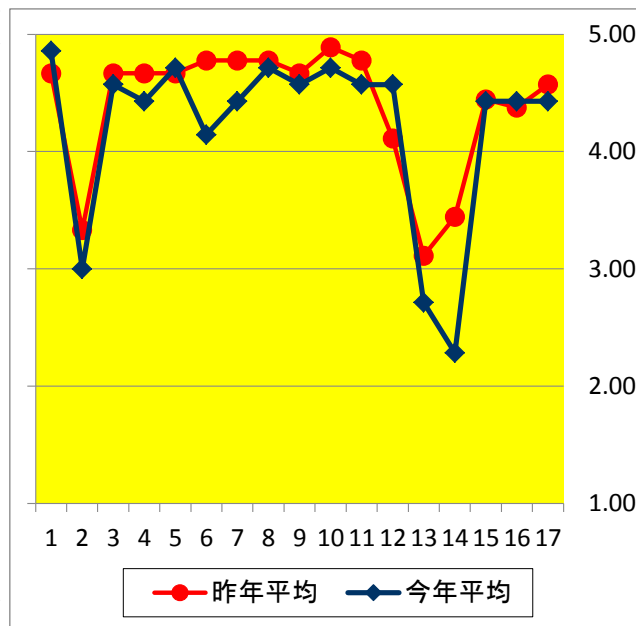
今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつファイナンスに特化した内容の授業を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつファイナンスに特化した内容の授業を行う。

科 目	コーポレート・ファイナンス論		
配当年次	1	開講時限	秋火1
受講者数	10	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.86	5	5	4
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.67	4.57	5	5	4
4	4.67	4.43	4	5	4
5	4.67	4.71	5	5	4
6	4.78	4.14	5	5	3
7	4.78	4.43	4	5	4
8	4.78	4.71	5	5	4
9	4.67	4.57	5	5	3
10	4.89	4.71	5	5	4
11	4.78	4.57	5	5	4
12	4.11	4.57	5	5	4
13	3.11	2.71	3	5	1
14	3.44	2.29	1	5	1
15	4.44	4.43	4	5	4
16	4.38	4.43	5	5	3
17	4.57	4.43	5	5	3
回答者数	9	7			



受講生の傾向

会計についての知識は悉皆している学生が多く、コーポレートファイナンスと会計との関係に触れつつ行う授業に興味を示していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のみならず、ビジネスゲームを行って、受講生間のコミュニケーションを図るようにした。
また、会計との関連について触れながら、教科書を中心に授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

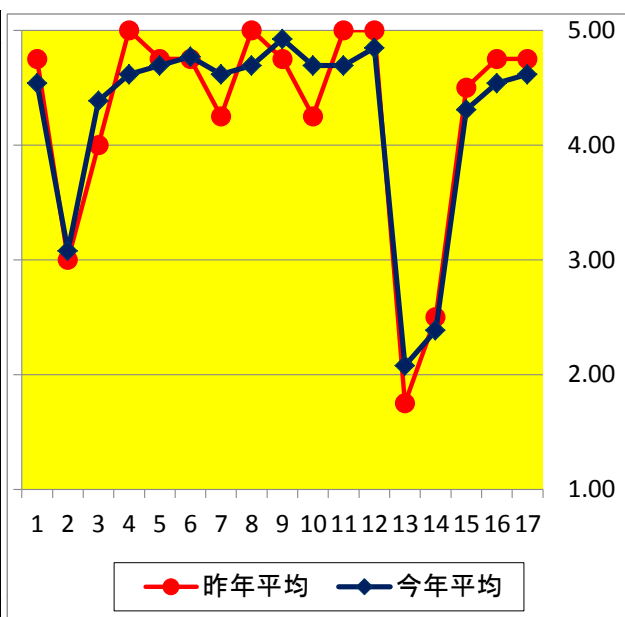
今年度と同様、教科書を中心に、数学的な面を避けつつ、基本的な考え方について授業する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度と同様、教科書を中心に、数学的な面を避けつつ、基本的な考え方について授業する。

科 目	国際会計基準論			
配当年次	2	開講時限	秋火3	
受講者数	13	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.54	5	5	4
2	3.00	3.08	3	4	3
3	4.00	4.38	4・5	5	3
4	5.00	4.62	5	5	4
5	4.75	4.69	5	5	4
6	4.75	4.77	5	5	4
7	4.25	4.62	5	5	3
8	5.00	4.69	5	5	4
9	4.75	4.92	5	5	4
10	4.25	4.69	5	5	4
11	5.00	4.69	5	5	4
12	5.00	4.85	5	5	4
13	1.75	2.08	2	4	1
14	2.50	2.38	2	4	1
15	4.50	4.31	4	5	4
16	4.75	4.54	5	5	4
17	4.75	4.62	5	5	4
回答者数	4	13			



受講生の傾向

公認会計士試験の合格者が、受講生の中に少なくなく、就職活動で欠席することが散見されたが、その分は配布資料で対応するなど、おしなべて学習意欲が高く、真摯に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
昨年度の対応を踏まえ、学習しやすいような資料の配布や提示に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

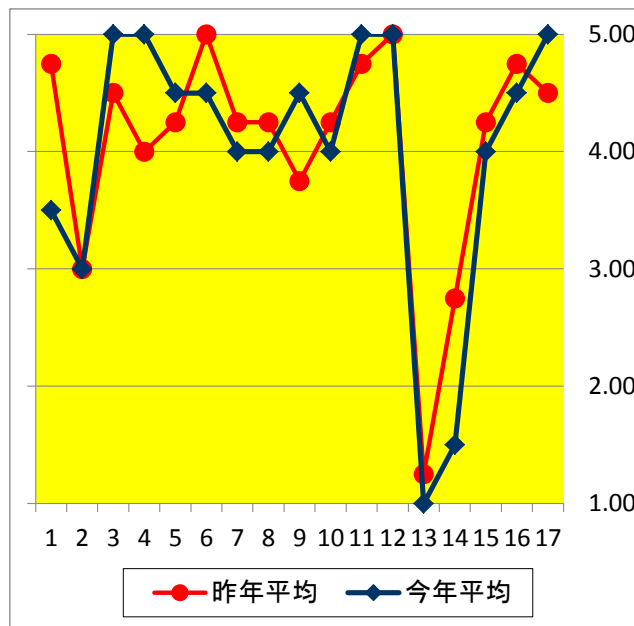
昨年度に比して、質問4,5,6について上昇していることから、資料の扱いや議論の展開については、今年度と同じ方向性で展開しようとする。一方、ホワイトボード・PC等の機材の利用については昨年度より評価が下がっていることから、視覚的にも理解や議論を促すような工夫を講じるつもりである。また、関大LMSのより一層の活用を試行錯誤になるが、実施するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比べ、予習時間が増加し、復習時間が減少しているので、予習用の資料の配布に加え、復習のポイントを提示し、復習による理解度を高める工夫を講じるつもりである。また、昨年度と比べ授業への満足度が幾分低くなっているため、より具体的な事例を含めて説明するなどの工夫を講じるつもりである。

科 目	公監査論			
配当年次	2	開講時限	秋木1	
受講者数	5	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	3.50	3・4	4	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.25	4.50	4・5	5	4
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	4.25	4.00	4	4	4
8	4.25	4.00	4	4	4
9	3.75	4.50	4・5	5	4
10	4.25	4.00	3・5	5	3
11	4.75	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.25	1.00	1	1	1
14	2.75	1.50	1・2	2	1
15	4.25	4.00	4	4	4
16	4.75	4.50	4・5	5	4
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	4	2			



受講生の傾向

登録者は5名であるが、実質は2名であった。2名とも熱心であり、予習復習の時間は殆どなかったと回答しているものの、冬休み中に課題を与え、それに対する取り組みは十分に行っていたようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
今回初めて担当した。

今後の対応

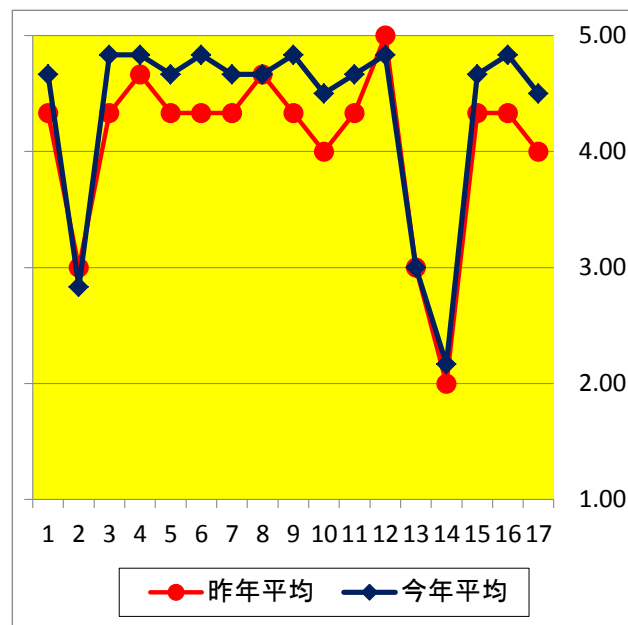
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者数が限られる中、シラバスを工夫することにより、できるだけ受講者を増やしたい。さらに、トピックを提供する等により、学生のパブリックセクターにおける監査に対する関心を高めたい。

科 目	租税法理論			
配当年次	2	開講時限	秋月3	
受講者数	9	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.67	5	5	4
2	3.00	2.83	3	3	2
3	4.33	4.83	5	5	4
4	4.67	4.83	5	5	4
5	4.33	4.67	5	5	4
6	4.33	4.83	5	5	4
7	4.33	4.67	5	5	4
8	4.67	4.67	5	5	4
9	4.33	4.83	5	5	4
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.33	4.67	5	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	3.00	3.00	3	5	1
14	2.00	2.17	3	3	1
15	4.33	4.67	5	5	4
16	4.33	4.83	5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	6			



受講生の傾向

受講生は9名で、会計士志望者と税理士志望者から構成され、いずれも租税法の学習に強い関心を持ち講義に臨んでいた。前年度に比べ、質問No.13及び14の結果の通り、予習、復習の時間も若干ではあるが増えていた。ただ、最低点1がそれぞれ存在しており、租税判例の課題レポートの提出が遅れる受講生も数名いた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税手続法に関する学習を第1回講義で追加した。また、第1回講義より条文集を貸与し、受講生に条文集に直接当たる機会を講義内で実施した。具体的には答案練習の際、受講生に根拠条文を探すよう指示し、当該条文の解釈から答えを導くよう指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

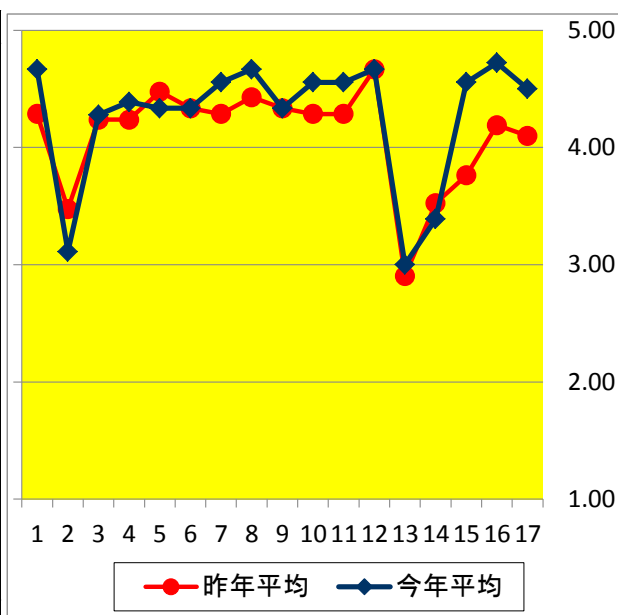
受講生による租税判例の報告で、租税手続法に関する理解が不十分である点が見られた。この点に関し、補足説明を行うことにする。また、受講生は、解釈論を苦手としている。この点を改善するため、条文集を用いて、受講生に出来る限り多くの条文に直接当たる機会を提供する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

解釈論を苦手とする受講生が大半である。この点を改善するため、条文集を用いて、受講生に出来る限り多くの条文に直接当たる機会を提供すると同時に、文理解釈や目的論的解釈という解釈論の補足説明を繰り返し教授する。

科 目	基本会計プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋月4	
受講者数	21	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4.67	5	5	3
2	3.48	3.11	3	5	3
3	4.24	4.28	5	5	3
4	4.24	4.39	5	5	3
5	4.48	4.33	5	5	1
6	4.33	4.33	5	5	2
7	4.29	4.56	5	5	4
8	4.43	4.67	5	5	4
9	4.33	4.33	5	5	1
10	4.29	4.56	5	5	4
11	4.29	4.56	5	5	4
12	4.67	4.67	5	5	2
13	2.90	3.00	5	5	1
14	3.52	3.39	2・5	5	1
15	3.76	4.56	5	5	3
16	4.19	4.72	5	5	4
17	4.10	4.50	5	5	2
回答者数	21	18			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が留学生であり、基本的に真摯に受講していたが、言語の関係で、理解が遅れやすい傾向にあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

留学生が受講生のほとんどであったため、昨年度に留意したことのほか、各回の講義内容の理解度や説明の理解度を確認しつつ講義を進めるよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

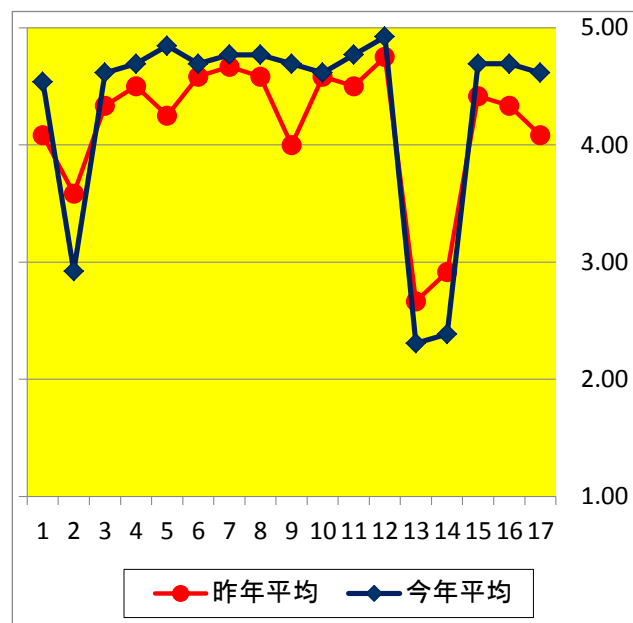
講義全体の流れの中の各回の講義の位置づけやポイントを理解しやすいよう、会計プログラムの構造を板書するだけでなく、講義内容や各課題の意味を明示し、自ら学習するような工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生のうちの留学生の割合に応じて、講義の説明方法を調整するよう留意するつもりである。また、復習時間より予習時間が短い傾向があるため、毎回次回の講義のポイントを示し、予習しやすい資料を配布するなどの工夫を講じる。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	13	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.08	4.54	5	5	3
2	3.58	2.92	3	3	2
3	4.33	4.62	5	5	4
4	4.50	4.69	5	5	4
5	4.25	4.85	5	5	4
6	4.58	4.69	5	5	3
7	4.67	4.77	5	5	4
8	4.58	4.77	5	5	4
9	4.00	4.69	5	5	4
10	4.58	4.62	5	5	3
11	4.50	4.77	5	5	4
12	4.75	4.92	5	5	4
13	2.67	2.31	3	3	1
14	2.92	2.38	2・3	3	1
15	4.42	4.69	5	5	4
16	4.33	4.69	5	5	4
17	4.08	4.62	5	5	4
回答者数	12	13			



受講生の傾向

今年度は昨年度に比して受講者数は同じであるが、全体的な評価が高まっている。また授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ95%を達成しており、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。しかし予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も昨年度よりも悪化していることから、受講生による準備と復習が不足する傾向が見出せる。

さらに本講義を受講することによって、昨年度以上に学習意欲の向上(項目15)や知識・能力の向上(項目16)が極めて高く現われていることから、今年度の受講生の質の高さは推察できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、講師の都合で春学期に開講したものが本来の開講時期である秋学期開講となったため、他の監査系科目との連携を確保することができた。また今年度も監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、これまでの監査基準及び監査実務指針を纏め直したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意して配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストと配布資料に基づいて授業を行ない、後半に監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。特に今年度は春学期開講だったため、前半の講義の充実を図った。さらに2度の課題(フローチャート作成、掛け売上取引の監査)と、講義時における積極的質問や発言を促すことで、それらを成績に反映するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

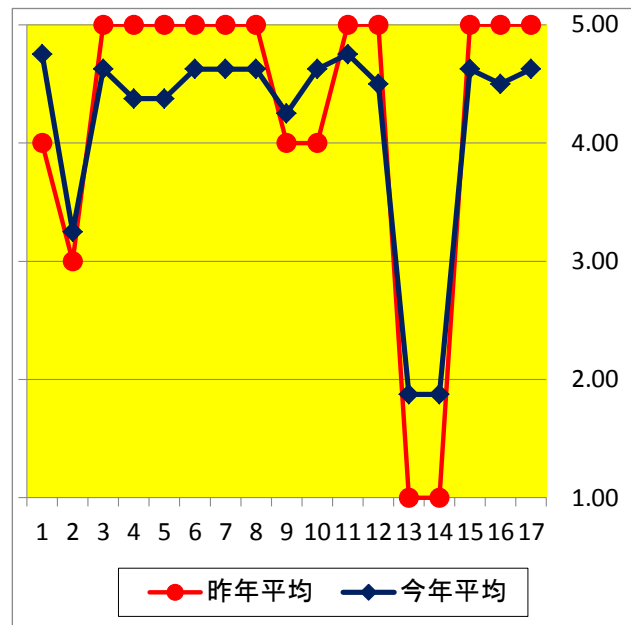
受講生の参加意欲を高める観点から、講義時における質疑応答と課題作成時における机間巡回による指導を行なったが、次年度においてもヨリ一層の緊張感を高める施策を講じる必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の能動的参加を促す措置として、講義途中における適時かつ頻繁な質問提起を行なうだけでなく、期中・期末の課題レポートの作成に対して、講義時間中に指導を行なう必要がある。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	秋土4	
受講者数	10	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.75	5	5	4
2	3.00	3.25	3	5	3
3	5.00	4.63	5	5	4
4	5.00	4.38	5	5	3
5	5.00	4.38	5	5	3
6	5.00	4.63	5	5	4
7	5.00	4.63	5	5	4
8	5.00	4.63	5	5	4
9	4.00	4.25	5	5	3
10	4.00	4.63	5	5	4
11	5.00	4.75	5	5	4
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	1.00	1.88	1・2	3	1
14	1.00	1.88	1・2	3	1
15	5.00	4.63	5	5	4
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	5.00	4.63	5	5	4
回答者数	1	8			



受講生の傾向

公認会計士試験の受験生が5名おり、その他の受講生も経理部門を志望していることもあり、会計知識レベルは高かった。

事例を中心に講義をしたところ、積極的に討議に入ってくれる受講生が多く、事前に講義資料を作成する側として、非常に教えがいのある受講生であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、マンツーマンでの講義であったのと、就職先が内定している受講生であったため、できるだけその内定後の業務に有用と思われる事項を重点的に講義した。

そのため、今回の受講生とは状況を異にするため、昨年度のアンケートを踏まえての工夫した事項等はなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

公認会計士志望者、一般企業就職希望者、留学生等受講生ごとで、ディスクロージャーに対して必要とされる知識レベルを異にするため、受講生のニーズに即した講義をしようと考えています。講義時点でトピックな事件等が発生すれば、そのプレスリリース、過年度開示情報を分析する等、実践的な講義をしたいと考えています。

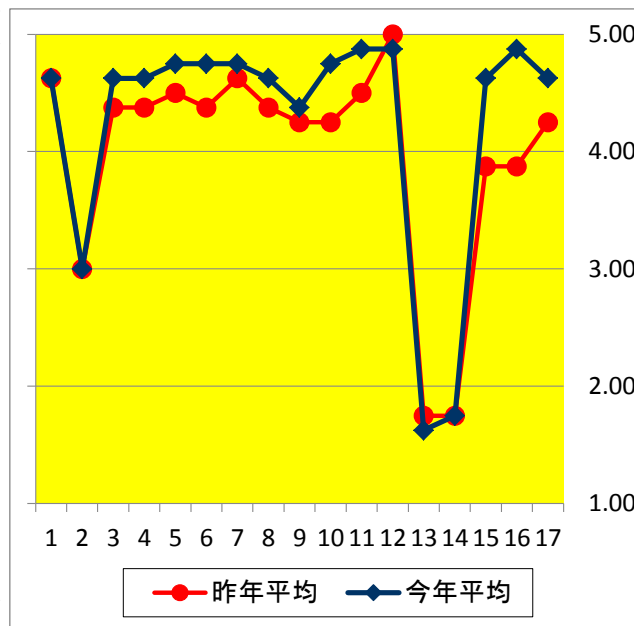
そのため、講義時間内で完結できるよう、講義の初めに、基礎知識を共有し、それに基づいて討論することで、理解を深めさせたいと考えています。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年同様、トピックな事例があれば、それを集中的に議論し、実践的な講義内容にしたいと考えている。できるだけ講義時間内で完結できるよう講義資料を工夫したいと考えている。

科 目	実践会計プログラム演習			
配当年次	2	開講時限	秋土3	
受講者数	9	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.63	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.38	4.63	5	5	4
4	4.38	4.63	5	5	4
5	4.50	4.75	5	5	4
6	4.38	4.75	5	5	4
7	4.63	4.75	5	5	4
8	4.38	4.63	5	5	3
9	4.25	4.38	5	5	3
10	4.25	4.75	5	5	4
11	4.50	4.88	5	5	4
12	5.00	4.88	5	5	4
13	1.75	1.63	1	3	1
14	1.75	1.75	2	3	1
15	3.88	4.63	5	5	4
16	3.88	4.88	5	5	4
17	4.25	4.63	5	5	4
回答者数	8	8			



受講生の傾向

公認会計士試験合格者、受験生、税理士志望者、一般企業の経理職志望者、留学生等目標を異にする受講生構成でそれぞれの要求事項が相違している状況にあった。

ただ、受講生相互で協力する形式で講義を進めたこともあり、和やかな人間関係を構築してくれたと思われる。ヒントを与えると自力で課題を克服しようとする熱心さを持ち合わせている受講生が大半であった。ただ、若干日本語能力に難があり、十分にコミュニケーションが取れなかった受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

財務会計ソフトの実践演習を少なくし、事業計画の立案や大量のデータ処理をするために必要とされるエクセル関数を活用できるよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

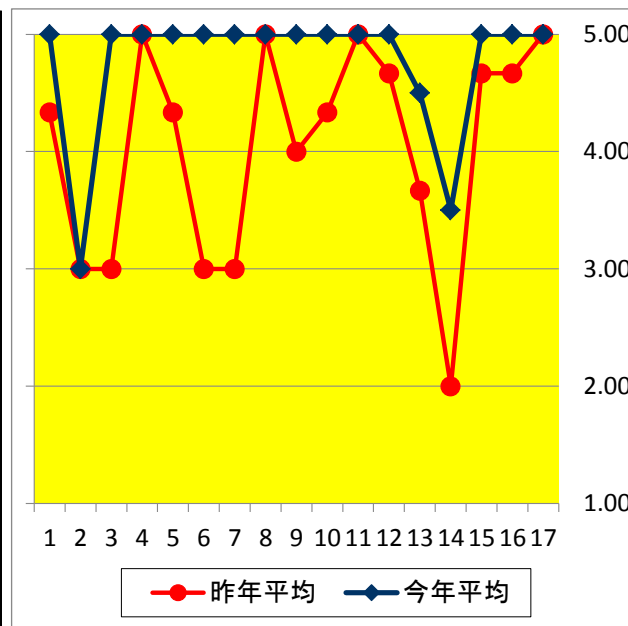
パソコン能力は、ビジネス社会では必須なので、エクセルの基本操作を確実に行えるよう指導し、事業計画などの実践的な指導を行うよう対応したいと考えています。財務会計ソフトの活用方法も、決算をするというよりは、入力されたデータの活用を中心に指導していきたいと考えています。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年同様事業計画の立案や、大量のデータ処理を中心に実践的な講義を展開しようと考えている。受講生のパソコン処理能力を見ながら、できるだけ社会に出てから有用な知識を身に付けてもらえるよう指導する予定である。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋火5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	3.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.33	5.00	5	5	5
6	3.00	5.00	5	5	5
7	3.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.33	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.67	5.00	5	5	5
13	3.67	4.50	4・5	5	4
14	2.00	3.50	2・5	5	2
15	4.67	5.00	5	5	5
16	4.67	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	2			



受講生の傾向

二人とも留学生であった。二人とも、言語の壁はあったものの、それを克服するよう、毎回真摯に意欲高く学習していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度同様に、論点を明確にし、ディスカッションで理解度が深まるよう留意しつつ、追加の具体的な説明を加えることにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

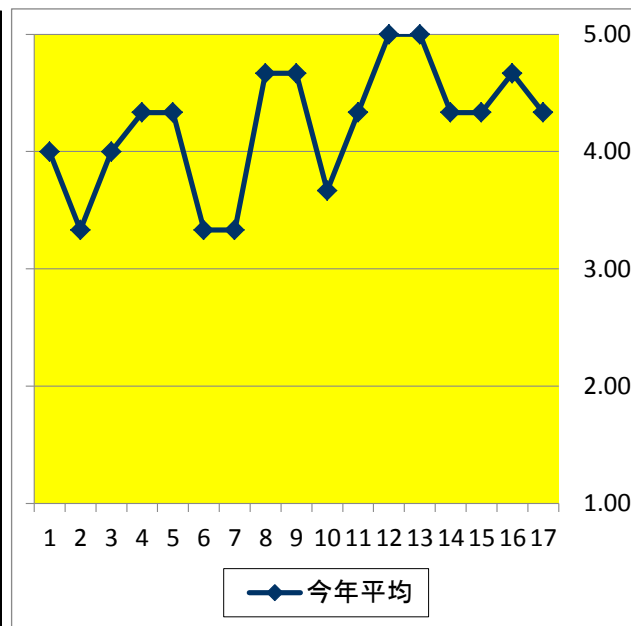
質問3,6,7について「3」の評価であり、受講生主体の問題設定やディスカッションを実施したためであるが、受講生が行う論点について、参考資料などを事前に紹介し、講義内では資料を提示するなどし、より受講生の主体的な学習を促す工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論点を明確にしつつ、ディスカッションとそれに伴う資料作成課題を重視したため、予習への時間が多く、復習への時間が短くなる傾向にあったため、復習にも注力するよう、各講義の開始時に前回の確認をし、復習ノートを作成させるような工夫を講じるつもりである。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(松本クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋木5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.33	3	4	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.33	4	5	4
6	—	3.33	3	4	3
7	—	3.33	3	4	3
8	—	4.67	5	5	4
9	—	4.67	5	5	4
10	—	3.67	2・4・5	5	2
11	—	4.33	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	4.33	5	5	3
15	—	4.33	4	5	4
16	—	4.67	5	5	4
17	—	4.33	4	5	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)において、100%を達成しており、また演習のための予習時間(項目13)も復習(項目14)時間も2時間以上確保できており、積極的に演習への参加が行なわれたことが表われている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習当初に演習生からの希望を聴取し、財務諸表論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行なえるように、複数の課題を事前に配布した。この結果、受講生も予習時間(項目13)と復習時間(項目14)に2時間以上を掛けていることが判る。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

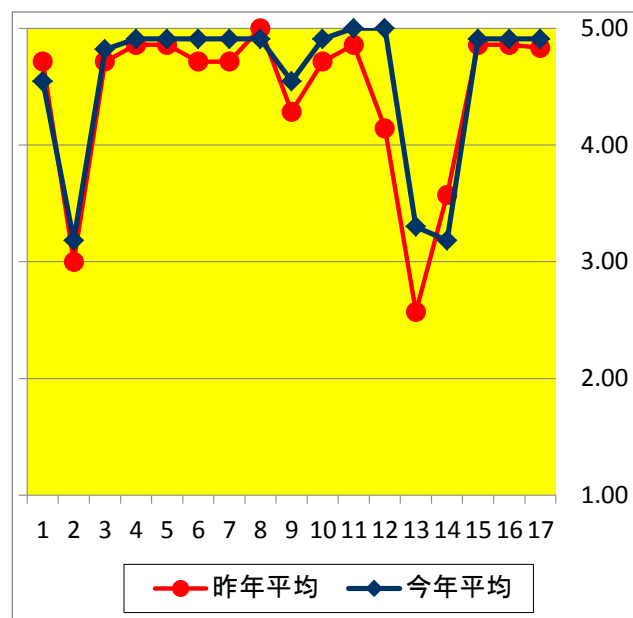
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習生同士の討議や検討の時間がなかなか持てないため、相互にコミュニケーションを取れる機会を演習時間とは別に設ける必要があると思われる。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(三島クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋火5	
受講者数	12	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.55	5	5	3
2	3.00	3.18	3	5	3
3	4.71	4.82	5	5	4
4	4.86	4.91	5	5	4
5	4.86	4.91	5	5	4
6	4.71	4.91	5	5	4
7	4.71	4.91	5	5	4
8	5.00	4.91	5	5	4
9	4.29	4.55	5	5	3
10	4.71	4.91	5	5	4
11	4.86	5.00	5	5	5
12	4.14	5.00	5	5	5
13	2.57	3.30	3	5	1
14	3.57	3.18	3	5	1
15	4.86	4.91	5	5	4
16	4.86	4.91	5	5	4
17	4.83	4.91	5	5	4
回答者数	7	11			



受講生の傾向

今年度はソリューション・イン・アカデミックという授業でありながら、受講者が12名と多かった。受講生全体として、ほとんどが公認会計士志望者であったが、学習進度にはばらつきがあった。また、ソリューションという科目だけあって、受講生は総じてまじめで熱心に授業に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は基本的に学生の学習希望やレベルを勘案しながら授業を行うので、12名を2クラスに分割し、それぞれ希望の学習内容とレベルに応じた授業を行った。その結果、週2回の授業を行うこととなったが、学生数は適正となって、内容としては学生の希望に沿うような授業ができたように思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

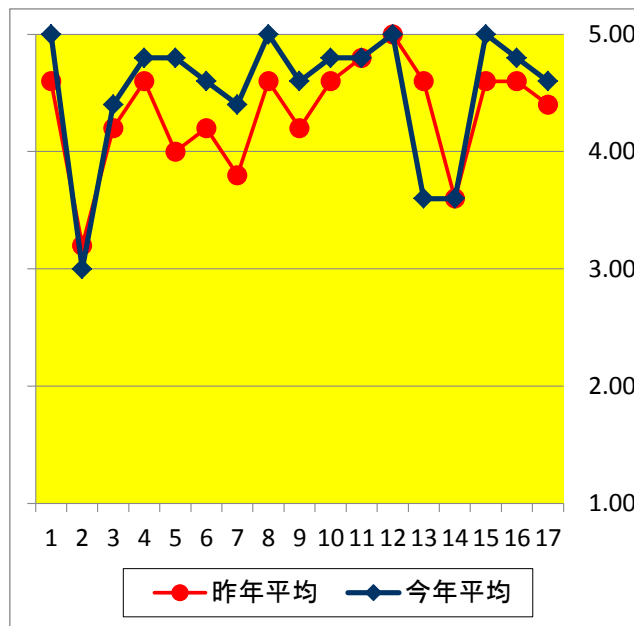
今回の授業に関しては、教員と学生間における対話を中心に組み立てていたが、学生が一定数以上(例えば4人以上)いる場合には、学生間における討論も積極的に行われるように工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度行ったようなクラスを二つに分割するということは、時間割を変更する際に学生と教員の都合がつけば行うことができるという本来的な方法ではないため、今後はやはり原則的な形態である1クラスでも授業を行えるようにしなければならない。その際に学生の学習レベルや弱点、その他学生の進路に至るまで、ケアできるよう心がけねばならない。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋木5	
受講者数	6	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	5.00	5	5	5
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.20	4.40	5	5	3
4	4.60	4.80	5	5	4
5	4.00	4.80	5	5	4
6	4.20	4.60	5	5	4
7	3.80	4.40	5	5	3
8	4.60	5.00	5	5	5
9	4.20	4.60	5	5	3
10	4.60	4.80	5	5	4
11	4.80	4.80	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.60	3.60	3・5	5	2
14	3.60	3.60	3・5	5	2
15	4.60	5.00	5	5	5
16	4.60	4.80	5	5	4
17	4.40	4.60	5	5	4
回答者数	5	5			



受講生の傾向

5名の受講生のうち、4名が税理士志望者で、残り1名が留学生という構成であった。ただ、税理士志望者もそれぞれの関心領域が異なっており、所得税法、法人税法、消費税法、相続税法からそれぞれ報告がなされたため、受講生にとっては新鮮であったようである。また、質問No.7の結果の通り、ホワイトボードを使って、取引をできる限り図式化するようにした結果、受講生の理解の一助につながったものと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1回及び第2回の講義で、デモンストレーションの意味から、判例分析による報告を行った。また、受講生間の議論が一通り終わったのち、受講生のさらなる理解の向上を目指すため、各租税事件で問題となった条文解釈に関する質疑応答を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

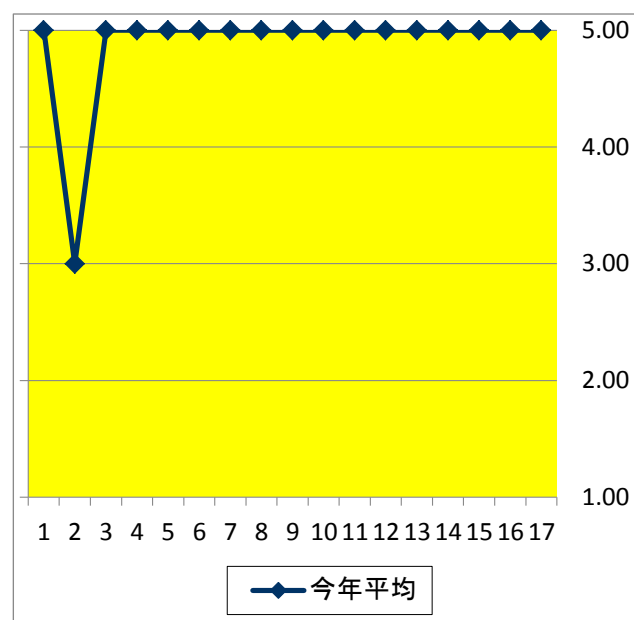
受講生間では条文解釈に関する議論があまり行われず、受講生は解釈論を苦手としているようであった。そこで、受講生には必ず報告レジュメに条文を記載させ、その解釈適用について議論を行うよう誘導する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生からの報告では、租税事件の問題となった条文の解釈について、ほとんど説明がなされていなかった。これは、判旨の論理構成が十分に理解できていないためと考えられる。そこで、受講生との質疑応答では、その点を重点的に行うようにしたい。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートイズ(加藤クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋木5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

公認会計士試験の合格者であり、たいへん熱心に課題に取り組んでいた。1つの研究課題について多くの文献を渉猟し、自ら深く考えることができ、ディスカッションにも意欲的であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は1名であり、当該学生の受講目的を満足させるように講義を行った。プレゼンテーションの資料は、レジメ形式ではなく論文形式でまとめさせ、各章各節はもちろん段落ごと(場合によっては一文ごと)のつながりを確認し、論理展開に無理や矛盾ないし飛躍がないかどうか、内容を正しく理解しているかどうか、それが文章として適切に表現されているかどうかなど、事細かにディスカッションを行った。また、二次資料等からの孫引用は厳しくチェックし、洋書か和書かを問わず一次資料を必ず確認させて、原典出所を明らかにするように指導した。そして、最終的な成果として、30,000字程度のオリジナリティのある論文を書き上げた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

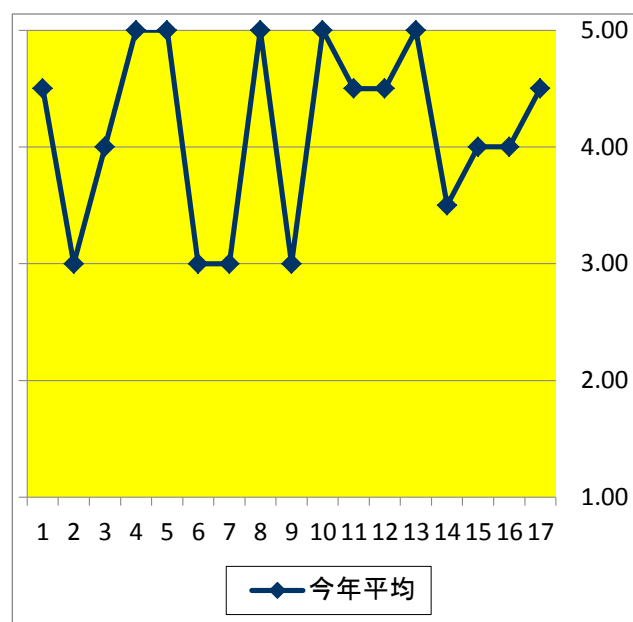
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本ソリューションは2年次秋学期の科目であり、本研究科修了後の様々なビジネスシーンで活躍できるスキルを磨くことを目的として指導を行った。公認会計士として国際的な舞台で活躍するためには、IFRSを原文で読むことも必要となるであろう。本年度の受講生は、最初に苦手としていた英文も、次第に積極的に読めるようになっていった。今後の本ソリューションでも、プレゼンテーションやディスカッションの力はもちろん、英文読解力を大切にして指導したい。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートタイズ(柴クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋木5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	3・5	5	3
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	3.00	3	3	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	5.00	5	5	5
9	—	3.00	3	3	3
10	—	5.00	5	5	5
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.50	4・5	5	4
13	—	5.00	5	5	5
14	—	3.50	2・5	5	2
15	—	4.00	3・5	5	3
16	—	4.00	3・5	5	3
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受講生は2名だが、学習に臨む対応が大きく異なり、その結果、平均点では受講生の傾向を語れない。一方の学生が極めて熱心なのに対して、他の学生はそれほどでもない、という組み合わせであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年がはじめてなので、過去の経験ではなく、新たに両名の関心を引き出す課題を与えた。しかし、一方の学生が授業への参加意識が極めて低かったので、必ずしもクラス運営がうまくいったとは言えない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

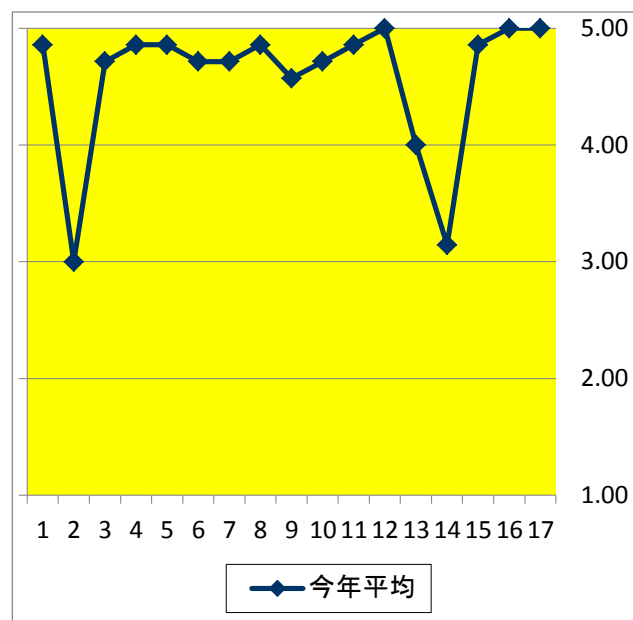
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の学習歴、キャリア設計に合わせた課題を与え、それに対する取り組みが熱心になるように工夫する。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートタイズ(松本クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋金5	
受講者数	7	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.86	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	4.86	5	5	4
5	—	4.86	5	5	4
6	—	4.71	5	5	3
7	—	4.71	5	5	3
8	—	4.86	5	5	4
9	—	4.57	5	5	3
10	—	4.71	5	5	4
11	—	4.86	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	4.00	3・5	5	3
14	—	3.14	2	5	2
15	—	4.86	5	5	4
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	7			



受講生の傾向

会計研究科最終の半年間の演習ということもあり、出席割合(項目12)は全員がほぼ100%となっており、極めてモラルの高い傾向が見出せる。必ずしも全員が公認会計士を志望していなかったこともあり、予習(項目13)・復習(項目14)ともに時間の確保が十分でなかったものがいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最終的な演習ということもあり、より実践的な演習とするために監査論の諸論点を網羅的かつ総合的に扱った。受講生には、当該問題への解答を事前に準備させることで、演習時には復習とともに全員による相互検証の機会とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

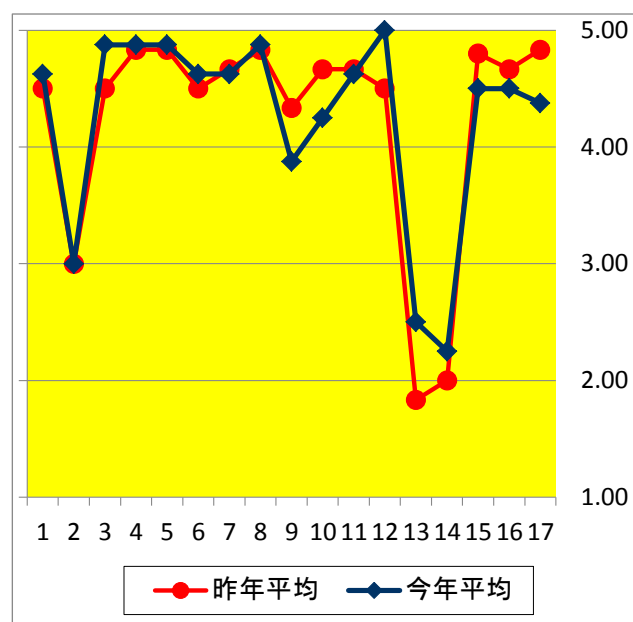
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士を志望するか否かにかかわらず、演習生に対しては、如何にして論文作成能力を高めるか、という観点からの解答の準備と相互検証に加えた、演習指導が必要と思われる。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートイズ(三島クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋木5	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.63	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.88	5	5	4
4	4.83	4.88	5	5	4
5	4.83	4.88	5	5	4
6	4.50	4.63	5	5	4
7	4.67	4.63	5	5	4
8	4.83	4.88	5	5	4
9	4.33	3.88	3・4	5	3
10	4.67	4.25	4	5	3
11	4.67	4.63	5	5	4
12	4.50	5.00	5	5	5
13	1.83	2.50	3	5	1
14	2.00	2.25	1	5	1
15	4.80	4.50	5	5	3
16	4.67	4.50	5	5	3
17	4.83	4.38	5	5	3
回答者数	6	8			



受講生の傾向

本授業の受講者は、この授業としては8名と多かった。ソリューションという授業だけあって、受講者の授業に対する意欲は高く、熱心に授業に取り組んでいた。基本的にグループによる議論およびその集約した内容の発表が授業の中心となるが、ここでは活発な意見交換・議論が行われていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューション・イン・エキスパートイズは、本研究科の最終学期に行われる授業であるので、極力学生がこれまで学習した内容を活用でき、かつ高度な内容を扱うように配慮した。具体的には、受講者のレベルが上がってきているので、題材としてそれにふさわしい、企業法としては判例などで議論のあるやや難解なものを選択するよう心掛けた。授業の進行としては、昨年度と同様に班分けを行い、その中で、議論を行い、その結果を発表しあって、そこからさらに議論を行うという進め方をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

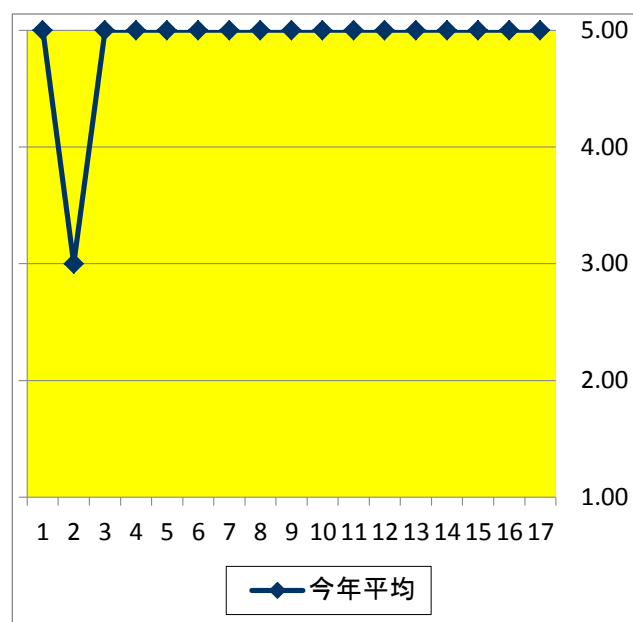
学生数がある程度存在することが前提となるが、今年度実施した班に分けての討論・報告方式は成功したように思うので、今後もこれを継続していきたい。ただ、班の中でも特に誰がというのではなく、それぞれの学生が活発に議論に加わるような環境づくりをしていく必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業全体を通して、活発に議論がなされ、ソリューションとしての目的は達成されているように思う。しかしながら、扱うテーマによっては、若干議論が停滞するような場面もあり、これについては助言や論点を示したりする必要があるように感じられた。また、1つのテーマから、派生して現れる論点については、あまり気づいてもらえなかったところもあるので、この点も今後は配慮したい。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートイズ(宗岡クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋水1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

非常に意識の高い学生で、ファイナンスと会計さらには税務についての深い興味があり、それに触発されながら指導を行った。

最終的には、ファイナンスと会計の関係についての論文にまとめることができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は不開講であったため、昨年度との比較はできないが、学生のやる気にあおられる形で、こちらも深く勉強しながら指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

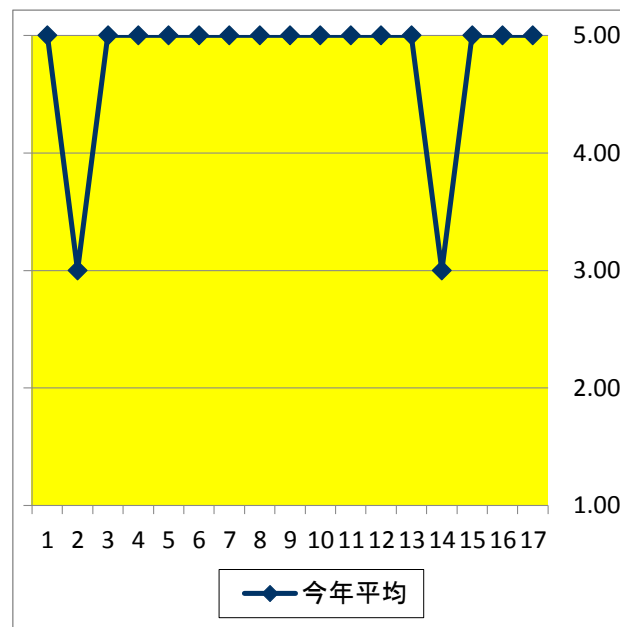
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の要求にこたえつつ、教員側も勉強して指導する。

科 目	論文指導・修士論文(基礎)(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	3.00	3	3	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

受講生は一人であったため、毎回課題を実施し、学習意欲が高く、真摯に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は該当なしであるが、毎回予習しておくべきこと、修士論文のための学習の全体像の位置付けやスケジュールを明確にするように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

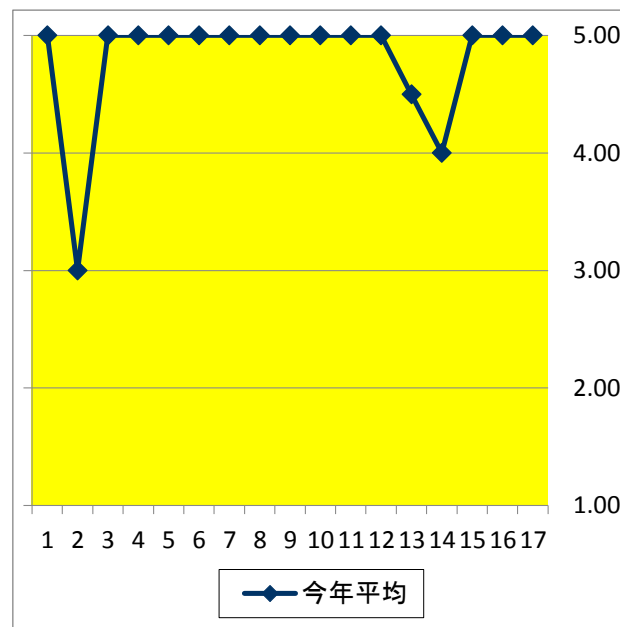
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習時間に比べ、復習時間が短い傾向にあるので、今年度留意したことを継続しつつ、復習ノートを作成させるなどの工夫を講じ、学習内容をよりしっかり理解するように促す所存である。

科 目	論文指導・修士論文(基礎)(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	4.50	4・5	5	4
14	—	4.00	3・5	5	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



受講生の傾向

本授業の受講者は2名であった。昨年度も開講されていないように、本授業は原則的には私のクラスは開講されないもので、珍しいことであった。特に「論文指導・修士論文(基礎)」とあるように、受講者は論文の書き方から構成、資料収集の方法や取り組み方など、論文執筆に関する基本を学ぶことを目的として受講していた。なかなか論文を書くということに慣れないようではあったが、授業にはまじめに取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の講義で工夫したこととしては、テーマの選び方から、資料の収集の仕方と論文の執筆方法に絞って授業を行ったことである。内容面に至っては半年という期間ではあまり深く扱うことはできなかった。必要な参考文献を収集し、それを正確に読み込むということが大切であり、それに時間を費やすようにした。最後には、その参考文献の引用方法なども正確に把握してもらうよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

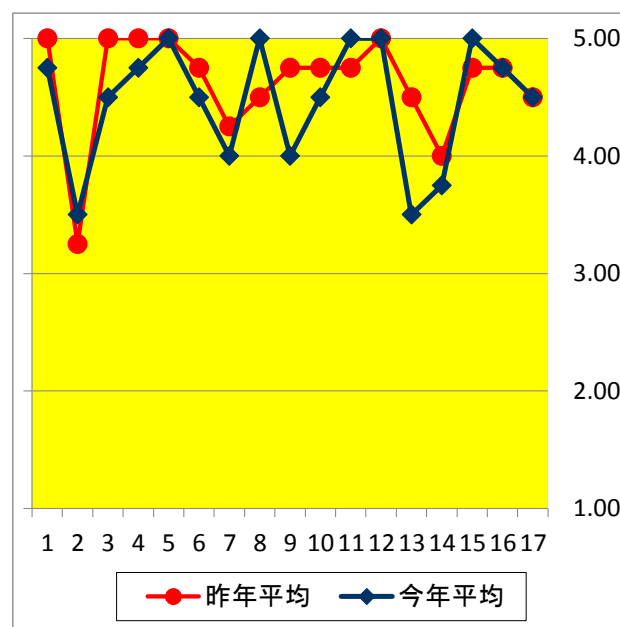
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本授業は、これに続く「論文指導・修士論文(実践)」につなげていくことも重要となってくるので、これのみで完結するものではない。しかしながら、「実践」につなげていくのに必要な指導は半年ではなかなか難しいと実感した。学生の希望を早めにくみ取り、秋学期の本授業が始まる前から、準備を行うなどの工夫が必要となるであろう。

科 目	論文指導・修士論文(基礎)(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	5	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.75	5	5	4
2	3.25	3.50	3	5	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.75	5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.75	4.50	4・5	5	4
7	4.25	4.00	3・5	5	3
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.75	4.00	3・5	5	3
10	4.75	4.50	4・5	5	4
11	4.75	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.50	3.50	3	5	3
14	4.00	3.75	3	5	3
15	4.75	5.00	5	5	5
16	4.75	4.75	5	5	4
17	4.50	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	4			



受講生の傾向

受講生5名のうち、1名が実務経験者で、残りはすべて未経験者であり、いずれも税理士志望者であった。アンケート結果は概ね、前年度よりも芳しくはないが、受講生は自身の研究テーマの確定に向けて、真摯にリサーチと報告を行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

レジュメ作成で必要な事項を第1回講義で伝えた後、各報告者には引用などを繰り返し注意喚起した。また、受講生には先行研究者の論文を発見し、報告するよう指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

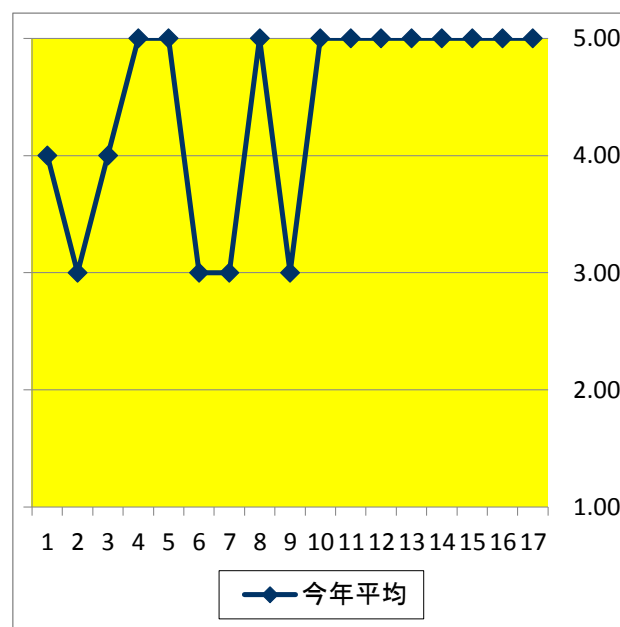
発表レジュメの模範が受講生にとって非常に有益であることが確認できた。従って、この点については今後も継続して行うことにする。また、引用については繰り返し指導を行い、受講生の意識変革を促す。さらに、租税法論文に必要な諸事項については、本年度と同様にレジュメを作成し、受講生のレベルアップに役立てたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の多くは、自身のテーマに関する先行研究者の論文を発見できなかった。また、発見しても、当該論文の手法や主張、さらにその主張の限界などをきちんと理解するところには至っていなかった。以上から、受講生が先行研究者の論文をきちんと理解できるまで、繰り返し報告を行わせることにする。

科 目	論文指導・修士論文(実践)(柴クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋火5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	3.00	3	3	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	5.00	5	5	5
9	—	3.00	3	3	3
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

とても熱心な学生であり、設問10以降がすべて5点満点となっているのは、予習復習に膨大な時間をかけるなど、取り組みの熱心さが目立つ学生であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

履修者の関心を刺激するような論文指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

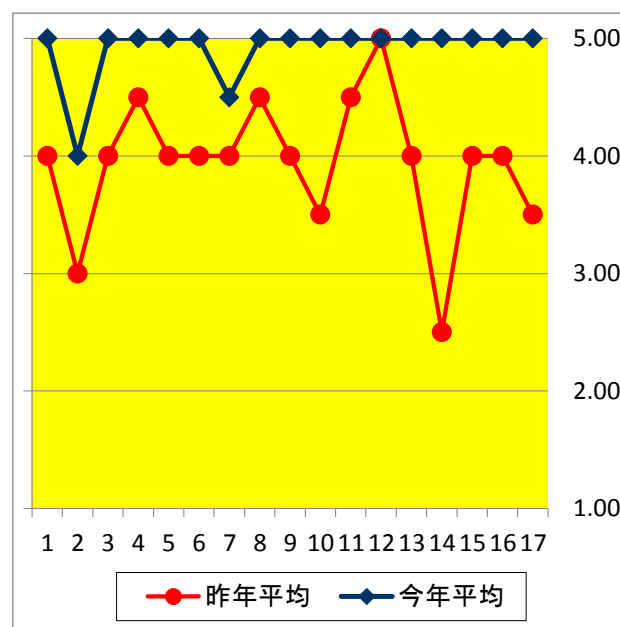
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論文指導は相手があるので、履修生に合わせて、関心を引き出すように工夫する。

科 目	論文指導・修士論文(実践)(中村クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋火5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	4.00	3・5	5	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	3.50	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	5.00	5	5	5
14	2.50	5.00	5	5	5
15	4.00	5.00	5	5	5
16	4.00	5.00	5	5	5
17	3.50	5.00	5	5	5
回答者数	2	2			



受講生の傾向

2名とも多くの外国文献を読むなど真摯に取り組んだ結果、2名とも修士論文を提出することができた。なお、質問No.2から前年度に比べて授業の進捗が早い、という結果であるが、受講生2名のうち、1名は論点設定が遅れたためと推測する。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

スケジュールについては、受講生に研究計画書を作成させ、受講生自身に自覚を促した。また、報告レジュメには、報告の目的、明らかになった事象、今後の予定などを必ず記載させるようにした。また、引用もれについては、なかなか改善されなかったため、最後まで繰り返し指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

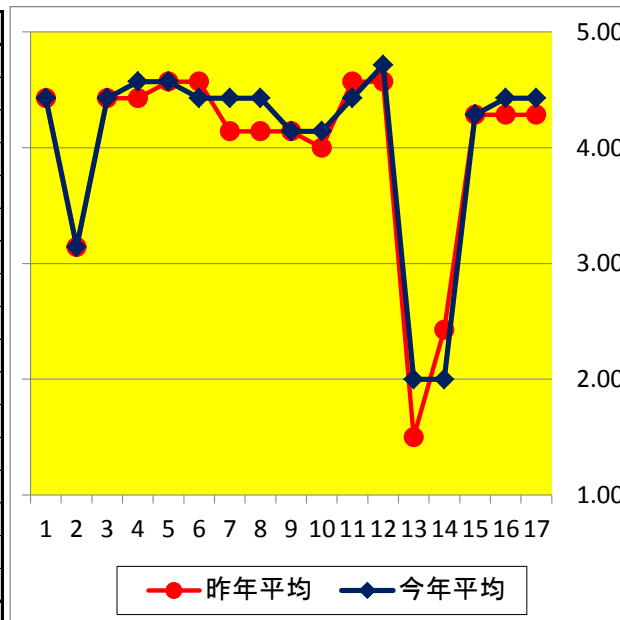
受講生に対して、修士論文完成までのスケジュールについて具体的な指示を出すことで、受講生自身に自覚を促す。また、報告レジュメの作成と引用もれの指摘については、今後も継続して行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

研究計画書の作成は、受講生にとって有効と考えるため、今後も継続して実施する。また、受講生には授業での報告と研究計画書に記載した研究計画との位置関係を絶えず意識させ、受講生自らが積極的に研究に取り組むよう指導したい。

科目	特殊講義(日本内部監査協会寄付講座 実践内部統制)			
配当年次	1	開講時限	秋後月6～7	
受講者数	10	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.43	4	5	4
2	3.14	3.14	3	5	2
3	4.43	4.43	4	5	4
4	4.43	4.57	5	5	4
5	4.57	4.57	5	5	4
6	4.57	4.43	4	5	4
7	4.14	4.43	4	5	4
8	4.14	4.43	4	5	4
9	4.14	4.14	5	5	3
10	4.00	4.14	5	5	3
11	4.57	4.43	4	5	4
12	4.57	4.71	5	5	3
13	1.50	2.00	1	5	1
14	2.43	2.00	1	5	1
15	4.29	4.29	4・5	5	3
16	4.29	4.43	4	5	4
17	4.29	4.43	4	5	4
回答者数	7	7			



受講生の傾向

昨年度に続く2度目の開講となるため、履修してきている学生のモラルは、出席率(項目13)に見られるようにほぼ90%を超えており、非常に高いものが見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

日本内部監査協会からの寄附講座ということもあり、社会人と本研究院院生との協働が非常に重要な教育効果を持つと期待される。このため授業中のケース・スタディのために編成されるチームは、社会人と院生の両者が含まれるように編成されている。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

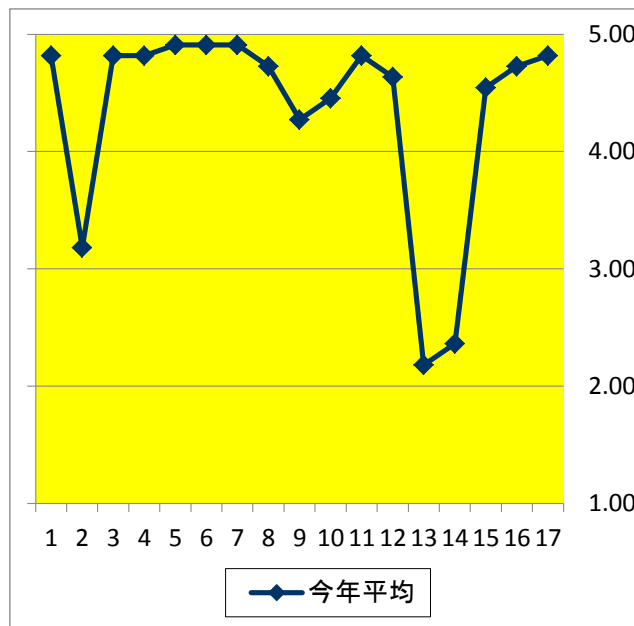
この授業は、本研究院院生と社会人の共同授業ということが大きな特徴であるので、教員から学ぶということのみならず、受講生同士の学び、すなわち院生が社会人の実務経験に触れ、社会人が院生から会計に関するアカデミックな考え方に触れることで、効果的に影響を受けあえるように配慮したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義時間数が3時間と長丁場となるため、要所要所でケース・スタディのためのグループ検討・報告の機会を設け、講師による机間巡回指導と確認を組み込んでいく必要がある。

科 目	特殊講義(コンサルティング実務)		
配当年次	1	開講時限	秋土2
受講者数	14	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.82	5	5	4
2	—	3.18	3	4	3
3	—	4.82	5	5	4
4	—	4.82	5	5	4
5	—	4.91	5	5	4
6	—	4.91	5	5	4
7	—	4.91	5	5	4
8	—	4.73	5	5	4
9	—	4.27	4	5	3
10	—	4.45	5	5	3
11	—	4.82	5	5	4
12	—	4.64	5	5	4
13	—	2.18	2	5	1
14	—	2.36	2	4	1
15	—	4.55	5	5	2
16	—	4.73	5	5	4
17	—	4.82	5	5	4
回答者数	—	11			



受講生の傾向

ある意味当たり前前の話ではあるが、コンサルティングに対して漠然としたイメージしかなく、その本質が何かを見極めようとする受講生が集まった印象を受けた。将来の方向性の一つとして、コンサルタントになりたいという意思を明確に持っていたとしても、華やかとかスマートとか、イメージが先行している感があることは否めない。その意味では、何にせよ、興味を持って受講してくれたこと自体、コンサルティングとは何かを伝える本講座開講の意味が大いにあったと感じる。

全体として出席率は良好であったが、それぞれ理由は異なるものの欠席しがちな受講生がいたことは残念である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初開講の講座であるため、どのような内容で講義を進めるかについては相当悩んだ。世の中には様々なコンサルティングがあり、これがコンサルティングだと言で語ることは非常に難しい。そこで、会計専門職大学院の講座であることは理解しつつも、最大公約数の発想で、コンサルティング全般に共通する要素や留意点に焦点を当てた解説を心掛けた。

また、コンサルティングはコンサルティングファームに努める、あるいは、コンサルタントと称する人々だけが提供するものではなく、広くビジネスの世界で日常的に行われていることだということを理解してもらえるように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(今年度新設科目)

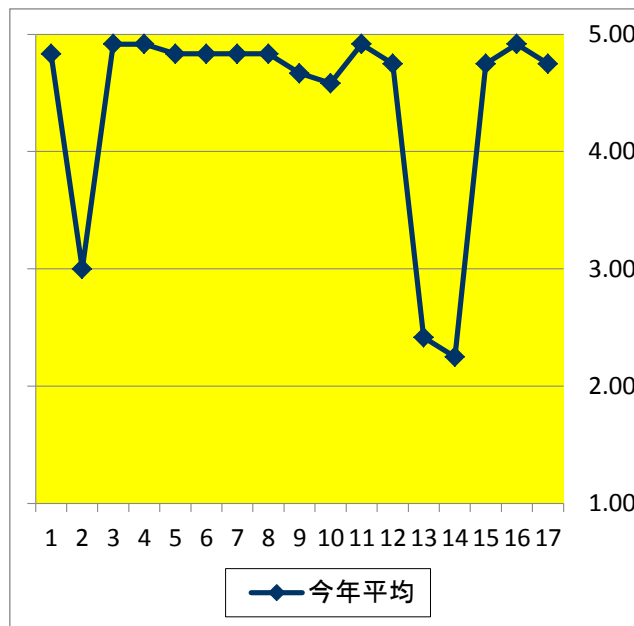
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

あらゆるビジネスのシーンで有用であるコンサルティングの要素を、具体的な活用事例に絡めて解説できるようにさらに内容を進化させていきたい。

また、PC教室の特性を活かして、コンサルティングの実務で多用されるビジネスソフトウェアに触れる機会を一層増やしていくことに取り組みたい。

科 目	不正摘発監査論		
配当年次	2	開講時限	秋土1
受講者数	15	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.83	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.92	5	5	4
4	—	4.92	5	5	4
5	—	4.83	5	5	4
6	—	4.83	5	5	4
7	—	4.83	5	5	4
8	—	4.83	5	5	4
9	—	4.67	5	5	4
10	—	4.58	5	5	4
11	—	4.92	5	5	4
12	—	4.75	5	5	4
13	—	2.42	2	4	1
14	—	2.25	2・3	3	1
15	—	4.75	5	5	4
16	—	4.92	5	5	4
17	—	4.75	5	5	3
回答者数	—	12			



受講生の傾向

監査の理論をある程度身に付けている受講生が多い印象を受けた。そのため、講義の内容について来ることができない受講生はほとんどいなかったように思う。よって、応用的な位置づけにあると認識している本講座と受講生のレベルはマッチしていると感じた。

ただ、就職活動等の影響もあり、全体として講義への出席率は決して高いとは言えない。毎回出席して講義に熱心に取り組む受講生と、欠席しがちで講義にも身が入っていない受講生と二極化していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度初めて担当したため昨年度との比較はできないが、企業の実際の活動と監査の現場を具体的にイメージできるような内容を伝えることを目標として定めた。身に付けた理論が、会計不正と対峙する際にどのように応用できるかに思いを巡らせることができるように努めた。さらに、不正がなくなることはないとの認識に立ち、監査に携わる者として不正に向き合う心構えにも重点を置いて講義を進めた。

その他、PC教室の特性を活かして、監査の現場で多用するソフトウェアの操作方法や実務の疑似体験も盛り込んだ。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度不開講)

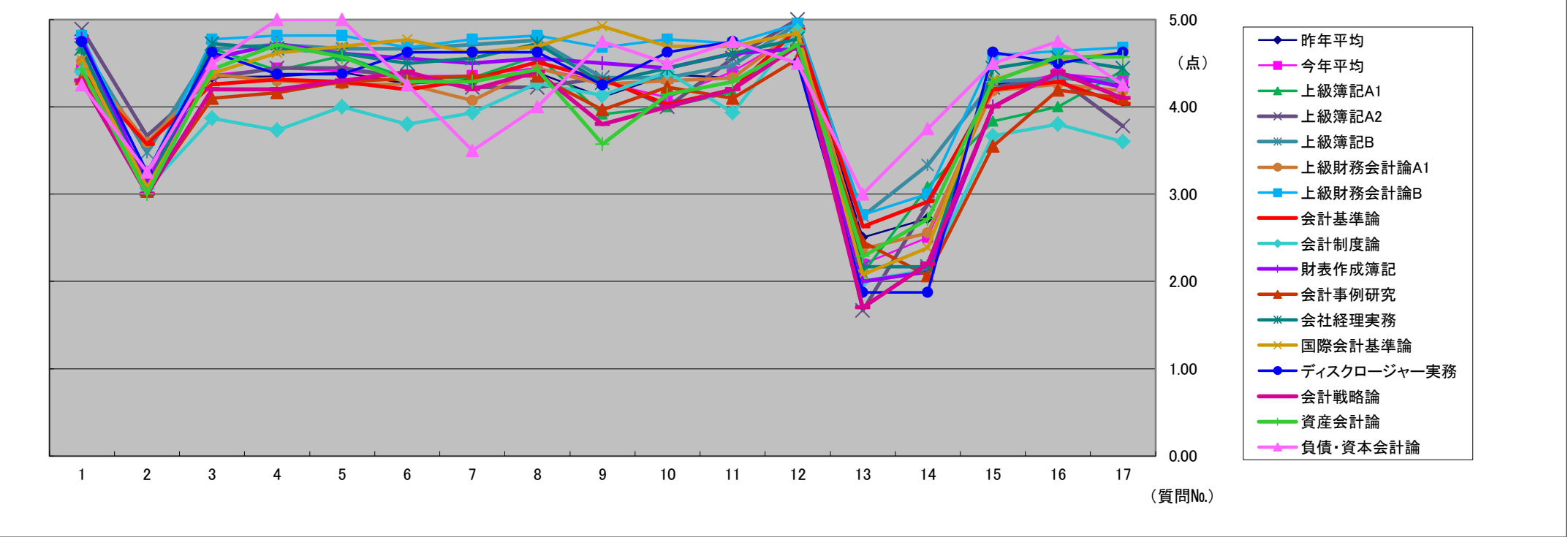
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

相次ぐ会計不正による企業不祥事に対して監査がどのような位置づけにあり、どのような役割を果たすべきか、次代を担う受講生に考えさせる講義を目指す。その意味では、単に事例や監査のテクニックを紹介するような内容に終始することなく、監査の本来の目的と機能、可能性と限界を意識し納得できるような講義にすべく、さらに工夫を重ねたい。また、PC教室の特性をさらに活かせるよう、毎回の講義の中で可能な限りPCに触れる工夫をしたい。

Ⅱ－(3)．2017 年度授業評価アンケート(系平均)結果概要

系： 財務会計
受講者数 306 回答者数 250

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記A1	上級簿記A2	上級簿記B	上級財務会計論A1	上級財務会計論B	会計基準論	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	会社経理実務	国際会計基準論	ディスクロージャー実務	会計戦略論	資産会計論	負債・資本会計論
1	4.43	4.56	4.67	4.89	4.71	4.52	4.82	4.40	4.40	4.78	4.32	4.67	4.54	4.75	4.30	4.43	4.25
2	3.19	3.23	3.08	3.67	3.48	3.59	3.23	3.57	3.07	3.11	3.03	3.06	3.08	3.25	3.00	3.00	3.25
3	4.37	4.43	4.67	4.33	4.67	4.37	4.77	4.26	3.87	4.56	4.10	4.72	4.38	4.63	4.20	4.43	4.50
4	4.44	4.48	4.42	4.44	4.71	4.30	4.82	4.31	3.73	4.72	4.16	4.67	4.62	4.38	4.20	4.71	5.00
5	4.41	4.50	4.58	4.44	4.67	4.26	4.82	4.29	4.00	4.61	4.29	4.61	4.69	4.38	4.30	4.57	5.00
6	4.35	4.40	4.33	4.33	4.67	4.26	4.68	4.20	3.80	4.56	4.32	4.50	4.77	4.63	4.40	4.29	4.25
7	4.36	4.33	4.33	4.22	4.71	4.07	4.77	4.31	3.93	4.50	4.35	4.56	4.62	4.63	4.20	4.29	3.50
8	4.45	4.49	4.58	4.22	4.76	4.44	4.82	4.51	4.27	4.56	4.35	4.72	4.69	4.63	4.40	4.43	4.00
9	4.28	4.27	3.92	4.33	4.33	4.26	4.68	4.31	4.13	4.50	3.97	4.28	4.92	4.25	3.80	3.57	4.75
10	4.11	4.33	4.00	4.00	4.33	4.30	4.77	4.03	4.40	4.44	4.23	4.44	4.69	4.63	4.00	4.14	4.50
11	4.41	4.43	4.17	4.56	4.48	4.33	4.73	4.20	3.93	4.61	4.10	4.61	4.69	4.75	4.20	4.29	4.75
12	4.84	4.78	4.92	5.00	4.95	4.89	4.95	4.89	4.87	4.67	4.55	4.78	4.85	4.50	4.70	4.71	4.50
13	2.20	2.25	2.09	1.67	2.75	2.37	2.76	2.63	2.00	2.00	2.45	2.17	2.08	1.88	1.70	2.29	3.00
14	2.50	2.61	3.08	2.89	3.33	2.56	3.00	2.91	2.13	2.11	2.06	2.17	2.38	1.88	2.20	2.71	3.75
15	4.22	4.18	3.83	4.22	4.29	4.19	4.59	4.20	3.67	4.00	3.55	4.44	4.31	4.63	4.00	4.29	4.50
16	4.38	4.37	4.00	4.33	4.33	4.26	4.64	4.29	3.80	4.39	4.19	4.56	4.54	4.50	4.40	4.57	4.75
17	4.32	4.26	4.42	3.78	4.29	4.19	4.68	4.03	3.60	4.22	4.10	4.44	4.62	4.63	4.10	4.57	4.25
回答者数	244	250	12	9	21	27	22	35	15	18	31	18	13	8	10	7	4



受講生の傾向

いずれの科目も出席率が高い。また、予習と複数にかけける時間は30分から1時間程度である。今年度の特徴としては、履修生の多い科目では評価が低くなり、反対に履修生の少ない科目では評価が高くなる傾向が見られる。これまでもややそういう傾向が見られたが今年度はそれが明確になりつつある。クラスの人数はどの科目もそれほど多くないし、講義の方法にもあまり変化がないとすれば、その原因は消化不良を起こしている履修生の割合が増えていることが考えられ、その原因も検討する余地がありそうである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上級簿記A1はQ2(進度)が劇的に間然する一方で、上級簿記A2と上級簿記Bのそれは早すぎると感じられており消化不良に陥る可能性がある。会計基準論も同じ事が言える。昨年指摘した会計事例研究と会計制度論の満足度はやや改善している。各担当者が記した工夫や留意点を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

相対的に高い評価を得ている諸科目は現在の受講生の求めるところに合っているともいえるので、これまでの工夫を継続していくのが良い。一方、低い評価を得ている科目は現在の受講生にあわないことから工夫が求められる。現在の受講生と強調する理由は、同じ教授法であって高い評価を得ていたものが下がってきているので、教授法の不適合化が起きているかも知れない。いずれにしろ、担当者各位の工夫に期待する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

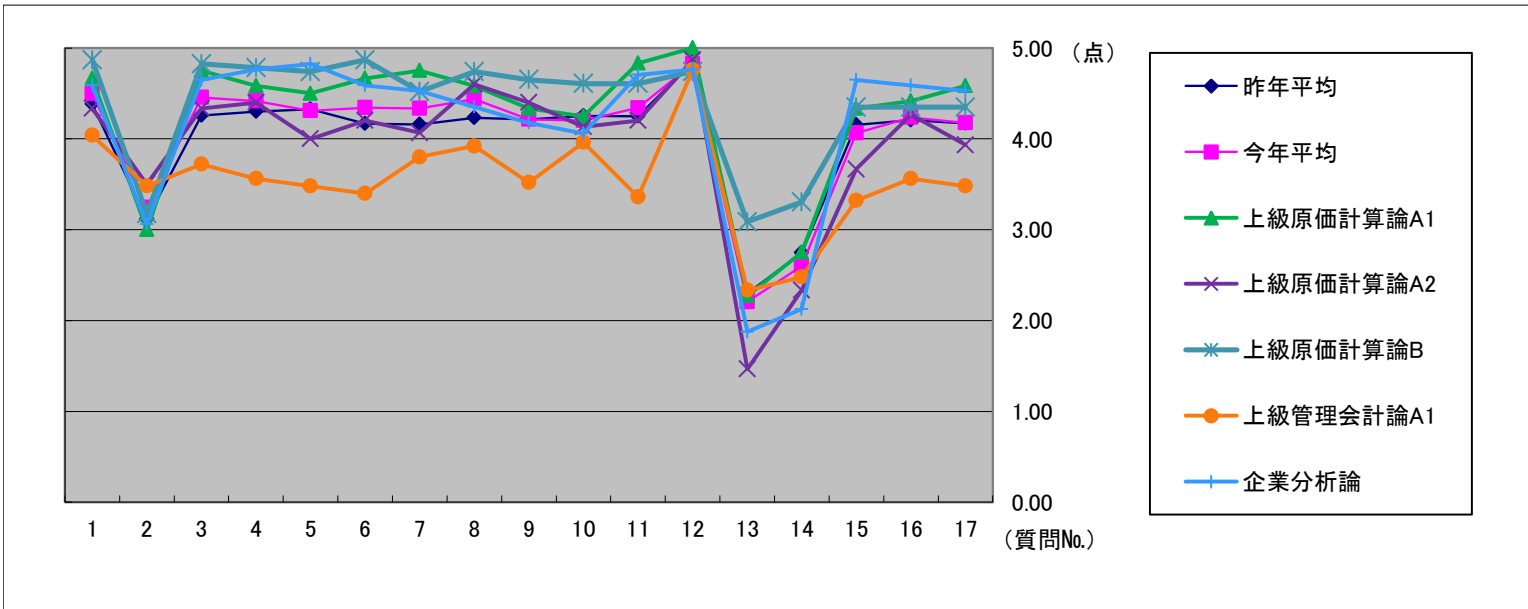
昨年と同様のことを指摘できる。相対的に高い評価を得ている諸科目は現在の受講生の求めるところに合っているともいえるので、これまでの工夫を継続していくのが良い。一方、低い評価を得ている科目は現在の受講生にあわないことから工夫が求められる。現在の受講生と強調する理由は、同じ教授法であって高い評価を得ていたものが下がってきているので、教授法の不適合化が起きているかも知れない。いずれにしろ、担当者各位の工夫に期待する。

系： 管理会計

受講者数： 109

回答者数： 92

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論A1	上級原価計算論A2	上級原価計算論B	上級管理会計論A1	企業分析論
1	4.38	4.50	4.67	4.33	4.87	4.04	4.59
2	3.12	3.24	3.00	3.50	3.17	3.48	3.06
3	4.26	4.46	4.75	4.33	4.83	3.72	4.65
4	4.30	4.42	4.58	4.40	4.78	3.56	4.76
5	4.33	4.31	4.50	4.00	4.74	3.48	4.82
6	4.17	4.34	4.67	4.20	4.87	3.40	4.59
7	4.16	4.33	4.75	4.07	4.52	3.80	4.53
8	4.23	4.44	4.58	4.60	4.74	3.92	4.35
9	4.21	4.22	4.33	4.40	4.65	3.52	4.18
10	4.25	4.20	4.25	4.13	4.61	3.96	4.06
11	4.25	4.34	4.83	4.20	4.61	3.36	4.71
12	4.85	4.83	5.00	4.87	4.74	4.76	4.76
13	2.30	2.21	2.27	1.47	3.09	2.33	1.88
14	2.74	2.60	2.75	2.33	3.30	2.48	2.13
15	4.16	4.06	4.33	3.67	4.35	3.32	4.65
16	4.20	4.24	4.42	4.27	4.35	3.56	4.59
17	4.17	4.17	4.58	3.93	4.35	3.48	4.53
回答者数	127	92	12	15	23	25	17



受講生の傾向

受講生は全体として、毎回出席して、まじめに講義に臨んでいたと考えられる。しかしながら、受講に先立って有する知識については、受講者間で大きな差が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度における評点の相対的な低下および受講者の多様化の進行をふまえて、今回は受講者別の対応をよりいっそうすすめるよう試みた。また、予習および復習の促進に関する意識付けを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

全体的な評点は、昨年度より低下したとはいえ、比較的良好であると考えられる。しかし、受講者の多様化の進行を受けて、受講者別の対応をよりいっそう進めることが必要であると考えられる。また、予習および復習の促進も必要であると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

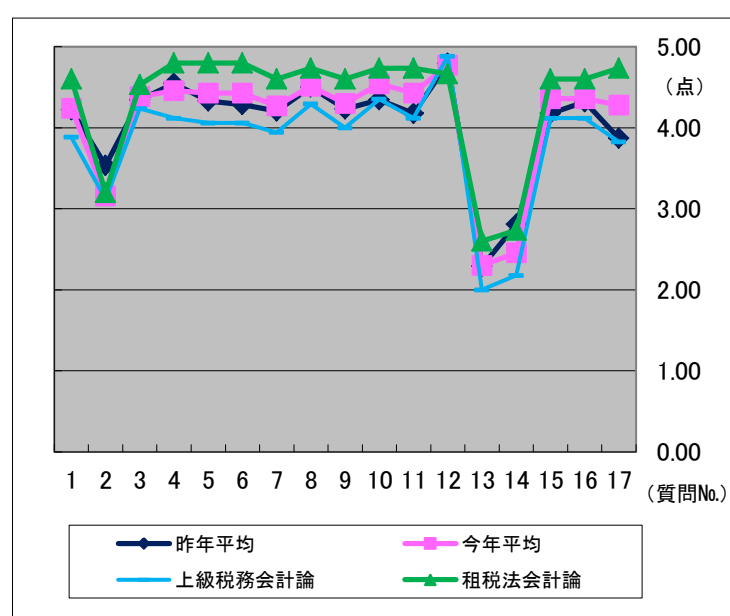
昨年よりは全体的な評点が向上したため、本年度の対応は一定の成果があったものと認識している。しかしながら、科目間のばらつき、および、同一科目であっても開講クラス間のばらつきが見られたため、受講者別の対応をより一層進めることが必要であると考えている。

系： 税務会計

受講者数： 42

回答者数： 32

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	4.22	4.24	3.88	4.60
2	3.53	3.16	3.12	3.20
3	4.34	4.38	4.24	4.53
4	4.55	4.46	4.12	4.80
5	4.33	4.43	4.06	4.80
6	4.29	4.43	4.06	4.80
7	4.21	4.27	3.94	4.60
8	4.50	4.51	4.29	4.73
9	4.23	4.30	4.00	4.60
10	4.34	4.54	4.35	4.73
11	4.18	4.43	4.12	4.73
12	4.79	4.77	4.88	4.67
13	2.29	2.30	2.00	2.60
14	2.81	2.45	2.18	2.73
15	4.18	4.36	4.12	4.60
16	4.32	4.36	4.12	4.60
17	3.87	4.28	3.82	4.73
回答者数	29	32	17	15



受講生の傾向

受講生は、昨年と同様、税務会計の初学者が多かった。また、質問No.17の結果が昨年平均よりも良好であったことは、初学者をはじめ、受講生にとって、今年度の授業が税務会計の学習に有益であったことを示していると思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上級税務会計論の一部内容を租税法会計論で取り扱うことにした。また、今年度より直近の税制改正が織り込まれたテキストを使用した。なお、同テキストと公認会計士試験にはレベルの差があるため、その対応として講義レジュメを充実させた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

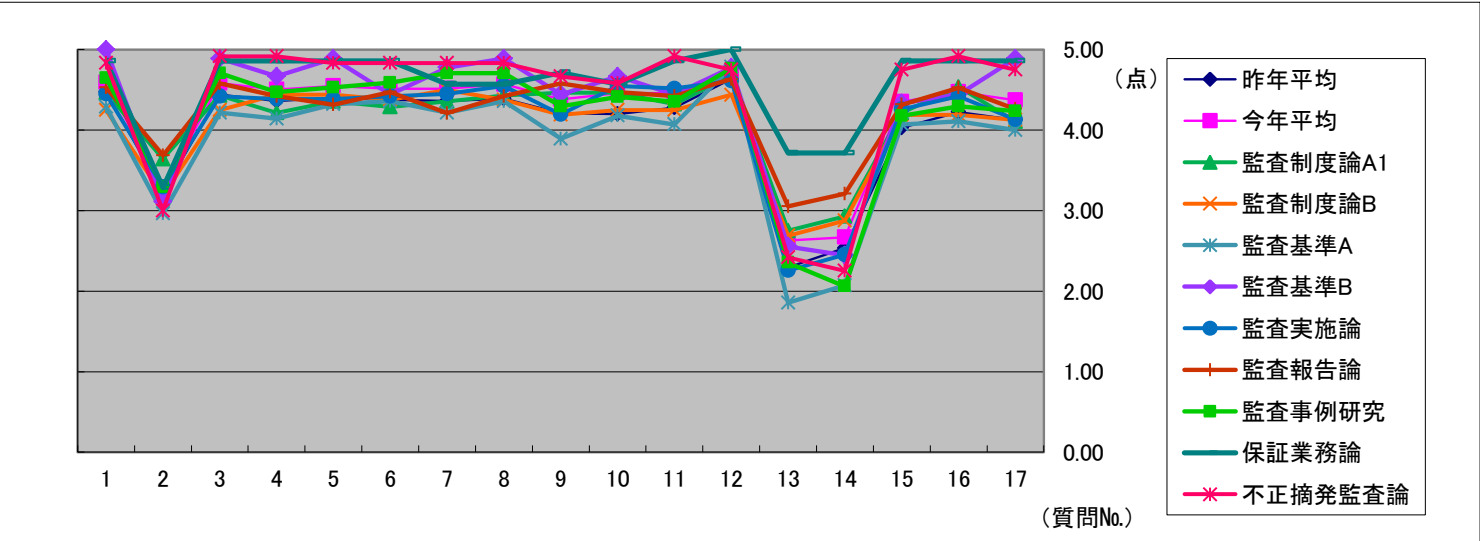
「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させる方法を継続する。但し、会計士試験において法人税法の対象範囲が拡大しているため、「租税法会計論」においても法人税法を一部取り込み、「上級税務会計論」における負担軽減を図る。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度より使用したテキストの有用性を確認できたので、次年度も継続する。また、上級税務会計論と租税法会計論の連動を維持しつつ、その役割を見直し、税務会計の学習効果のさらなる向上を目指す。

系： 監査
受講者数：218 回答者数： 167

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論A1	監査制度論B	監査基準A	監査基準B	監査実施論	監査報告論	監査事例研究	保証業務論	不正摘発監査論
1	4.48	4.59	4.46	4.25	4.29	5.00	4.45	4.53	4.65	4.86	4.83
2	3.23	3.27	3.64	3.19	2.96	3.11	3.29	3.68	3.29	3.29	3.00
3	4.44	4.58	4.43	4.25	4.21	4.89	4.42	4.58	4.71	4.86	4.92
4	4.36	4.50	4.21	4.44	4.14	4.67	4.39	4.42	4.47	4.86	4.92
5	4.40	4.55	4.36	4.44	4.32	4.89	4.39	4.32	4.53	4.86	4.83
6	4.38	4.51	4.29	4.38	4.36	4.44	4.42	4.47	4.59	4.86	4.83
7	4.36	4.51	4.36	4.50	4.21	4.78	4.45	4.21	4.71	4.57	4.83
8	4.39	4.57	4.43	4.38	4.36	4.89	4.55	4.42	4.71	4.57	4.83
9	4.21	4.38	4.46	4.19	3.89	4.44	4.19	4.58	4.29	4.71	4.67
10	4.20	4.46	4.46	4.25	4.18	4.67	4.55	4.47	4.41	4.57	4.58
11	4.28	4.46	4.32	4.25	4.07	4.44	4.52	4.42	4.35	4.86	4.92
12	4.64	4.72	4.68	4.44	4.79	4.78	4.61	4.63	4.76	5.00	4.75
13	2.30	2.63	2.75	2.69	1.86	2.56	2.26	3.05	2.35	3.71	2.42
14	2.53	2.67	2.93	2.88	2.07	2.44	2.45	3.21	2.06	3.71	2.25
15	4.03	4.35	4.21	4.19	4.07	4.33	4.26	4.32	4.18	4.86	4.75
16	4.22	4.48	4.54	4.19	4.11	4.44	4.42	4.53	4.29	4.86	4.92
17	4.12	4.37	4.11	4.13	4.00	4.89	4.13	4.26	4.24	4.86	4.75
回答者数	107	167	28	16	28	9	31	19	17	7	12



受講生の傾向

全ての監査系の科目(9科目)において、受講生の出席状況(項目12)は、80～90%以上を確保しており、「監査制度論」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外でも、受講生の参加意欲は極めて高かったと評価できる。しかし、具体的な参加意欲が顕在化した予習時間(項目13)と復習時間(項目14)を見ると、最も短い時間で30分程度、長いもので1時間から1時間半となっているため、科目によって受講生の学習態度に散つきが見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置が講じられており、これは2017年度版「出講の手引き」に沿った講義方式である。また2つの基本科目(「監査制度論A1・B」と「監査基準A・B」)以外は発展科目および応用科目であるため、「監査実施論」「監査報告論」「監査事例研究」「保証業務論」「不正摘発監査論」のすべてでケース・スタディ形式が組み込まれており、その教育効果もあって全項目で昨年度より全体的に改善している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

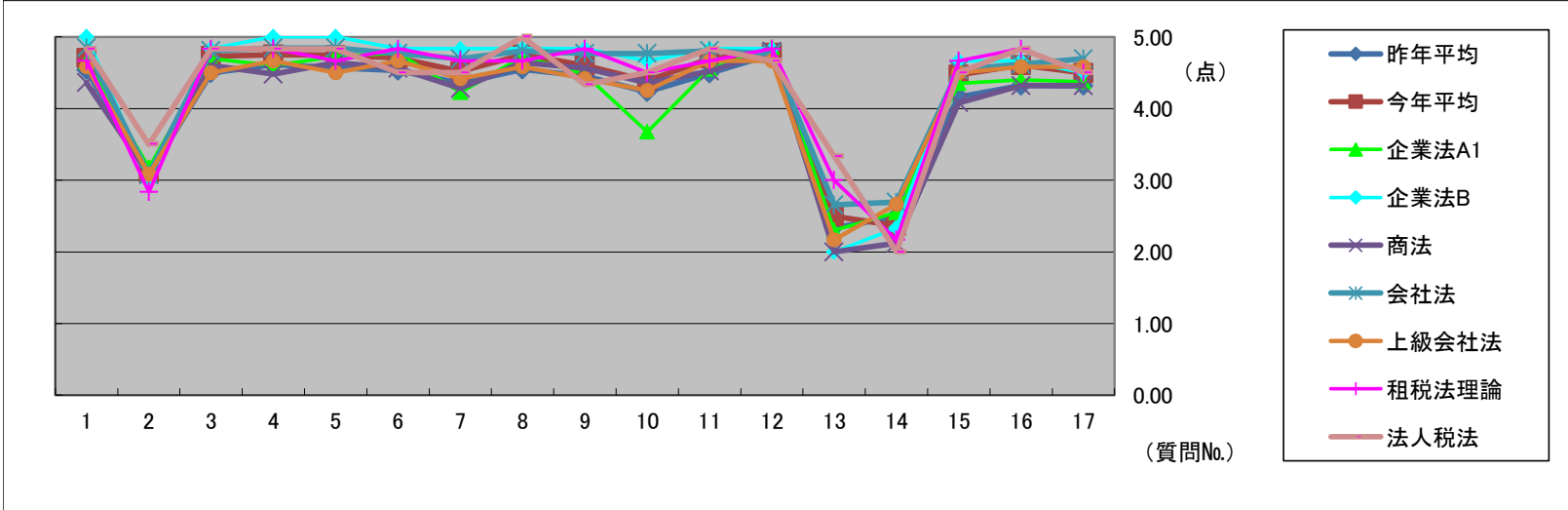
会計大学院における教育の目標である単なる暗記教育ではなく、高度な思考力の涵養による会計専門職の育成が可能となるように、適時の課題付与による自発的学習への動機付けと、その結果の理解度に関する逐次確認を可能とする仕組みを、今学期に続き次年度も各担当者によって維持する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的にほぼ全ての質問項目で肯定的回答が得られているが、相変わらず自主的な学習時間の確保が科目によっては必ずしも十分に確保できていないため、教育効果を高めることを目的に、小テストの実施・添削・返却やグループ研究・発表・評価といった双方向の遣り取りを講じることで、受講生のモラル向上を図る必要がある。

系： 法律
受講者数： 150 回答者数： 121

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法A1	企業法B	商法	会社法	上級会社法	租税法理論	法人税法
1	4.54	4.71	4.65	5.00	4.36	4.85	4.58	4.67	4.83
2	3.08	3.11	3.18	3.00	3.08	3.08	3.08	2.83	3.50
3	4.50	4.73	4.70	4.83	4.60	4.81	4.50	4.83	4.83
4	4.61	4.75	4.60	5.00	4.48	4.85	4.67	4.83	4.83
5	4.57	4.74	4.73	5.00	4.64	4.85	4.50	4.67	4.83
6	4.53	4.71	4.78	4.83	4.56	4.77	4.67	4.83	4.50
7	4.35	4.52	4.23	4.83	4.28	4.69	4.42	4.67	4.50
8	4.54	4.75	4.73	4.83	4.64	4.81	4.58	4.67	5.00
9	4.45	4.60	4.48	4.83	4.56	4.77	4.42	4.83	4.33
10	4.23	4.39	3.68	4.67	4.36	4.77	4.25	4.50	4.50
11	4.49	4.70	4.55	4.83	4.52	4.81	4.67	4.67	4.83
12	4.75	4.77	4.85	4.83	4.80	4.77	4.67	4.83	4.67
13	2.34	2.49	2.30	2.00	2.00	2.65	2.17	3.00	3.33
14	2.49	2.36	2.55	2.33	2.12	2.69	2.67	2.17	2.00
15	4.16	4.47	4.35	4.67	4.08	4.54	4.50	4.67	4.50
16	4.32	4.61	4.40	4.67	4.32	4.62	4.58	4.83	4.83
17	4.32	4.50	4.38	4.50	4.32	4.69	4.58	4.50	4.50
回答者数	130	121	40	6	25	26	12	6	6



受講生の傾向

法律系全体として、受講生は、昨年度よりは若干減少はしたものの、多い水準を保っている。具体的には、昨年度よりも会社法の受講生は減少しているものの、商法や税法科目で増加している。2年生配当科目で受講生が少数になる傾向がある。受講生の出席状況は受講態度は昨年と同様、良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法律系科目全体として、共通した法学の理解を促進し、法律学全体として底上げを図るよう努めた。特に、1年生配当科目でかつ春学期前半クォーターに開講される企業法の位置づけは重要で、今回のアンケートにもある商法や会社法、税法科目のみならず、その他開講されている民法等の科目の基礎的な位置づけとなるため、ここで企業法を理解するのみならず、全体的な法学に関する基礎知識等を学んでもらうよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

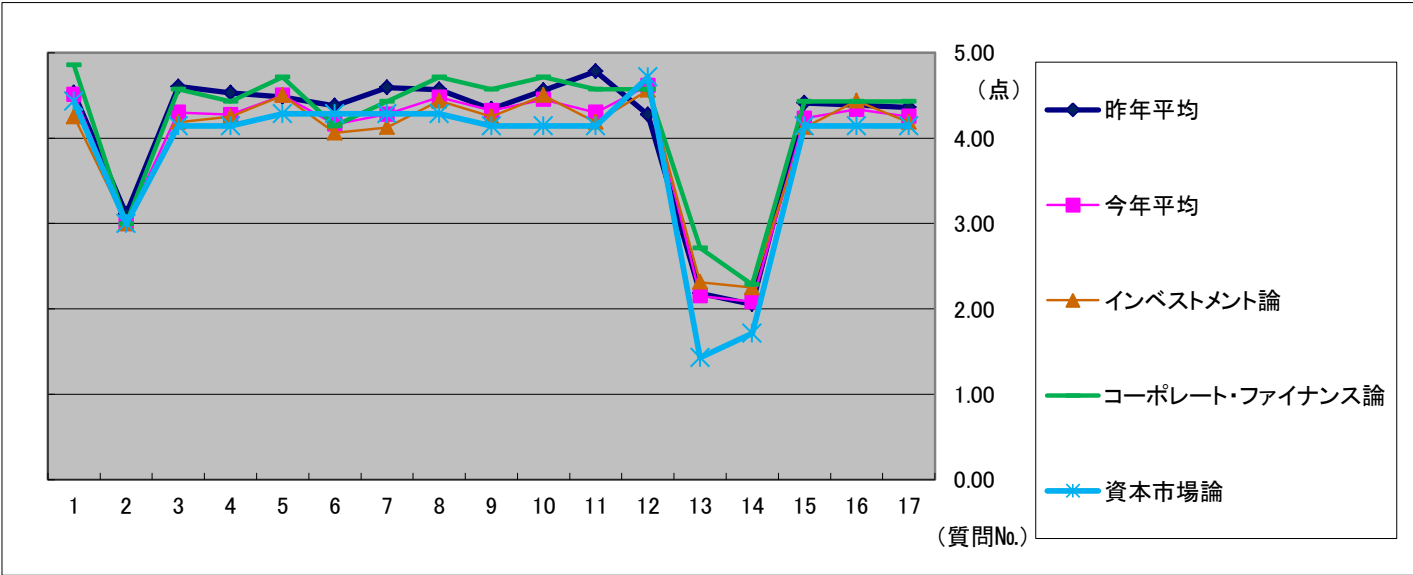
会計研究科の学生(特に1年生の春学期)には、法学に対してなじみがない、もしくは難しいといったイメージがあり、これを克服するよう心がけたい。特に学生には最初の段階で苦手意識をもたせないようにして、例えば、法全体の趣旨がわかれば法制度の内容はおのずとわかるなど、法学は理解するコツをおさえると難しくないということを早いうちに伝えるような授業にしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様になるが、会計研究科にはやはり会計系科目は得意であるが、法律系科目に対して苦手意識を持っている学生が少なからずいるようである。法学に関する理解をしてもらうようわかりやすい説明等を心がけることは重要であるが、これ以外にも、法律学に興味を持ってもらうような授業をする工夫(例えば、簡単な事例やケーススタディで具体的なイメージを持ってもらうなど)が必要であると感じた。

系： ファイナンス
受講者数：34 回答者数： 30

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論	資本市場論
1	4.53	4.51	4.25	4.86	4.43
2	3.11	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.60	4.30	4.19	4.57	4.14
4	4.53	4.27	4.25	4.43	4.14
5	4.48	4.50	4.50	4.71	4.29
6	4.38	4.16	4.06	4.14	4.29
7	4.59	4.28	4.13	4.43	4.29
8	4.57	4.48	4.44	4.71	4.29
9	4.34	4.32	4.25	4.57	4.14
10	4.56	4.45	4.50	4.71	4.14
11	4.78	4.30	4.19	4.57	4.14
12	4.28	4.62	4.56	4.57	4.71
13	2.18	2.15	2.31	2.71	1.43
14	2.05	2.08	2.25	2.29	1.71
15	4.41	4.23	4.13	4.43	4.14
16	4.39	4.34	4.44	4.43	4.14
17	4.36	4.25	4.19	4.43	4.14
回答者数	18	30	16	7	7



受講生の傾向

日本人の学生のみならず、留学生の受講者が多い傾向がある。ファイナンス分野に対する関心も、非常に高い学生から低い学生までさまざまであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のみならず、ビジネスゲームを行って、全体の雰囲気高めるとともに、受講生間のコミュニケーションを図るようにした。また、会計との関連について触れるとともに、様々な事例については、日本のみならず、海外の事例も意識して話すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

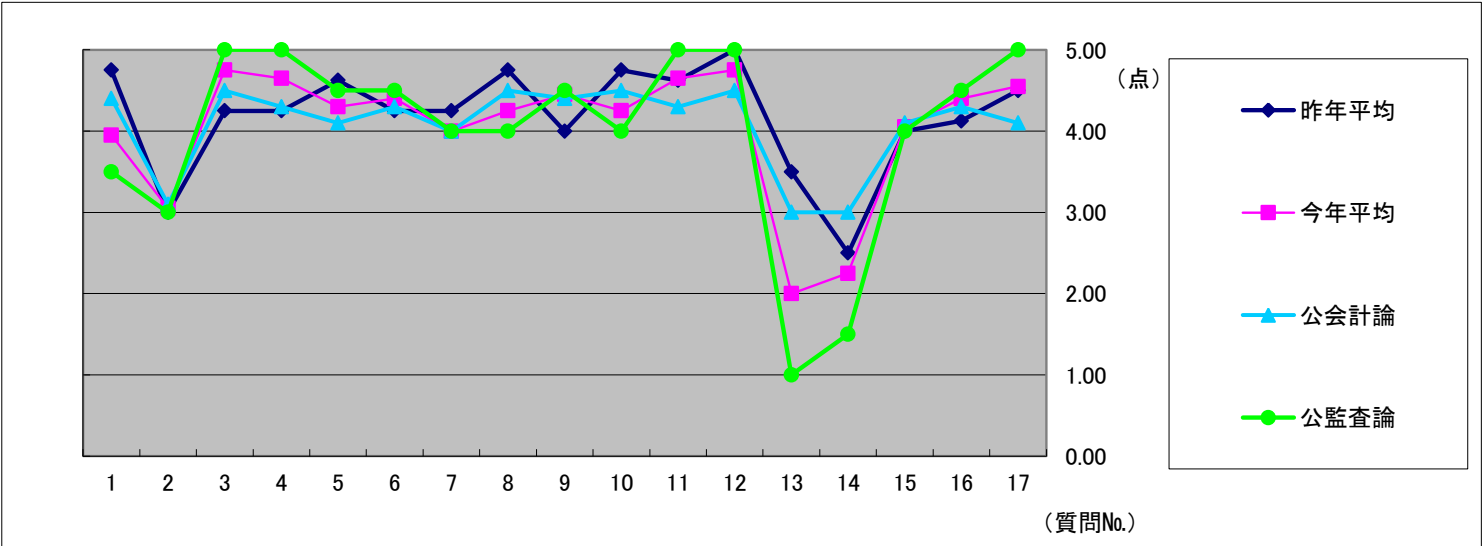
昨年度と同様、抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行うとともに、ファイナンス自体への高い興味やプライマリー・プライベートバンカー単位免除に向けて、将来のCFO養成のための授業を行う。ただし、興味のない学生については、熱心な学生の足を引っ張ってしまう面もあり、その格差の克服が課題である。不熱心な学生は受講をやめてもらうようにするか、会計から見たときの周辺分野を気軽に受講できるようなプログラムも必要ではないかと考えた。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様、抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行うとともに、ファイナンス自体への高い興味やプライマリー・プライベートバンカー単位免除に向けて、将来のCFO養成のための授業を行う。ただし、興味のない学生については、熱心な学生の足を引っ張ってしまう面もあり、その格差の克服が課題である。不熱心な学生は受講をやめてもらうようにするか、会計から見たときの周辺分野を気軽に受講できるようなプログラムも必要ではないかと考えた。

系： 行政
受講者数： 16 回答者数： 12

質問No.	昨年平均	今年平均	公会計論	公監査論
1	4.75	3.95	4.40	3.50
2	3.00	3.05	3.10	3.00
3	4.25	4.75	4.50	5.00
4	4.25	4.65	4.30	5.00
5	4.63	4.30	4.10	4.50
6	4.25	4.40	4.30	4.50
7	4.25	4.00	4.00	4.00
8	4.75	4.25	4.50	4.00
9	4.00	4.45	4.40	4.50
10	4.75	4.25	4.50	4.00
11	4.63	4.65	4.30	5.00
12	5.00	4.75	4.50	5.00
13	3.50	2.00	3.00	1.00
14	2.50	2.25	3.00	1.50
15	4.00	4.05	4.10	4.00
16	4.13	4.40	4.30	4.50
17	4.50	4.55	4.10	5.00
回答者数	5	12	10	2



受講生の傾向

公監査論は回答が2名なので一般化しにくい。対して、公会計論は10名なので多少一般的なことが言えそうである。ただし、履修者11名中外国人が8名であったことが特徴的である。予習・復習にかかる時間は公会計論では1時間程度、公監査論では0時間程度と多少差異が出た。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

いずれも新設科目なので前年度比較はできない。それぞれ履修生が少ないので、学生に合わせた工夫などはされている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

科目が違っているが「昨年度に示された対応を継続されるのが良いかも知れない。」と書かれている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

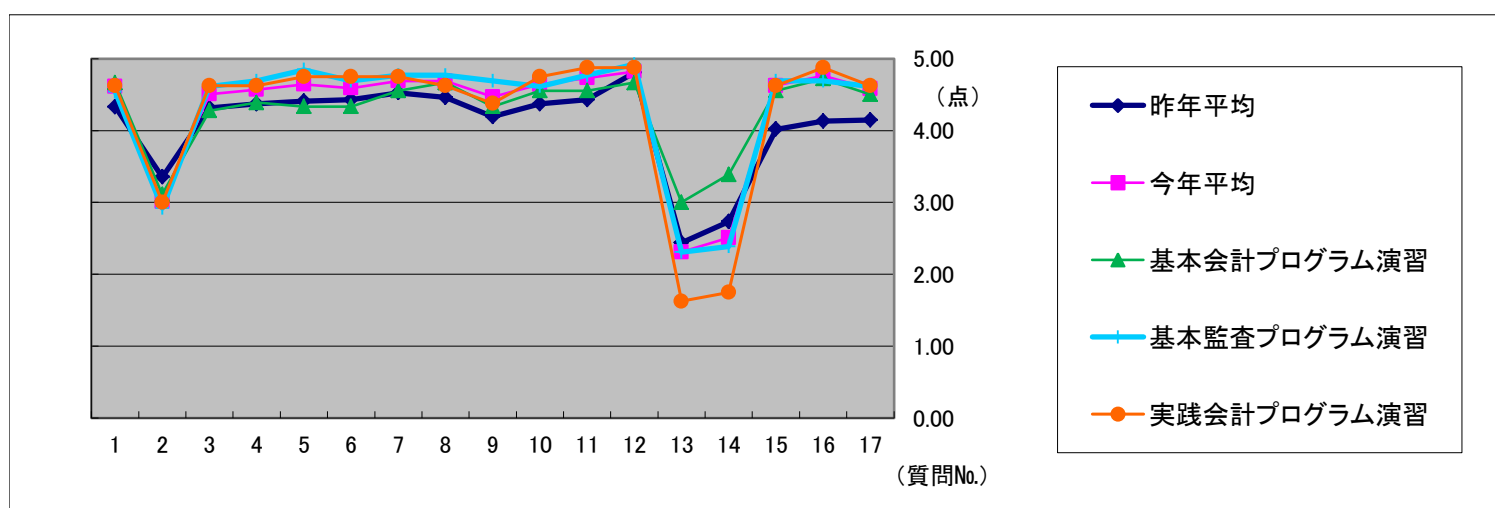
公会計・監査の領域は毎年度履修生が少ない。今年度は公会計論に外国人が集中したことが指摘できる。来年度も、履修生に合わせた対応が必要であるし、人数から言っても対応可能に思える。

系： 経済・IT

受講者数： 43

回答者数： 39

質問No.	昨年平均	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	実践会計プログラム演習
1	4.33	4.61	4.67	4.54	4.63
2	3.35	3.01	3.11	2.92	3.00
3	4.32	4.51	4.28	4.62	4.63
4	4.37	4.57	4.39	4.69	4.63
5	4.41	4.64	4.33	4.85	4.75
6	4.43	4.59	4.33	4.69	4.75
7	4.53	4.69	4.56	4.77	4.75
8	4.46	4.69	4.67	4.77	4.63
9	4.19	4.47	4.33	4.69	4.38
10	4.37	4.64	4.56	4.62	4.75
11	4.43	4.73	4.56	4.77	4.88
12	4.81	4.82	4.67	4.92	4.88
13	2.44	2.31	3.00	2.31	1.63
14	2.73	2.51	3.39	2.38	1.75
15	4.02	4.62	4.56	4.69	4.63
16	4.13	4.76	4.72	4.69	4.88
17	4.14	4.58	4.50	4.62	4.63
回答者数	41	39	18	13	8



受講生の傾向

すべての科目でほとんどの受講生が真摯に受講していると思われる。アンケート結果からは、受講生の傾向が、科目によってバラツキがあるように思われる。学習の進度が影響している科目があれば、留学生の受講比率が影響している科目もあるようである。また、予習・復習に当てる時間が昨年度より減少している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各科目に内容や特性に応じて、学生の理解度が高まるよう工夫している。具体的には、理解のためのポイントを説明したり、資料の配布や演習データの配布を行っている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

実践系の科目であることから、受講生が内容を理解するだけでなく、実務を意識して、講義に積極的に参加できるよう、講義資料や演習課題に工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

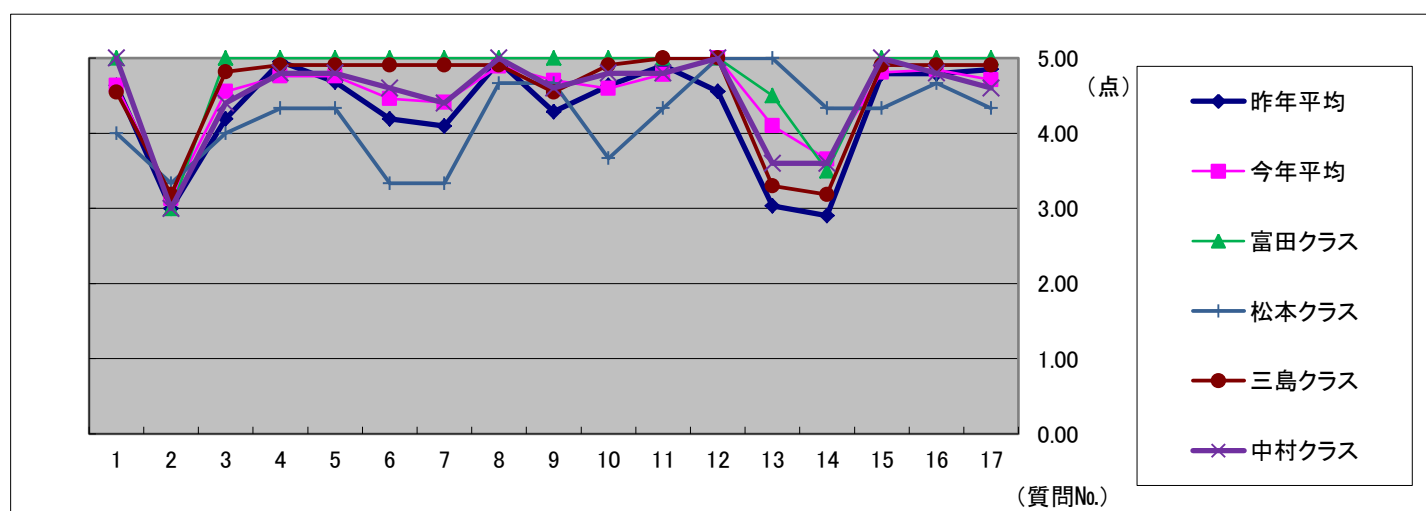
昨年度の「今後の対応」を継続し、積極的に受講生が学習し、受講するような工夫を講じつつ、受講生の理解度に応じて適宜追加的な指導(講義内容)を実施するつもりである。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・アカデミック)

受講者数: 23

回答者数: 21

質問No.	昨年平均	今年平均	富田クラス	松本クラス	三島クラス	中村クラス
1	4.63	4.64	5.00	4.00	4.55	5.00
2	3.00	3.13	3.00	3.33	3.18	3.00
3	4.19	4.55	5.00	4.00	4.82	4.40
4	4.95	4.76	5.00	4.33	4.91	4.80
5	4.68	4.76	5.00	4.33	4.91	4.80
6	4.19	4.46	5.00	3.33	4.91	4.60
7	4.10	4.41	5.00	3.33	4.91	4.40
8	4.95	4.89	5.00	4.67	4.91	5.00
9	4.29	4.70	5.00	4.67	4.55	4.60
10	4.63	4.59	5.00	3.67	4.91	4.80
11	4.90	4.78	5.00	4.33	5.00	4.80
12	4.56	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.03	4.10	4.50	5.00	3.30	3.60
14	2.90	3.65	3.50	4.33	3.18	3.60
15	4.79	4.81	5.00	4.33	4.91	5.00
16	4.79	4.84	5.00	4.67	4.91	4.80
17	4.85	4.71	5.00	4.33	4.91	4.60
回答者数	22	21	2	3	11	5



受講生の傾向

平均値でみると、全体的に昨年よりポイントの高い項目が多い。出席状況も高く、予習・復習の時間(質問13、14)も確保されている。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

特定のクラス(松本クラス)でポイントの低い項目が多く見受けられるが、教員の指導方法や授業の進め方、受講生の学力やモチベーションによるところもあるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

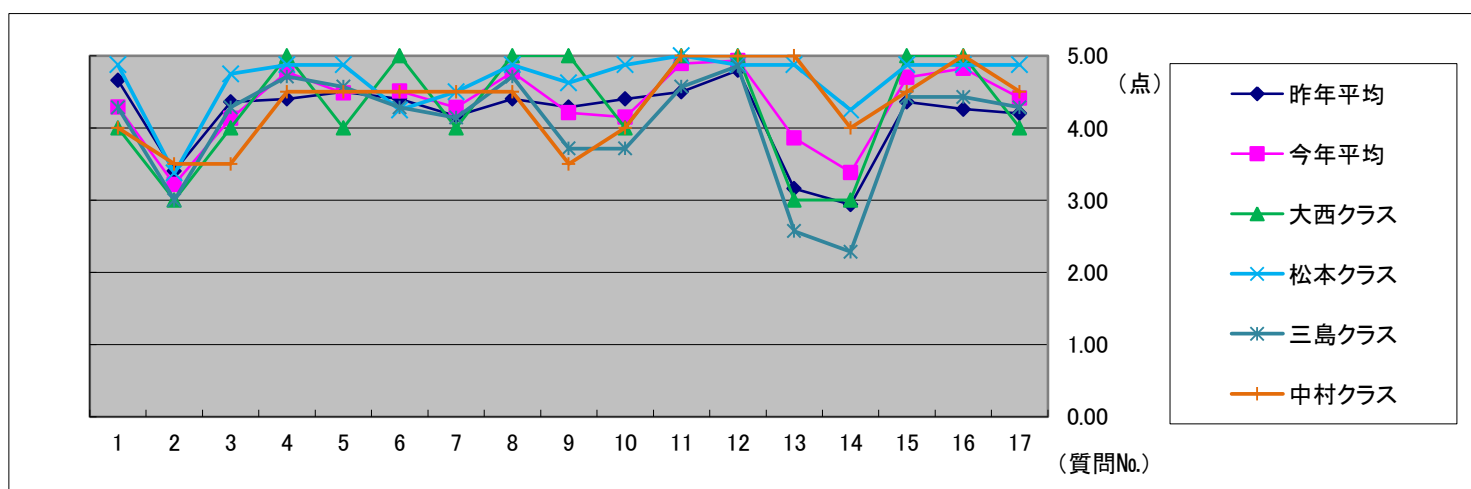
受講生ごとに学力差があり、ニーズも異なる。その点に留意しながら、演習の内容や授業の進め方を工夫し、対応していく必要がある。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・プロフェッショナル)

受講者数: 18

回答者数: 18

質問No.	昨年平均	今年平均	大西クラス	松本クラス	三島クラス	中村クラス
1	4.66	4.29	4.00	4.88	4.29	4.00
2	3.40	3.22	3.00	3.38	3.00	3.50
3	4.36	4.13	4.00	4.75	4.29	3.50
4	4.40	4.77	5.00	4.88	4.71	4.50
5	4.50	4.49	4.00	4.88	4.57	4.50
6	4.40	4.51	5.00	4.25	4.29	4.50
7	4.17	4.29	4.00	4.50	4.14	4.50
8	4.40	4.77	5.00	4.88	4.71	4.50
9	4.29	4.21	5.00	4.63	3.71	3.50
10	4.40	4.15	4.00	4.88	3.71	4.00
11	4.50	4.89	5.00	5.00	4.57	5.00
12	4.80	4.93	5.00	4.88	4.86	5.00
13	3.16	3.86	3.00	4.88	2.57	5.00
14	2.94	3.38	3.00	4.25	2.29	4.00
15	4.36	4.70	5.00	4.88	4.43	4.50
16	4.26	4.83	5.00	4.88	4.43	5.00
17	4.20	4.42	4.00	4.88	4.29	4.50
回答者数	12	18	1	8	7	2



受講生の傾向

平均値で見ると、全体的に昨年よりポイントの高い項目が多い。出席状況も高く、予習・復習の時間(質問13、14)も確保されている。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

どのクラスも概ね同様の結果となっているが、予習・復習の時間(質問13、14)についてクラスごとにばらつきが目立つ。しかし、教員の指導方法や授業の進め方、受講生の学力やモチベーションによるところもあるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

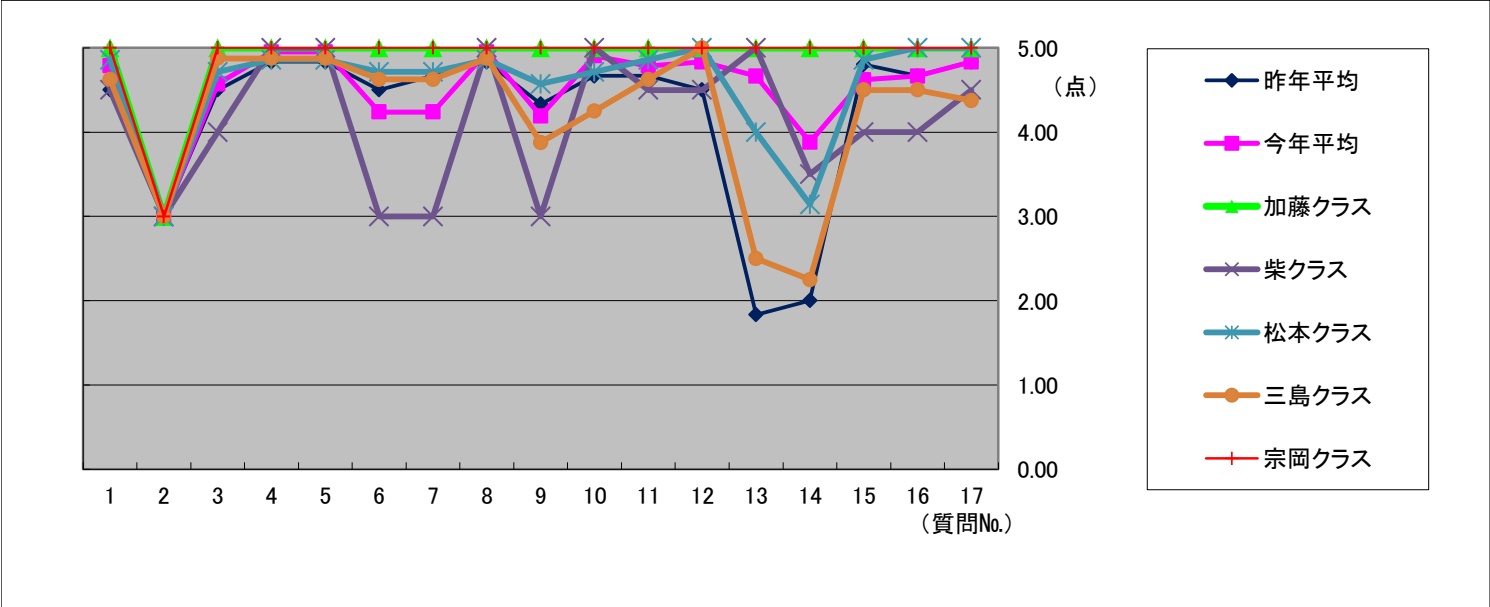
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生ごとに学力差があり、ニーズも異なる。その点に留意しながら、演習の内容や授業の進め方を工夫し、対応していく必要がある。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・エキスパートイズ)
受講者数: 19 回答者数: 19

質問No.	昨年平均	今年平均	加藤クラス	柴クラス	松本クラス	三島クラス	宗岡クラス
1	4.50	4.79	5.00	4.50	4.86	4.63	5.00
2	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.50	4.57	5.00	4.00	4.71	4.88	5.00
4	4.83	4.95	5.00	5.00	4.86	4.88	5.00
5	4.83	4.95	5.00	5.00	4.86	4.88	5.00
6	4.50	4.24	5.00	3.00	4.71	4.63	5.00
7	4.67	4.24	5.00	3.00	4.71	4.63	5.00
8	4.83	4.95	5.00	5.00	4.86	4.88	5.00
9	4.33	4.19	5.00	3.00	4.57	3.88	5.00
10	4.67	4.90	5.00	5.00	4.71	4.25	5.00
11	4.67	4.79	5.00	4.50	4.86	4.63	5.00
12	4.50	4.83	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00
13	1.83	4.67	5.00	5.00	4.00	2.50	5.00
14	2.00	3.88	5.00	3.50	3.14	2.25	5.00
15	4.80	4.62	5.00	4.00	4.86	4.50	5.00
16	4.67	4.67	5.00	4.00	5.00	4.50	5.00
17	4.83	4.83	5.00	4.50	5.00	4.38	5.00
回答者数	6	19	1	2	7	8	1



受講生の傾向

昨年は1クラスであったが、今年は5クラスである。データのサンプル数が大きく異なるので、両者を単純に比較することは適当ではないが、平均値で見ると、全体的に昨年よりポイントの高い項目が多い。出席状況も高く、予習・復習の時間(質問13、14)も確保されている。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習・復習の時間(質問13、14)について、特定のクラス(三島クラス)が他のクラスよりも著しく低いポイントになっている。また、教科書・配布資料や宿題等(質問6、7、9)について、特定のクラス(柴クラス)が他のクラスよりも著しく低いポイントになっている。しかし、教員の指導方法や授業の進め方、受講生の学力やモチベーションによるところもあるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

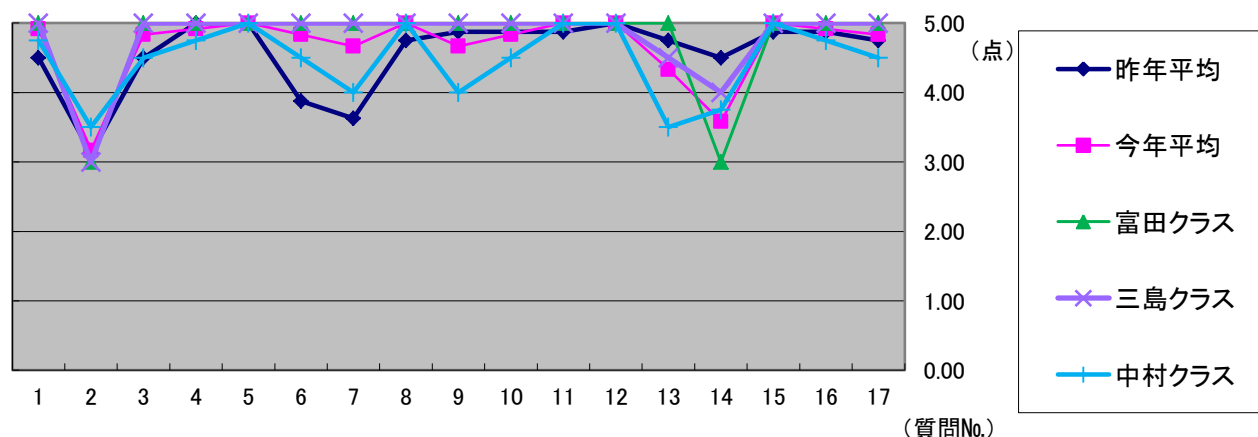
受講生ごとに学力差があり、ニーズも異なる。その点に留意しながら、演習の内容や授業の進め方を工夫し、対応していく必要がある。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(論文指導・修士論文(基礎))

受講者数: 8

回答者数: 7

質問No.	昨年平均	今年平均	富田クラス	三島クラス	中村クラス
1	4.50	4.92	5.00	5.00	4.75
2	3.13	3.17	3.00	3.00	3.50
3	4.50	4.83	5.00	5.00	4.50
4	5.00	4.92	5.00	5.00	4.75
5	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
6	3.88	4.83	5.00	5.00	4.50
7	3.63	4.67	5.00	5.00	4.00
8	4.75	5.00	5.00	5.00	5.00
9	4.88	4.67	5.00	5.00	4.00
10	4.88	4.83	5.00	5.00	4.50
11	4.88	5.00	5.00	5.00	5.00
12	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	4.75	4.33	5.00	4.50	3.50
14	4.50	3.58	3.00	4.00	3.75
15	4.88	5.00	5.00	5.00	5.00
16	4.88	4.92	5.00	5.00	4.75
17	4.75	4.83	5.00	5.00	4.50
回答者数	5	7	1	2	4



受講生の傾向

平均値でみると、全体的に昨年よりポイントの高い項目が多い。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。しかし、予習・復習の時間(質問13、14)は、昨年よりポイントが低くなっている。この科目の内容からして、予習・復習は受講生自らが積極的に行うべきものであるが、その点に限っていえば、今年は昨年に比べて、受講生の修論執筆に向けた心構えや積極性に物足りなさを感じる結果となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目は修論執筆に向けた個別指導であり、通常の講義とは異なる。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、ポイントが低い項目について直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。また、受講生個人の資質や学習意欲、勉強スタイルによるところが大きいことにも留意する必要がある。詳細は、各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

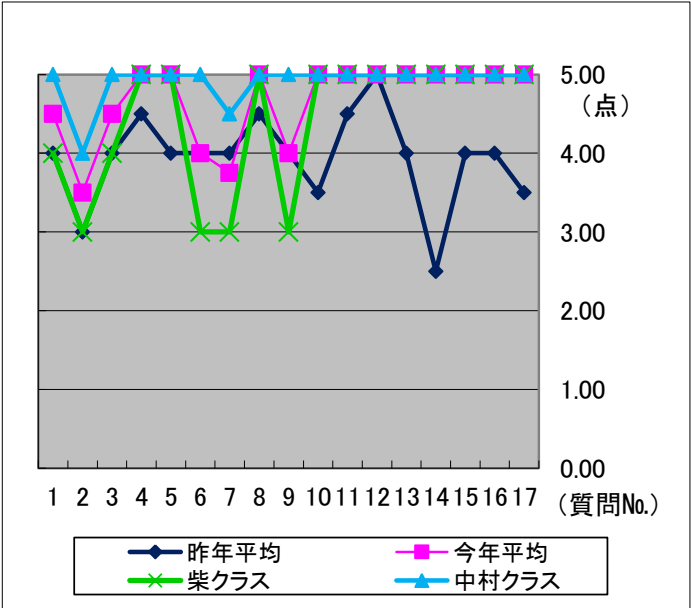
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生ごとに学力差もあるし、学術論文を執筆することにも得手不得手がある。その点に留意しながら、演習の内容や授業の進め方を工夫し、対応していく必要がある。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

系:個別演習科目(論文指導・修士論文(実践))
受講者数: 3 回答者数: 3

質問No.	昨年平均	今年平均	柴クラス	中村クラス
1	4.00	4.50	4.00	5.00
2	3.00	3.50	3.00	4.00
3	4.00	4.50	4.00	5.00
4	4.50	5.00	5.00	5.00
5	4.00	5.00	5.00	5.00
6	4.00	4.00	3.00	5.00
7	4.00	3.75	3.00	4.50
8	4.50	5.00	5.00	5.00
9	4.00	4.00	3.00	5.00
10	3.50	5.00	5.00	5.00
11	4.50	5.00	5.00	5.00
12	5.00	5.00	5.00	5.00
13	4.00	5.00	5.00	5.00
14	2.50	5.00	5.00	5.00
15	4.00	5.00	5.00	5.00
16	4.00	5.00	5.00	5.00
17	3.50	5.00	5.00	5.00
回答者数	2	3	1	2



受講生の傾向

平均値でみると、全体的に昨年よりポイントの高い項目が多い。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。とくに、予習・復習の時間(質問13、14)は、昨年よりポイントが極めて高くなっている。この科目の内容からして、予習・復習は受講生自らが積極的に行うべきものであるが、その点に限っていえば、今年は昨年に比べて、受講生と教員の努力・熱意がうまく合致していたと考えてよい。全体的にみても、受講生の修論執筆に向けた意欲の高さが分かる結果となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目は修論執筆に向けた個別指導であり、通常の講義とは異なる。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、ポイントが低い項目について直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。また、受講生個人の資質や学習意欲、勉強スタイルによるところが大きいことにも留意する必要がある。詳細は、各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

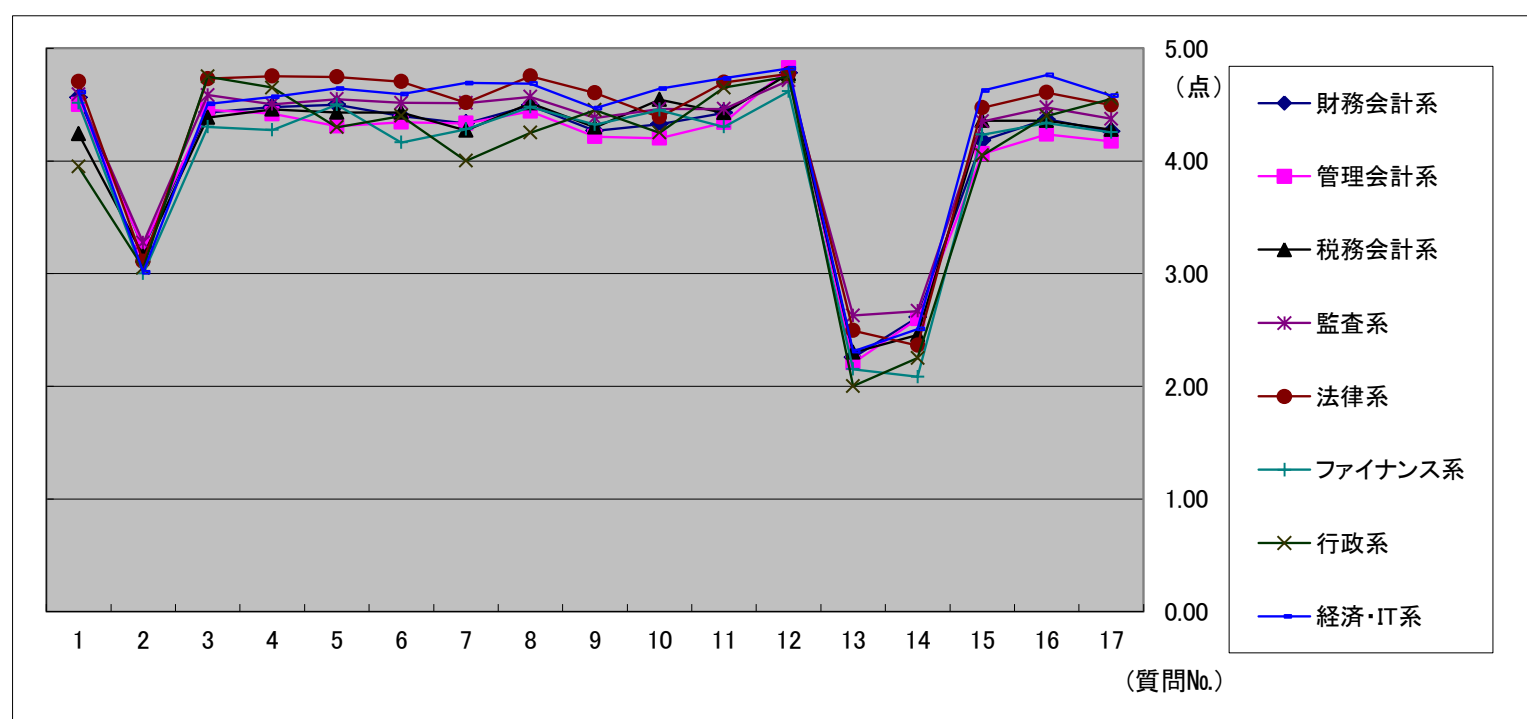
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生ごとに学力差もあるし、学術論文を執筆することにも得手不得手がある。その点に留意しながら、演習の内容や授業の進め方を工夫し、対応していく必要がある。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	行政系	経済・IT系
1	4.56	4.50	4.24	4.59	4.71	—	4.51	3.95	4.61
2	3.23	3.24	3.16	3.27	3.11	—	3.00	3.05	3.01
3	4.43	4.46	4.38	4.58	4.73	—	4.30	4.75	4.51
4	4.48	4.42	4.46	4.50	4.75	—	4.27	4.65	4.57
5	4.50	4.31	4.43	4.55	4.74	—	4.50	4.30	4.64
6	4.40	4.34	4.43	4.51	4.71	—	4.16	4.40	4.59
7	4.33	4.33	4.27	4.51	4.52	—	4.28	4.00	4.69
8	4.49	4.44	4.51	4.57	4.75	—	4.48	4.25	4.69
9	4.27	4.22	4.30	4.38	4.60	—	4.32	4.45	4.47
10	4.33	4.20	4.54	4.46	4.39	—	4.45	4.25	4.64
11	4.43	4.34	4.43	4.46	4.70	—	4.30	4.65	4.73
12	4.78	4.83	4.77	4.72	4.77	—	4.62	4.75	4.82
13	2.25	2.21	2.30	2.63	2.49	—	2.15	2.00	2.31
14	2.61	2.60	2.45	2.67	2.36	—	2.08	2.25	2.51
15	4.18	4.06	4.36	4.35	4.47	—	4.23	4.05	4.62
16	4.37	4.24	4.36	4.48	4.61	—	4.34	4.40	4.76
17	4.26	4.17	4.28	4.37	4.50	—	4.25	4.55	4.58
回答者数	250	92	32	167	121	—	30	12	39



受講生の傾向

本年度は、2018年度からの入学定員である40名を1年生及び2年生ともに超えており、ここ近年に比べて受講生は多くなった。受講生の傾向としては、すべての科目において出席状況は良いようであり、授業への参加意欲は高い。また、授業の進め方や教員の授業の準備・学生対応などは、おおそ高い評価を得ているようである。しかしながら、授業の予習・復習については、全体的に双方ともにあまり実施されていないようである。授業に関しては、予習することでその理解を助け、復習によって自らの実力となるものである。たとえ熱心に授業に参加していても、授業内容はその場の理解だけでは身につけるには困難である。受講生には、授業への参加と予習・復習とは一体であるという認識を持ってもらうことが重要である。

今後の対応

全体的に、各科目における教員の工夫や努力の結果として、科目・項目ごとに評価が良くなっているところが多く見られた。これらの教員による工夫や努力により、今後一層高い教育効果が得られ満足度の高い教育となっていくと思われるので、これまでの工夫や努力を継続した場合には刷新して、教育を行っていく必要がある。また、上記のように、多くの科目・教員において、予習・復習は足りていないと感じられているようであるから、学生の予習・復習を促すような授業を行うことも必要である。普段から特に指示がなくても予習・復習ができるようにすることが理想ではあるが、当面はその指導の中で、課題の提示や小テストの実施などが必要であろう。

Ⅲ. 2017 年度授業評価アンケートフォーム

2017 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。なお、このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

授業科目	担任者	クラス
NO 質問内容 回答		
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

— 以上 —

授業担任者に提出してください。ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

2017 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2017 年 4 月 4 日(火)開催]

◇中央大学大学院フェロー／IFRS 財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計人材への道」

■客員教授講演会

[2017 年 8 月 3 日(木)開催]

◇野村ホールディングス(株)社外取締役監査委員長、元住友商事株式会社副社長

島崎憲明氏(客員教授)

演題「企業の持続的成長と内部統制～経理部長・CFO・社外取締役の果たす役割～」

■客員教授講演会

[2017 年 10 月 25 日(水)開催]

◇東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「激動の世界と日本経済」

■客員教授講演会

[2017 年 11 月 22 日(水)開催]

◇明治学院大学名誉教授、金融庁/元公認会計士・監査審査会常勤委員、前企業会計審議会委員・監査部会長

脇田良一氏(客員教授)

演題「監査法人のガバナンス・コード」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2018 年 3 月 24 日(土)開催]

◇あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

後藤研了氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

藤沼亜起 客員教授講演会

中央大学大学院フェロー、IFRS財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長
～目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計人材への道～

会計専門職大学院では、2017 年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、中央大学大学院フェロー、IFRS 財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。

多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：2017 年 4 月 4 日（火）
13：30～15：00
- 場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館4階 C403 教室
- 演題：目指そう・挑戦しよう
将来性のある会計人材への道
- 対象：会計研究科新入生・在学生、
幅広い分野で活躍する会計プロ
の道に興味のある学部生
- 事前申込は不要**です。

<会場案内図>



第2学舎2号館
4階 C403教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

島崎 憲明 客員教授講演会

野村ホールディングス(株)社外取締役監査委員長、
元 住友商事株式会社 副社長

企業の持続的成長と内部統制

～経理部長・CFO・社外取締役の果たす役割～

住友商事株式会社 元副社長の島崎憲明客員教授をお招きし、講演会を開催します。現役で活躍されている社会人の方をはじめとして、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■ 日 時：2017年 **8月3日(木)**

19:00～20:30

■ 場 所：関西大学 **梅田** キャンパス

6階 601 R

(阪急梅田駅徒歩5分、大阪市北区鶴野町1-5)



<会場案内図>



梅田キャンパス1階正面入口

聴講
無料

講師 **島崎憲明 氏**

野村ホールディングス(株)
社外取締役監査委員長

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail: kaikai@ml.kandai.jp

竹中平蔵 客員教授講演会

東洋大学教授、慶應義塾大学名誉教授

～激動の世界と日本経済～

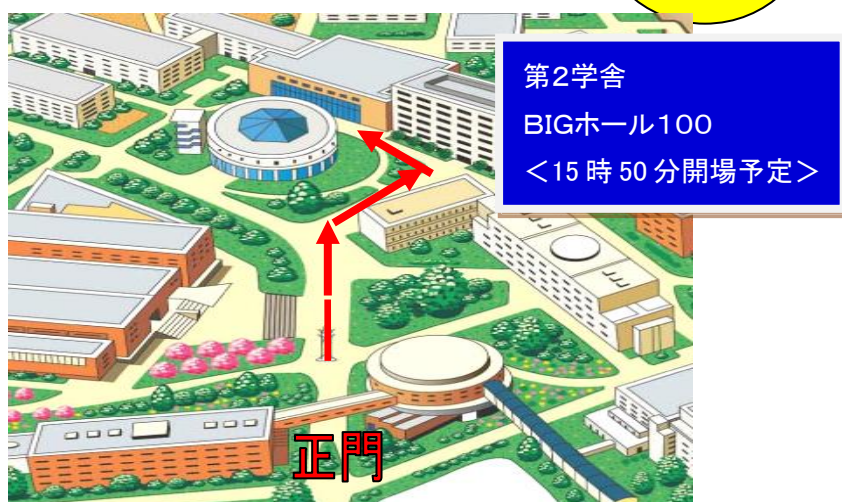
元国務大臣で、総務大臣や郵政民営化担当大臣等を歴任された竹中平蔵客員教授をお招きし、講演会を開催します。学生、教職員はもちろんのこと、学外一般の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2017年 **10月25日**（水）
16:20～17:50（5時限目）

■場所：**千里山**キャンパス
第2学舎 BIG ホール 100
※事前申込不要

聴講
無料

<会場案内図>



講師 竹中平蔵 氏

関西大学客員教授

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail: kaikai@ml.kandai.jp

主催：関西大学 会計専門職大学院

脇田良一 客員教授講演会

明治学院大学名誉教授、金融庁/元公認会計士・監査
審査会常勤委員、前企業会計審議会委員・監査部会長

～監査法人のガバナンス・コード～

会計専門職大学院では、明治学院大学名誉教授、元公認会計士・監査審査会常勤委員、前企業会計審議会委員・監査部会長の脇田良一客員教授をお招きし、講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2017年 **11** 月 **22** 日(水)
13:00～14:30 (3時限目)

■場所：**千里山**キャンパス
第2学舎2号館5階 C505

■**聴講自由・事前申込は不要**です。



講師 脇田良一 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail : kaikai@ml.kandai.jp

後藤研了 客員教授講演会

あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

会計専門職大学院では、2018 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人 大阪事務所長の後藤研了客員教授をお招きし、講演会を開催します。

公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2018 年 3 月 24 日（土）

15：00～16：30

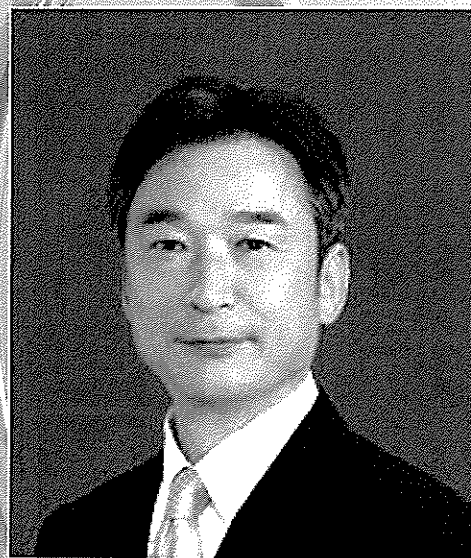
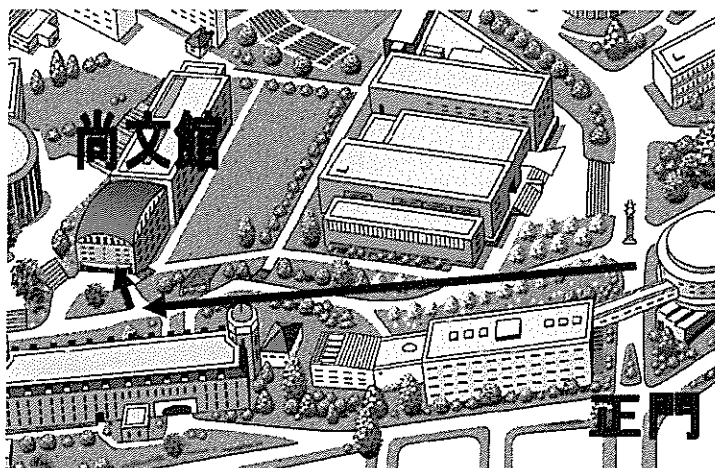
■場所：尚文館 5 階 501 講義室

■演題：監査を取り巻く環境変化と
求められる人材

■対象：会計研究科入学予定者・在学生
公認会計士を目指す学部生

■事前申込は不要です。

<会場案内図>



講師 後藤研了 氏
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代表)
E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248